

24  
平成 年度

こどもの城  
事業手報

公益財団法人 児童育成協会

平成 **24** 年度

**子どもの城**

**事業年報  
事業年報**

# 平成 24 年度 こどもの城 事業年報

## 1 事業の概要

- 7 平成 24 年度の活動 .....はじめに／経営理念と運営方針／本年度の主な取り組み／[こどもの城]の閉館について／公益目的事業 1 健全育成事業／公益目的事業 2 芸術文化事業／収益目的事業 1 貸室販売事業／開館時間・入館料(こども活動エリア)／施設・組織機構など
- 18 平成 24 年度活動一覧表 .....来館児・者数／グループ活動実施状況／視察・見学実績／[こどもの城]の付帯事業

## 2 から全国へ こどもの城

### こどもの城から全国へ

- 23 平成 24 年度の活動 .....事業の方針／事業の概要(国庫補助による事業)／その他の活動／まとめ
- 26 平成 24 年度活動一覧表 .....〈動くこどもの城〉(派遣プログラム)ほか

## 3 各部の事業

### 事業企画部

- 31 平成 24 年度の活動 .....事業の方針／事業の概要(企画研修)／事業の概要(広報)／事業の概要(総合案内)／まとめ
- 37 平成 24 年度活動一覧表 .....一般利用／ボランティアの活動／広報活動／講座・クラブなど

### 体育事業部

- 45 平成 24 年度の活動 .....事業の方針／事業の概要／スポーツ遊びプログラム／まとめ
- 48 平成 24 年度活動一覧表 .....一般利用／講座・クラブなど

### プレイ課

- 53 平成 24 年度の活動 .....事業の方針／事業の概要／まとめ
- 56 平成 24 年度活動一覧表 .....一般利用／講座・クラブなど

### 造形課

- 61 平成 24 年度の活動 .....事業の方針／事業の概要／素材との出会い展 紙と造形～ペーパーマーケット～／まとめ
- 64 平成 24 年度活動一覧表 .....一般利用／講座・クラブなど／プログラム一覧

# 平成 24 年度 こどもの城 事業年報

3  
各  
部  
の  
事  
業

## 音楽課

- 69 平成 24 年度の活動 ..... 事業の方針／事業の概要／まとめ  
72 平成 24 年度活動一覧表 ..... 一般利用／講座・クラブなど／その他

## 映像科学課

- 79 平成 24 年度の活動 ..... 事業の方針／事業の概要／まとめ  
83 平成 24 年度活動一覧表 ..... 一般利用／講座・クラブなど／その他／  
プログラム一覧

## 保育研究開発部

- 87 平成 24 年度の活動 ..... 事業の方針／事業の概要／まとめ  
91 平成 24 年度活動一覧表 ..... 一般利用／講座・クラブなど／その他

## 小児保健部

- 93 平成 24 年度の活動 ..... 事業の方針／事業の概要／まとめ  
96 平成 24 年度活動一覧表 ..... 一般利用／講座・クラブなど

## 劇場事業本部

- 99 平成 24 年度の活動 ..... 事業の方針／事業の概要／主な自主・提携公演／  
まとめ  
107 平成 24 年度公演演目一覧表 ..... 青山劇場／青山円形劇場／その他

## 経営企画部

- 111 平成 24 年度の活動 ..... 事業の方針／事業の概要／まとめ

# 1

## 事業の概要

# 事業の概要



赤ちゃん大集合 あそんでパブリン

## 平成 24 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

財団法人児童育成協会は、国立総合児童センター〔子どもの城〕の運営などをとおして、児童の健全育成、資質向上に資するための各種事業を全国に向けて推進してきた。

本年度は、〔子どもの城〕の〈センター機能〉の充実をめざし、「児童館ガイドライン」を意識した事業目標の設定と〔子どもの城〕および児童館の価値を社会に伝える情報発信の強化を基本方針とした。同時に、柔軟で効率的な事業計画・運営を重要方針とし、さらに東日本大震災以降の社会状況を考慮し、より安全に配慮した施設運営をめざした。

効率的で総合的な運営が求められる中、専門分野ごとに分かれている「子ども活動エリア」のプレイ、造形、音楽、AV の 4 つの事業部をそれぞれ課とし、全体を事業推進部として統合、より横断的な取り組みができるようにした。また組織改編に伴い AV 事業部を映像科学課と名称変更した。

本年度から、児童館・放課後児童クラブの指定管理受託に向け、具体的な取り組みを始めた。これは職員が長年〔子どもの城〕の運営で培った児童健全育成に関する理念、知識、技術を継承・発展させ、地域に根ざした先駆的な児童館の運営のあり方を社会に発信していくことを目的としたものである。

なお、当協会は、公益法人制度改革に対応し準備を進めてきたが、内閣府より平成 24 年 9 月 24 日付けで認定され、平成 24 年 10 月 1 日より公益財団法人に移行した。

### □□□ 公益財団法人 児童育成協会の経営理念と運営方針 □□□

#### ■■■ 経営理念 ■■■

公益財団法人児童育成協会は児童福祉法の理念に基づき、児童の健全な育成および資質の向上ならびに文化および芸術の振興に寄与することを目的に下記の経営理念を掲げ、事業を運営する。

- 「子どもは歴史の希望である」という基本理念に基づき、子どもたちの最善の利益をめざした活動を行う。
- 全国の児童館をはじめとした児童健全育成事業の普及および発展に努める。
- 児童健全育成にかんする施設の運営をとおして、直接的な児童、保護者への遊びを通じた育ちの

支援を行うとともに、そこで開発されたプログラムの発信、普及を行う。

- 児童健全育成に従事する専門職、ボランティア等への研修をはじめとした人材育成を行う。
- 児童福祉施設における給食の充実のための事業を行う。

## ■■■ 運営方針 ■■■

### 【協会本部の運営方針】

協会本部組織の安定的、永続的な運営のために以下の方針を定める。

- 公益財団法人として社会的信頼性のある組織であるために、その運営体制、財務状況を常に把握し、組織の健全な運営をめざす。
- 職員 1 人 1 人が安心かつ意欲的、積極的に業務を行えるよう労務環境づくりを行い、また職員研修を積極的に行い、資質の高い職員の育成、確保に努める。
- 公益財団法人として公益性を發揮するためには、健全な経営の確保が不可欠であり、公益に資する事業活動を通じて収益を確保し、あわせて経費の削減に努める。

### 【事業の運営方針】

- 「すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない」という児童福祉法の理念に沿い、公平性、平等性に配慮した事業運営をめざす。また、不登校、虐待、発達障害など今日的福祉課題に正面から向き合い、配慮が必要な子どもたちに充分に対応できるような運営を行う。
- 障害の有無にかかわらず、子どもが自分らしく生活・活動できるよう地域の協力を得て、共生の社会をめざす。
- 子どもが自由に遊べ、自由に表現でき、自由に意見表明できる、子どもたちの居場所となるよう努力とともに、子どもたちが施設の活動に参画できるようにする。
- 地域との連携を深め、地域ニーズの発掘を行い、地域と共に育つ、児童健全育成事業の拠点となる施設運営をめざす。
- 子どもたちがのびのびと自由に遊べる安心・安全な施設として、事故の予防や、事故への適切な対応が行える危機管理体制を整える。
- 災害時においても、安心安全な施設運営を可能にするため、地域と連携した防災対策に取り組む。
- 利用者からの要望やクレームは、施設への期待の表れとして真摯に受け止め、ただちに改善策を取りまとめる。また、こうした指摘がスムーズに職員に届くよう、日頃からの利用者との関係づくりに取り組むとともに、そのシステムづくりを行う。
- 子どもたちの未来のために、環境保全と調和のとれた活動によって社会に貢献する。廃棄物の減量と適性な処置、来館者に対するエコロジーにかんする啓発事業、子どもたちへの環境教育を積極的に取り入れる。
- ホスピタリティあふれる対応を心掛け、いつでも子どもたちや保護者の方や地域の方々が安心して来館できるように、笑顔があふれる児童館をめざす。

(平成 24 年 10 月 1 日改訂)

## □□□ 本年度の主な取り組み □□□

【こどもの城】は、体育・プレイ・造形・音楽・映像科学・保育・小児保健・劇場など、さまざまな部門を総合的に機能させ、来館する子どもや家族に向けた〈あそび〉のプログラムを実践している。とくに時代や社会環境の変化のなかで生じる、子どもを取り巻くさまざまな課題へも積極的に取り組んだ。さらに社会に向けて、児童の健全育成や子育て支援に資する活動や情報を広く発信した。本年度の主な取り組みは次のとおり。

## ■■■ 子どもを取り巻く課題に応える活動 ■■■

### 【子どもの健全育成のためのプログラム】

【こどもの城】の提供するプログラムは、子どもの心身の健康を増進し、知的・社会的な適応能力を高め、情操を豊かにすることを目的にし、子ども自身の興味・関心に沿って自由に選択し参加体験することができる。子どもがより能動的に活動できるように、楽しい〈あそび〉となるように

工夫し、子ども同士の相互作用のなかで、学び合い育ち合うことも大切にしながら、年間をとおしてプログラムを実施した。

#### **【子どもの運動不足・体力の低下への対応】**

【子どもの城】では、幼児や親子で楽しめる体育部門の〈スポーツ遊び〉プログラムをはじめ、水泳や体操の講座、親子の体操プログラムなどをとおして、子どものスポーツの機会増進に幅広く対応した。

#### **【理科離れや直接体験不足への対応】**

幼児から参加できる科学遊びプログラム「みなくる工房」や、「小学生ラボ」など、科学遊びのプログラムを継続的に実施した。また、さまざまな実体験から、学びや発見につなげるプログラム「ハンズオン広場」や、自然体験、集団生活体験を楽しむ野外活動を実施した。

#### **【障害児への対応プログラム】**

日頃から多くの障害児が【子どもの城】を利用している。体育部門の「手足の不自由な子の水泳」、音楽部門の「ダウン症児のための楽しいリトミック」の講座や、特別支援学級・学校をグループ活動で受け入れた。また小児保健部門では「ダウン症療育相談」を行った。

#### **【肥満児への対応プログラム】**

体育部門と小児保健部門との共同事業「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」を実施。

#### **【児童虐待防止の啓発活動】**

オレンジリボン運動への参加、「児童虐待防止月間」のポスター掲示などをとおして啓発活動を行った。

### ■■■ ワーク・ライフ・バランス推進へ向けた取り組み ■■■

就労の有無にかかわらず、子育てが楽しくできるようにという視点からのワーク・ライフ・バランスの推進のため、【子どもの城】では〈子育て支援〉の側面から以下の取り組みを行った。

#### **【父親の育児参加の推進】**

東京近郊の父親サークルの集い「お父さんのあそび市」の実施と父親の子育て情報誌「ダディーズタイムス」の発行による啓発活動。また、通常のプログラムの中でも、とくに体育部門の「親子の体操」や保育部門の「おやこクラブ」には、多くの父親と子どもが参加した。

#### **【家族参加の推進】**

家族の共有体験をすすめるため、プレイ部門による家族向け遊びのプログラム「ファミリープレイタイム」、保育部門の「親子工房」を実施。また造形部門による「親子体験ワークショップ」の実施と、常設の「親子コーナー」でのプログラム運営を行った。

#### **【乳幼児の子育て支援活動】**

小児保健部門による「マタニティー・コンサート」「マタニティー・スイミング」「赤ちゃんサロン」「赤ちゃんといっしょの子育て学習会」の実施。また乳幼児広場事業「0・1・2歳のぽかぽか広場」を大幅に拡充し常設化した。

#### **【利用者ニーズに即した保育の実践】**

保育部門において、就労の有無にとらわれず、多様な子育てに対応した子育て支援プログラム「児童グループ」「保育クラブ」を継続して実施した。

### ■■■ 東日本大震災復興支援事業 ■■■

本年度も東日本大震災被災地の子どもたちとその家族を対象とした復興支援事業に、積極的に取り組んだ。全国275館の児童館と連携した被災地を応援する活動「児童館こいのぼりがいっぱいプロジェクト」をはじめ、東日本大震災支援センターと連携し、首都圏へ県外避難している子育て世帯への支援活動を行った。また福島県郡山市、宮城県気仙沼市へ支援のための職員を派遣した。

### ■■■ 人材育成事業 ■■■

児童健全育成活動や子育て支援活動の普及、推進に努める人材育成事業に積極的に取り組んだ。児童厚生員、放課後児童クラブ指導員などの専門職員向けに、「専門職講習会」を14講座実施、また全国の自治体や団体からの要請に応え、【子どもの城】の各専門分野から158件の「講師派遣」を行った。

「ボランティアの育成」として【子どもの城】で活動するボランティア養成のほか、国庫補助事業においても児童健全育成事業に関するボランティアの養成講座を実施。また大学、専門学校の学生の実習生・研修生や、中学校生徒の職業体験を積極的に受け入れた。

### ■■■ 地域との連携活動 ■■■

東京都の各自治体や企業、団体などが連携して実施する子育て支援関連のイベント「子供未来うきょうメッセ」への参加や、渋谷・恵比寿・原宿地区 20 施設の企業・文化施設のネットワーク「あ・ら・かるちゃー渋谷恵比寿原宿」との共同プログラムの実施。また赤坂・青山地域 20 施設のネットワーク「共育情報局」、「表参道キッズわくわくプロジェクト」への参加など、地域との連携活動に積極的に参加した。

### ■■■ 【子どもの城】から全国へ広がる活動 ■■■

地域の健全育成活動の支援のために、【子どもの城】で開発された“遊びのプログラム”とそのノウハウを、全国各地に伝える「児童館巡回支援活動等事業」（動く子どもの城）を全国 49 か所で実施。また【子どもの城】の活動実践のプログラム集『児童館の活動に活用できる遊びのプログラム 2』および『子どもの城の活動事例集 7 かけをうつそう』（DVD）を作成し、全国の児童健全育成事業の普及・支援に努めた。

## □□□ 【子どもの城】の閉館について □□□

本年度は、国の児童健全育成事業に関する施策に大きな変化があり、当協会の今後の事業運営を左右する年度となった。全国の子育て支援事業、健全育成事業に影響する「子ども・子育て支援法」が 8 月 10 日に成立したことにより、9 月 28 日には厚生労働省から、平成 26 年度末までに【子どもの城】を閉館する方針が発表された。

平成 26 年度末までの【子どもの城】閉館発表を受け、「対策本部」を設置し、閉館までの財政対策、組織体制のあり方、事業の見直し・段階的な事業縮小、職員への支援などの対策を進めた。

【子どもの城】閉館方針発表後の報道など、閉館に対するさまざまな社会の動きに対して、対応方針を作成し協会全体で対応にあたった。これにより、大きな混乱もなく年度当初の計画どおりの事業を運営することができた。なお協会職員に対しては、職員説明会を実施し、【子どもの城】の置かれた内外の状況について、職員の理解を深め、安定した組織運営が行えるようにした。

今後は、【子どもの城】の運営をとおして開発、蓄積されたプログラムや健全育成活動にかかるノウハウの保存・継承についてが、重要な課題である。

## □□□ 公益目的事業 1 健全育成事業 □□□

### ■■■ プログラムの実践事業 ■■■

#### 【来館児・者数】

本年度の「子ども活動エリア」の来館児・者は 329,824 人、劇場利用者 339,856 人、保育、小児保健、講座・クラブ利用者 80,227 人、研修会・会議室や宿泊施設関係の利用者 95,031 人、総推計は 844,938 人となり、前年度比 588 人増となった。「子ども活動エリア」は 3,662 人増、劇場が 3,822 人増、講座・クラブが 6,975 人増、会議室や宿泊施設関係の営業部門が 13,871 人減となっている。

営業部門の減少は主に研修室利用者で、研修室工事の日程の遅れによる休業日数の増が要因と考えられる。

「子ども活動エリア」の利用者は、上期には 4,937 人減だったが、下期の 10 月～12 月に実施した入館者増への取り組みの結果、年間をとおして 3,662 人増加した。

#### 【来館児・者のための活動】

##### ◇来館児・者増への取り組み

事業成果の最大指標である来館児・者数の増加のために、以下の取り組みを行った。本年度は東日本大震災の自粛ムードも緩和され、遠方への旅行・レジャーの需要が高まり、近郊の遊び場所で

ある【子どもの城】の来館児・者減につながると予測された。そのため、①月ごとのテーマ設定とテーマに沿ったプログラムの実施 ②月ごとのちらしと共にポスターによる広報の強化——によって、特別期間だけではなく、平常期間の土・日曜日の来館児・者増にも積極的に取り組んだ。

その結果、6月と9月～12月の5か月間の「子ども活動エリア」の総入館者数は146,891人となり、前年度の134,486人を12,405人上回ることができた。これは、社会状勢と入館者傾向を分析し、計画的な取り組みにより、ねらい通りの効果を得ることができたためといえる。

#### ◇重点目標の設定と各部協力事業の実施

事業の企画・調整・推進機能の強化をはかるために、「子ども活動エリア」の5つの重点目標を設定した。社会的なニーズや、児童健全育成事業の使命や課題を考慮した「乳幼児と親の支援」「父親の子育て参画」「子どもの居場所・意見表明」「屋外・野外遊びの推進」「遊びの価値の情報発信」である。重点目標のうち「乳幼児と親の支援」「父親の子育て参画」「子どもの居場所・意見表明」については、各部の協力により、3つの企画チームを組織し事業を展開した。事業終了後、その成果をまとめ、新規事業実施への準備および児童館におけるプログラム展開のあり方を検証した。

#### ◇特別期間事業計画の設定と評価

年間計画とは別に、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み、春休みの各特別期間ごとに、重点目標、目標入館者数、目標達成のための具体的な取り組み、事業運営における留意点を定めた事業計画を立案した。この事業計画に沿った事業運営と、終了後には共通のフォーマットで各プログラムの評価を行い、今後の計画に生かすようにした。この計画→実行→評価→改善のPDCAサイクルを着実に実施することで、事業計画や運営の精度を高め、効果的、効率的な事業運営をめざした。

#### 【講座・クラブ事業の実施】

児童の知的・社会的能力を高めるとともに、継続的、体系的に【子どもの城】を利用してもらうため、講座・クラブ活動を実施した。本年度の講座・クラブ、短期講座、専門職講習の平均充足率は78.5%で、前年度より2.5%低下した。

また、平成25年2月に平成25年度の講座・クラブの募集を実施したが、充足率は69.4%と、本年度の充足率より約10%低下している。要因として2年後の【子どもの城】閉館が影響していると推測できる。

○講座 … 31種、63コース、受講者数1,352人、充足率88.0%

(前年度31種、63コース、受講者数1,316人、充足率87.6%)

○クラブ … 6種、6コース、受講者数628人、充足率61.0%

(前年度6種、6コース、受講者数681人、充足率63.0%)

○短期講座 … 12種、85コース、受講者数1,032人、充足率83.2%

(前年度14種、95コース、受講者数1,308人、充足率84.6%)

○専門職講習 … 15種、17コース、受講者数592人、充足率81.1%

(前年度14種、19コース、受講者数693人、充足率88.8%)

#### 【グループ活動】

平日の【子どもの城】の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、特別プログラムを実施する「グループ活動」は、本年度119グループ、2,488人（前年度129グループ、2,789人）を受け入れた。

一般来館児対象のプログラムに比べ、団体との事前打ち合わせにより、団体のニーズ把握や対象児童に配慮した個別の対応が可能ため、特別支援学級・学校、インターナショナルスクール、保育所などの継続的に利用する団体からの申し込みが多い。開館以来、【子どもの城】の専門性、独

【来館児・者数（対前年度比較）】			
来館児・者区分	平成24年度実績①	平成23年度実績②	差し引き増減①-②
有料来館者（大人）	129,941	125,052	4,889
有料来館児（子ども）	94,417	95,550	▲1,133
有料来館児・者（団体）	11,879	12,547	▲668
小計（有料来館児・者）	236,237	233,149	3,088
3歳未満児推計	65,047	62,550	2,497
招待者・児	28,540	30,463	▲1,923
「子ども活動エリア」来館児・者	329,824	326,162	3,662
劇場入場者	339,856	336,034	3,822
講座・クラブ受講生	80,227	73,252	6,975
その他の	95,031	108,902	▲13,871
合計	844,938	844,350	588

自性を發揮する事業として発展に努めてきたが、平成 25 年度以降の職員体制などを考慮して、本年度をもって事業を終了した。代わりに、団体の利便性に配慮し、より幅広いニーズに応える事業として、「貸切団体利用」の実施に向けて準備を進めた。

#### 【人材育成に関する事業】

国立総合児童センターの重要な役割である、児童健全育成活動の普及に努める人材育成事業に本年度も積極的に取り組んだ。

##### ◇専門職講習会の実施

児童厚生員、放課後児童クラブ職員、保育士などを対象にした講習会を、小児保健部、保育研究開発部、事業企画部が、それぞれの専門性を生かした内容で、本年度は 14 講座開催した。

##### ◇ボランティアの育成

【子どもの城】で実践される児童健全育成事業の理念や技術を広く市民に伝えることと、【子どもの城】諸事業にボランティアの持つさまざまな能力や独自性を活用することを目的に、ボランティアを育成している。本年度は特に、閉館までの 2 年間を見据え、ボランティアの運営協力体制を強化するための取り組みを行った。

##### ◇実習生・職場体験受け入れ

大学、専門学校等の要請に応じて、【子どもの城】の各事業部の活動内容を研修対象とする実習生、研修生を受け入れた。本年度は実習生 42 人、研修生 7 人を受け入れた。また、主に渋谷区を中心とした中学校からの職場体験への受け入れ要請も多く、年間 25 人の生徒を受け入れた。

#### 【被災地の子どもたちへの遊びを通じた支援事業】

本年度も東日本大震災被災地の子どもたちやその保護者を対象にした支援事業に、精力的に取り組んだ。全国の児童館と連携して実施する「児童館こいのぼりがいっぱいプロジェクト」、東日本大震災中央子ども支援センターとの連携事業を実施した。また福島県郡山市からの要請で、震災後の子どもの心のケアを目的にした郡山市主催の「心と体のリフレッシュ事業」「楽しいリズム・みんなでライブ事業」に、年間延べ 19 人のスタッフを派遣した。

東日本大震災から発生から 2 年目を迎えた本年度も、各団体との連携による支援事業に積極的に取り組んだ。多様化する被災地や被災者のニーズを細やかに聞き取り対応することは、新たな被災者支援事業の創出に連動すると考える。

#### 【国際交流事業】

首都圏のインターナショナルスクール 13 校に通う子どもたちの合同美術展「アートスケープ 2013 (ARTSCAPE 2013)」を実施した。【子どもの城】アトリウムギャラリーに、小学 5 年生 (10 歳)～高校 3 年生 (18 歳) までの生徒たちによる、絵画・版画・写真・陶芸などの作品約 600 点を展示了した。

## ■■■ プログラムの開発・普及・発信事業 ■■■

#### 【児童館巡回支援活動等事業（国庫補助事業）】

児童館を中心とした地域のネットワークを生かし、放課後児童クラブ、子育て支援センター、保育所などさまざまな施設から参加できるよう働きかけ、全国の健全育成事業の活性化をはかった。

前年度に引き続き、国の両立支援施策に沿って、放課後児童クラブへの働きかけに力をいれた。全 47 か所の派遣計画に対し、49 か所の派遣を行った。

また〈動く子どもの城〉事業を検証する「フォローアップ事業」を実施した。今までに〈動く子どもの城〉事業を実施した全国 33 か所の施設に対し、プログラムの定着や事業活性化の状況について調査。その内 25 の児童館から回答を得た。その結果すべての児童館から「成果があった」と回答があり、そのうち 15 か所から「プログラムが定着した」との回答を得た。その後 15 か所を選び、フォローアップ研修を実施した。その他、教材である造形プログラム『子どもの城活動事例集 7 かけをうつそう』(DVD) やテキストの作成も行った。

#### 【中央児童厚生施設事業（国庫補助事業）】

国が推進する両立支援施策に対応し、「放課後児童クラブボランティア養成講座」「保育所ボランティア養成講座」「野外活動ボランティア養成講座」を実施した。【子どもの城】が行ってきた施設ボランティア養成の経験を生かし、児童館の枠をこえて、子育て支援への市民参加にも貢献した。

本年度「放課後児童クラブボランティア養成講座」を 23 か所、「保育所ボランティア養成講座」

を 23 か所、「野外活動ボランティア養成講座」を 4 か所で実施した。

さらに、地域での健全育成活動の活性化をはかるため、【子どもの城】における遊びのプログラムをまとめたプログラム集『児童館で活用できる遊びのプログラム 2』を作成し全国に配布した。また、野外活動ボランティア養成にかかるノウハウをまとめた『児童館の野外活動を支えるボランティア養成入門』を作成し、配布した。

#### 【啓発活動（国庫補助事業）】

【子どもの城】の活動状況や児童健全育成事業にかかる情報を掲載した機関紙「子どもの城ニュース」を発行した。全国の児童館、地方公共団体、関係団体などの健全育成関係者に配布して、【子どもの城】での活動を地域での事業推進のための参考として紹介するとともに、地域のすぐれた活動例を広く全国に紹介し、児童健全育成事業の普及、啓発に努めた。事業の見直しにより「子どもの城ニュース」は、本年度を持って休刊とした。

### ■■■ 保育研究開発部・小児保健部 ■■■

#### 【保育研究開発部】

「幼児グループ」「保育クラブ」は、就労の有無にとらわれず、家庭に対して行う子育て支援プログラムである。利用時間や回数を考慮しながら、家庭育児で身につけることと、集団保育で身につけることをていねいに指導し、子ども自身の成長力と家庭の子育て力の向上をめざした。本年度通期の会員数は 366 家族だった。

講座「おやこクラブ」は、1歳児親子を対象に土曜日の午前中に実施。各回平均 18 組が親子遊びを楽しんだ。また、父親の参加も定着した。

10 月に平成 25 年度のメンバー募集を実施し、「幼児グループ」（2 年保育）の最終募集では、入会児は 6 人となった。減少の理由として、平成 25 年度開始の「幼児グループ」は最終年度（平成 26 年度）は、異年齢保育ではなく同年齢保育で終了となるためと考えられる。また平成 26 年度の「幼児グループ」は募集を中止するため、2 歳児「保育クラブ」会員の中には 3 歳児保育（平成 25 年度）から他施設に利用を変えた会員も見受けられた。なお平成 25 年度「保育クラブ」会員新規募集では、3 歳児定期利用児の応募は減少したが、2 歳児保育利用児は例年どおりであった。

さまざまな子育て支援の情報を掲載した「子育て支援のニュースレター」は、保育所や児童館、子育て支援センターを対象に、本年度も年間 3 回発行した。

#### 【小児保健部】

小児保健クリニックでは、12 月以降に初診がやや減少する傾向がみられた。閉館が近いと捉えられ、子どもの成長・発達にかんする受診を躊躇する傾向にあったと推測される。しかし、本年度全体の新規来所者数・総診療件数や心理相談の件数は前年度より 8 % 以上増加した。

子育て支援者のための講習会では、例年の「小児保健セミナー」を「幼児期からの発達障害への対応」「親の立場から望む子育て支援」などのテーマで実施した。「子どもの虐待への対応」は前年度に続き 2 回目であったが、全国から多くの参加者が集まり、熱心に聴講していた。本年度は 1 年をとおして 8 回の講習会を行ったが、現場に密着した内容が求められていることが強く感じられた。

### ■■■ 指定管理事業 ■■■

【子どもの城】で蓄積してきた児童館における児童健全育成活動にかんするノウハウを継承し、【子どもの城】閉館後も、公益財団法人児童育成協会として、全国の児童健全育成事業の活性化に寄与することを目的に、「指定管理制度による児童館運営受託」への取り組みを始めた。本年度 12 月から、自治体における指定管理制度の情報をを集め、本格的な取り組みに向けて準備を進めた。

### ■■■ 企業・団体等との協力事業 ■■■

企業、団体などとの協力事業に積極的に取り組んだ。特に本年度は、今後経営資源が減少する中でも、魅力的なプログラムを来館児・者に提供できるよう、大型協賛事業を含めた新たな協力企業、団体の開拓に努めた。また連携が可能な子育て関連を中心とした企業を「フレンドシップ企業」として登録し、協力事業を実施した。

連携事業（抜粋）：「児童館こいのぼりがいっぱいプロジェクト」（財団法人児童健全育成推進財団、社会福祉法人子どもの国協会、日本鯉のぼり協会）／「赤ちゃん大集合」（ケイジエイシー、和光堂、

大島椿、赤ちゃんとママ社、ピジョン、ビーンスターク、持田ヘルスケア、江崎グリコ、アイクレオ、マテルインターナショナル、マイブックプラス、明治）／「ガドガドスーパーライブ」（インフィニトラベルインフォメーション）／「TOYOTA 科学のビックリ箱」（トヨタ自動車）／「がんばろう東北 酪農キャンペーン」（全国酪農業協同組合連合会仙台支所）／「こままわし大会」（日本こままわし普及協会）／「こどもの城でもっとしろう親子交通安全教室」（警視庁渋谷警察署・渋谷交通安全協会）／「はたらく消防の写生会 入選作品展」（渋谷消防署）

### ■■■ 広報事業 ■■■

【子どもの城】の事業・活動内容をより理解、認識してもらうこと、および来館促進を目的に広報活動を積極的に行つた。本年度には 47 事業についてマスコミに情報発信を行い、207 件の取材に対応した。インターネットを通じた情報発信にも取り組み、情報サイト、配信サービスなどに継続的に情報提供を行つた。

### ■■■ 全国の児童館との交流 ■■■

全国約 4,318 館（平成 23 年度）の児童館と交流し、情報の収集、意見交換、連携事業を行うことは、国立総合児童センターとして重要な役割である。その一環として、本年度は財団法人児童健全育成推進財団、全国児童厚生員研究協議会、東京都児童館等連絡協議会と協力して、東京の児童館の職員を対象にした月 1 回の学習会を【子どもの城】で開催した。

毎月 60 人以上の児童館職員が集まり、各自治体の児童館行政の情報交換、「児童館ガイドライン」の理解を深める勉強会、児童館の存在価値を検証するワークショップを実施した。全国の児童館の約 15% を占める東京の児童館が、他地域へおよぼす影響は大きい。この事業を通じて、【子どもの城】が東京の児童館と連携をはかりながら、全国の児童館の活性化に寄与できるように今後も積極的な取り組みを行いたい。

### ■■■ その他の事業 ■■■

#### 【友の会事業】

【子どもの城】の友の会は、【子どもの城】が利用者のニーズを把握し、より利用者サイドに立った施設運営を可能にするために、モニターの役割を担う家族会員で構成されている。本年度は 283 家族に対して、年間 12 回の友の会ニュースの発行をはじめとした各種の会員サービス事業を実施した。しかし、2 年後の閉館にともない、開館以来実施してきた友の会事業はその役割を終えたと判断し、本年度を持って終了とした。

#### 【野外活動事業】

【子どもの城】の野外活動は、自然体験、集団生活体験など、館内活動では十分に展開できない体験を補完する事業として、【子どもの城】開館前年の昭和 59 年（84 年）から毎年実施してきた。本年度は、体育、プレイ、事業企画のそれぞれの専門分野で、夏、冬、春休み期間に 8 つの野外活動事業を実施し、合計 388 人の参加者を得て好評であった。しかし、今後の職員体制を勘案し、本年度を持って野外活動事業を終了とした。

## □□□ 公益目的事業 2 芸術文化事業 □□□

児童健全育成施設の劇場としての意義を深め、新たに策定した「自主・提携公演の実施方針」に則り、子ども文化のすぐれた発信場所としての地位を保つよう努力するとともに、【子どもの城】施設全体の維持のための経営的側面にも意識した事業運営を行つた。

青山劇場では提携公演 1 公演、青山円形劇場で自主・共催公演 7 公演、提携公演 5 公演を実施した。このうち、「ダンストリエンナーレトーキョー 2012」は文化庁の国際芸術支援事業に、「TOKYO DANCE TODAY #8」は、日本芸術文化振興会のトップレベルの舞台芸術創造事業に選ばれた。また、劇場公演の他に、若手舞台芸術家の育成をはかるためのセミナー「APAS」（Aoyama Performing Arts Seminar）を 10 件、【子どもの城】ピロティでの屋外パフォーマンスを 5 件実施した。

また、劇場貸与については青山劇場が 19 件、青山円形劇場が 24 件であった。

## □□□ 収益目的事業 1 貸室販売事業 □□□

来館児・者の利便性をはかるために、調整を進めてきたレストラン「カフェ・キャッスル」が7月中旬にオープンした。(株)スキップ・キッズに運営を委託した。

売店スペースは、11月からこだわりのおもちゃを中心とした「アイタイム・キッズ」としてリニューアルオープンを果たした。売り上げの向上をはかるべく、取扱商品の使い方やその楽しさを広く伝えるため、来館児・者向けのイベントも始めている。

ホテルは、客室内装の工事により17日間受け付けできない期間があったにもかかわらず宿泊者が増え、研修室の減収分をある程度埋めることができた。また、売上の50～60%がネット予約からとなっている。

## □□□ 開館時間・入館料（こども活動エリア）□□□

### ■■■ 平常期間 ■■■

[こどもの城] の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日 12時30分～17時30分

土・日曜日、祝日 10時00分～17時30分

月曜日 休館（祝日・振替休日にあたるときは開館。翌火曜日が休館）

### ■■■ 特別期間 ■■■

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）、児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、11月1日の開館記念日を中心とするファミリーフェア（開館記念月間）を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

なお、5月5日「こどもの日」と、[こどもの城] 開館を記念した11月3日「文化の日」は“こども”の入館料を無料とした。開館時間は、特記した日を除き、10時～17時30分。

#### ■児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間■ 4月28日～5月6日

（5月1日は休館、5月2日は12時30分開館）

#### ■夏休み特別期間■ 7月21日～9月2日（毎日開館）

#### ■ファミリーフェア（開館記念月間）■ 11月1日～11月30日（月曜日休館、開館時間は平常期間と同じ）

#### ■冬休み特別期間■ 12月22日～平成24年1月7日（12月29日～1月3日は休館）

#### ■春休み特別期間■ 3月23日～4月7日（毎日開館）

### ■■■ 入館料 ■■■

#### 【入館料】

こども（18歳未満）400円（保護者が同伴した3歳未満児は無料）

大人（18歳以上）500円

※回数券 こども（6枚つづり）2,000円／大人（6枚つづり）2,500円

※団体（20人以上） こども 320円／大人 400円

※5月5日「こどもの日」と、[こどもの城] 開館を記念した11月3日「文化の日」は“こども”的入館料は無料

#### 【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1年間有効）大人	3,000円
-------------------	--------

わくわくパス（夏休み期間限定）大人	1,800円
-------------------	--------

ドキドキパス（夏休み期間限定）こども	1,500円
--------------------	--------

小・中学生土曜日パス（1年間有効）小・中学生	2,500円
------------------------	--------

## □□□ 施設・組織機構など □□□

## ■■■ 【子どもの城】の施設概要 ■■■

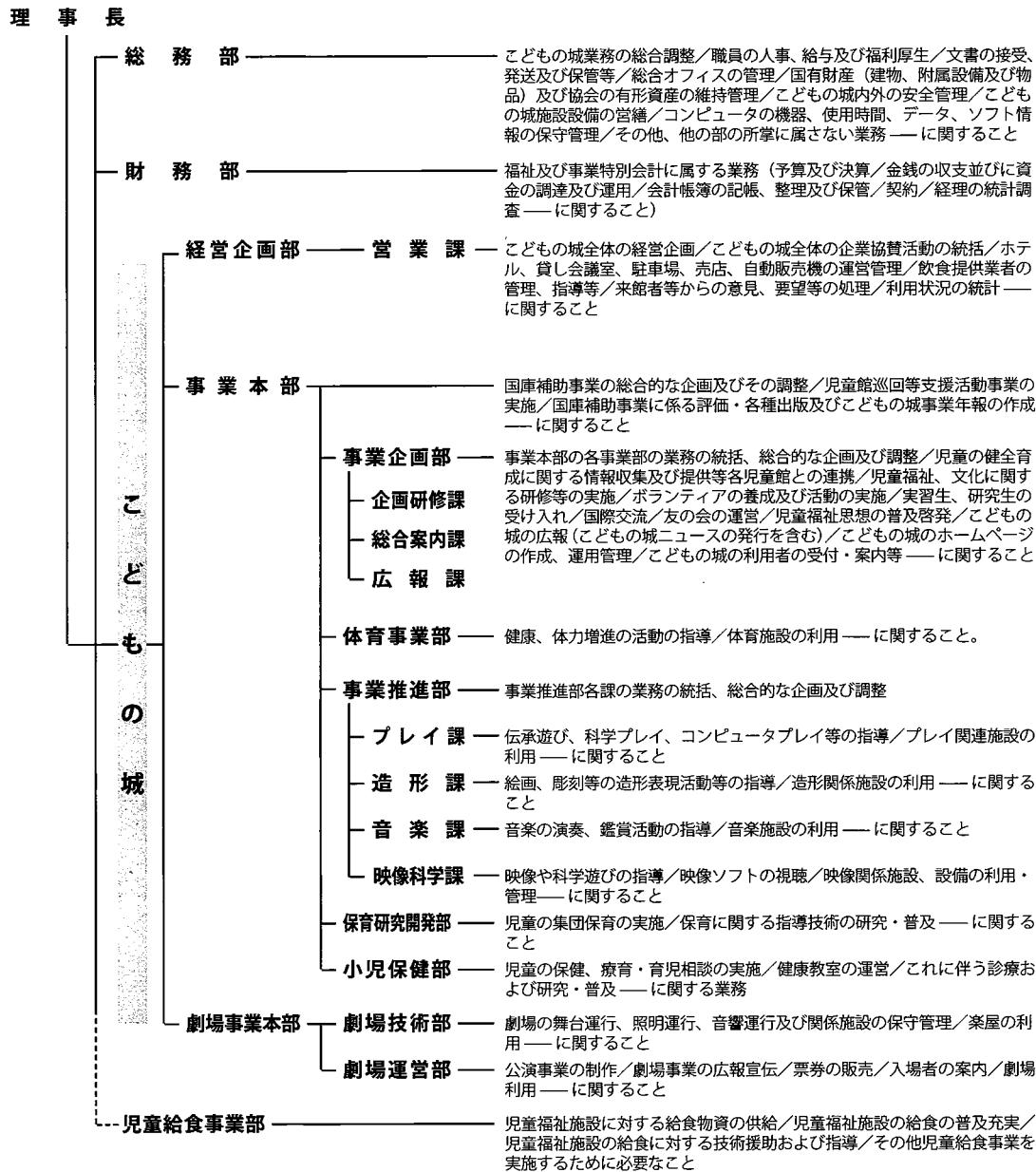
		オフィス	13 F 12 F 11 F 10 F	
		研修室	9 F 8 F	
		ホテル	7 F 6 F	
5 F	屋上遊園 プレイポート	小児保健クリニック 保育室	5 F	
4 F	ビデオライブラリー	音楽ロビー A・Bスタジオ	4 F	ふしぎが丘
3 F	造形スタジオ 青山円形劇場	プレイホール パソコンルーム	3 F	
2 F	ギャラリー	屋外通路	ファミリーラウンジ	2 F
1 F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1 F 青山劇場
B 1	プール観覧室		フリーホール	B 1
B 2	体育室／プール／健康開発室			B 2
		駐車場		B 3 B 4

## 建築概要

所在地	東京都渋谷区神宮前 5-53-1	最高高さ	G L + 57.6 メートル
建築主	厚生労働省（当時：厚生省）	基礎下端	G L - 28.5 メートル
敷地面積	9,923 平方メートル	主要構造	高層部 鉄骨造り 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り 地 下 鉄筋コンクリート造り
建築面積	6,001 平方メートル	着工	昭和 56 年 11 月
延床面積	41,699 平方メートル	完成	昭和 60 年 9 月（11 月 1 日開館）
建ぺい率	60.48%		
容積率	345.38%		
階数	地下 4 階・地上 13 階・塔屋 1 階		

\* 【子どもの城】は 1979 年（昭和 54 年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて、公益財団法人 児童育成協会があたっている。

## ■ ■ ■ [子どもの城]組織機構図 ■ ■ ■



部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計
総務部	5	1		6	事業推進部	1	0		1	小児保健部	5	0		5
財務部	3	0		3	プレイ課	6	0		6	劇場事業本部	1	0		1
経営企画部	11	0		11	造形課	4	0		4	劇場技術部	6	0		6
事業本部	3	0		3	音楽課	4	0		4	劇場運営部	6	0		6
事業企画部	11	0		11	映像科学課	3	0		3					
体育事業部	6	0		6	保育研究開発部	5	0		5	合計	80	1		81

## ■ ■ ■ 公益財団法人児童育成協会役員(平成25年3月31日現在) ■ ■ ■

役職	氏名	役職	氏名
理事長	藤田 興彦 (財)こども未来財団理事長	理事	山口規容子 総合母子保健センター 愛育病院名誉院長
理事	荒川 春 (公財)全国民営職業紹介事業協会会長	監事	秋山 昭八 弁護士
理事	鈴木 一光 (財)児童健全育成推進財団理事長	監事	藤間 秋男 公認会計士
理事	朽原 克彦 日本商工会議所理事・企画調査部長		

# 平成24年度活動一覧表

## □□□ 来館児・者数 □□□

月	一般来館児・者		劇場			その他	計	
	有料	総数	青山劇場	青山円形劇場	小計			
4月	大人 子ども 団体 受講生など	(人) 9,043 7,787 345 10,496	(人) 27,671	(人) 27,589	(人) 4,902	(人) 32,491	(人) 9,245	(人) 69,407
			推計 (32,196)					推計 (73,932)
5月	大人 子ども 団体 受講生など	10,498 6,288 541 10,516	27,843	28,866	3,457	32,323	4,762	64,928
			推計 (33,099)					推計 (70,184)
6月	大人 子ども 団体 受講生など	8,377 5,456 1,003 10,102	24,938	38,264	6,161	44,425	7,237	76,600
			推計 (29,134)					推計 (80,796)
7月	大人 子ども 団体 受講生など	13,203 10,249 886 7,387	31,725	27,625	7,588	35,213	8,053	74,991
			推計 (38,333)					推計 (81,599)
8月	大人 子ども 団体 受講生など	22,246 20,771 1,883 7,417	52,317	31,291	9,590	40,881	8,928	102,126
			推計 (63,450)					推計 (113,259)
9月	大人 子ども 団体 受講生など	10,880 7,178 711 8,882	27,651	32,810	5,704	38,514	7,818	73,983
			推計 (33,095)					推計 (79,427)
10月	大人 子ども 団体 受講生など	8,769 5,459 972 9,646	24,846	24,380	6,131	30,511	7,864	63,221
			推計 (29,237)					推計 (67,612)
11月	大人 子ども 団体 受講生など	9,807 5,168 980 9,499	25,454	25,668	6,997	32,665	7,600	65,719
			推計 (30,364)					推計 (70,629)
12月	大人 子ども 団体 受講生など	8,033 5,772 849 6,383	21,037	24,377	5,822	30,199	6,003	57,239
			推計 (25,061)					推計 (61,263)
平成25年 1月	大人 子ども 団体 受講生など	8,075 5,323 838 7,855	22,091	11,251	2,742	13,993	5,616	41,700
			推計 (26,135)					推計 (45,744)
2月	大人 子ども 団体 受講生など	8,891 5,375 1,368 9,389	25,023	0	3,142	3142	9,490	37,655
			推計 (29,473)					推計 (42,105)
3月	大人 子ども 団体 受講生など	12,119 9,591 1,503 11,195	34,408	1,072	4,427	5,499	12,415	52,322
			推計 (40,474)					推計 (58,388)
計	大人 子ども 団体 受講生など	129,941 94,417 11,879 108,767	345,004	273,193	66,663	339,856	95,031	779,891
			推計 (410,051)					推計 (844,938)

注)「一般来館児・者」の「推計」は3歳未満の推定来館児数含む／「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生の合算／「その他」は、宿泊施設・研修室等利用者

## □□□ グループ活動実施状況 □□□

		保育所	幼稚園	小学校	中・高校	特別支援学校	特別支援学級	障害児施設	自主保育グループ	計
件数		25	43	19	2	16	13	0	1	(件) 119
月別内訳	4月		1	2						3
	5月		4	6		1				11
	6月	4	10			3	1			18
	7月				1					1
	8月									
	9月						3			3
	10月			2		4	2			8
	11月	3	6	1		1				11
	12月	3	2		1		6		1	13
	平成25年1月	6	6	4						16
	2月	4	7	3		6	1			21
	3月	5	7	1		1				14
参加児童数	延べ人数	566	1,032	411	58	244	162		15	2,488
	1件当たり人数	22.6	24.0	21.6	29.0	15.3	12.5		15.0	20.9
引付	率者数	97	137	44	2	171	64		3	518
	添者数	9	53	7		32	60			161
活動部門	体育	2	12	1	2	2	2			21
	ブレイ	15	13	7	2	4	4			45
	造形	1	13	5		1	1		1	22
	音楽	9	15			8	5			37
	映像科学	3	2	8		1	1			15

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用するがあるので、重複して計上している。

## □□□ 視察・見学実績 □□□

月	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体	児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークルなどの団体	海外からの視察・見学	その他	計
4月	(2)	6	(5)	11	(0) 0 (7) 17
5月	(1)	1	(9)	48	(1) 17 (0) 0 (11) 66
6月	(1)	2	(10)	84	(1) 3 (0) 0 (12) 89
7月	(0)	0	(11)	110	(3) 87 (0) 0 (14) 197
8月	(1)	1	(8)	85	(0) 0 (0) 0 (9) 86
9月	(0)	0	(5)	72	(2) 19 (0) 0 (7) 91
10月	(0)	0	(7)	153	(0) 0 (0) 0 (7) 153
11月	(0)	0	(9)	66	(1) 9 (0) 0 (10) 75
12月	(0)	0	(6)	73	(0) 0 (0) 0 (6) 73
H251月	(0)	0	(4)	65	(0) 0 (0) 0 (4) 65
2月	(0)	0	(10)	123	(0) 0 (0) 0 (10) 123
3月	(1)	11	(6)	27	(0) 0 (0) 0 (7) 38
合計	(6)	21	(90)	917	(8) 135 (0) 0 (104) 1,073

注) ( ) 内は、団体数。「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

□□□ 子どもの城の付帯事業 (平成 25 年 3 月 31 日現在) □□□

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
宿泊施設	子どもの城 ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 68	無休 (12月28日～1月2日を除く)	洋室 24 室 (シングル 3、A ツイン 10、B ツイン 11) / 和室 3 室 (5人用 1、6人用 1、12人用 1) ※ 1 泊 7,455 円～
貸し室	研修室	8・9・10階	研修室 11 ※ 400 人位まで可	無休 (12月28日～1月2日を除く) 営業時間 = 9:00～21:00	研修および会議など ※ 1 単位時間 13,335 円～
	ギャラリー	1階 アトリウム		無休 (12月28日～1月2日を除く) 営業時間 = 10:00～17:30	各種展示会など ※ 1 日 31,500 円
物品販売	アイタイム・キッズ	1階 アトリウム	1か所	営業時間 = 「子ども活動エリア」開館日の平日 12:30～17:30、土日祝 11:00～17:30	世界各国のおもちゃ、知育玩具など
	自動販売機	館内各所	飲食販売 40 カプセルトイ 2	無休	ドリンク類、牛乳類、スナック類など
公衆電話		館内各所	1か所 2台	無休	
駐車場		屋内(地下2階～地下4階)、屋外(1階)	約 126 台 (業務車両分含む)	無休 (12月28日～1月2日を除く) 営業時間 = 8:00～22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型車両は屋外(1階)に駐車 ※ 普通車両 30 分 300 円 マイクロ車 1 時間 840 円 大型車 1 時間 1,260 円
飲食関係	カフェキャッスル	1階	100	子どもの城開館日、劇場公演日に合わせて営業 11:00～20:00	親子カフェ
	劇場内「スナック」	青山劇場内 地下および 2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間 = 開演前・幕間	喫茶、軽食

2

# 子どもの城から全国へ

# 子どもの城から 全 玉



## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

〔子どもの城〕は国立の総合児童センターとして、子どもたちに遊びの環境を提供するだけでなく、全国の児童館等の健全育成事業に携わる関係者とさまざまな情報を交換し、交流をはかってきた。さらに体育、造形、音楽、映像などの分野で、専門スタッフが先駆的・実験的なプログラム開発を行うとともに、その成果を公開して多くの人の検証を受け、児童の健全育成の向上に寄与してきた。

〈遊び〉のプログラムを開発し、その意義や目的、さらに指導技術を広めていくことが、〔子どもの城〕に与えられた使命の一つである。開館当初から、児童厚生員等の児童館職員を対象とした各種の研修会を開催し、全国からの視察・見学に際しては積極的に情報を提供し、研修生や実習生の受け入れなども行ってきた。平成 6 年度＝ 94 年度より、国からの補助を受けて、地域活動の活性化をはかる〈動く子どもの城〉（児童館巡回支援活動等事業）を行い、“遊びのプログラム”の紹介と同時に各地の児童館・児童センターと交流を深めてきた。

就労しながら充実した子育てができる環境作りをめざす両立支援に力を入れるという国の施策をうけて、〈動く子どもの城〉などの国庫補助事業も、前年度から両立支援に関連する“放課後児童クラブ”への派遣に力を入れることとしている。さらに、両立支援で重要な役割を担う放課後児童クラブや保育所へ働きかけて、「放課後児童クラブボランティア養成講座」「保育所ボランティア養成講座」を事業化し、従来の派遣事業と併せて実施した。

今後も〔子どもの城〕で培ってきたプログラムを伝え、全国の子どもの育ちをサポートする事業として機能するように、〈動く子どもの城〉などを実施していきたい。

### □□□ 事業の概要（国庫補助による事業） □□□

#### ■■■ 児童館巡回支援活動等事業 〈動く子どもの城〉 ■■■

地域の健全育成事業支援のために、児童館や放課後児童クラブなどを巡回し、〔子どもの城〕の運営によって培った“遊びのプログラム”とそのノウハウなどを各地に伝える「児童館巡回支援活動等事業」を、〈動く子どもの城〉と通称している。

本年度は、「子どもとその家族を対象とした活動の実践」を 23 か所で実施し、子ども（親子）

17,022 人、「児童厚生員やボランティアを対象とした研修会」は 33 か所で実施し、児童館などの指導スタッフが 1,307 人参加した。このほか、「全国児童館おりがみ作品巡回展」を 16 か所で開催。延べ 53,156 人が訪れ、子どもたちが作った作品を鑑賞した。

「児童厚生員やボランティアを対象とした研修会」は、「子どもとその家族を対象としたプログラム」とあわせて実施している。研修会の参加者が、【子どもの城】のスタッフが行う実際の活動を見た上で、それぞれの地域の状況にあわせたプログラム運営ができるように指導した。また主催施設の地域でのネットワークを生かし、周辺施設のできるだけ多くの指導者が研修会に参加できるようにした。

「全国児童館おりがみ作品巡回展」は、公募で集まった児童館単位で作った作品を【子どもの城】で展示した後、全国を巡回して展示するもの。本年度は、ロンドンオリンピックにちなんで「元気にスポーツ」をテーマに公募、31 館から力作が集まつた。それぞれの作品には、子どもたちの思いが込められ、その思いが作品の個性を生み出していた。



《動く子どもの城》 身近な道具でスポーツあそび（徳島県）

巡回展は、多くの人が行き交う公的なスペースを使って展示をし、児童館活動のアピールをしたり地域の児童館の作品を加えて展示するなど、これを契機にさまざまな取り組みが行われ、児童館活動の活性化に生かされている。

〈動く子どもの城〉は、児童館を中心とした児童健全育成施設を対象としているが、子育て支援も視野に入れ、児童館のネットワークを生かして、放課後児童クラブ、子育て支援センター、保育所などさまざまな施設から参加できるように働きかけ、地域全体の活性化をはかるよう努めた。

東日本大震災から 2 年が経過したが、今でも被災地域から〈動く子どもの城〉の派遣要請があり、要請に応えて積極的に派遣した。健康への影響不安から屋内遊びが増えている福島県郡山市では、親子を対象とし、屋内で楽しむことができる「親子ふれあい体操 “1・2・3”」のプログラムを紹介した。

本年度はまた、これまでの〈動く子どもの城〉事業を検証する「フォローアップ事業」も実施した。今までに〈動く子どもの城〉を派遣事業を実施した全国 33 か所に調査票を送付し、派遣後のプログラムの定着度や事業活性化の状況について調査し、25 か所から回答を得た。全ての館が実施プログラムが役に立った、60%の館が定着したという評価がある一方で、定着していないという回答も 28% あった。その後 15 か所を選びフォローアップ研修を実施し、プログラムの定着や地域での活用方法の把握、また派遣事業の運営方法の検証に努めた。

造形プログラムの「子どもの城活動事例集 7 かけをうつそう」(DVD) やテキストを作成し、〈動く子どもの城〉の教材の充実にも努めた。研修中もしくはその前後に研修効果を高める目的で配布するものとして制作したものだが、〈動く子どもの城〉とは別に教材として使用したいなど、児童館などの健全育成関係者から要望があった場合は、可能な範囲で対応した。

## ■ ■ ■ 中央児童厚生施設事業 ■ ■ ■

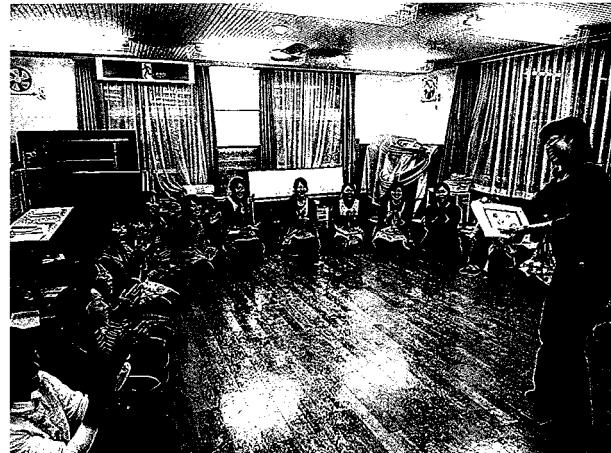
国が推進する両立支援施策に対応して、「放課後児童クラブボランティア養成講座」を 23 か所(928 人参加)、「保育所ボランティア養成講座」を 23 か所(847 人参加)で実施した。このほか、「野外活動ボランティア養成講座」を 4 か所で実施し、89 人が参加した。

「放課後児童クラブボランティア養成講座」「保育所ボランティア養成講座」は、実技プログラムにも興味を持っている点が多いことを考慮して、多くの会場で、〈動く子どもの城〉と関連づけて開催した。また、放課後児童クラブと保育所の両方のボランティアを希望する人も多く、2 つの養成講座を同時に開催した。

また、【子どもの城】の活動実践をもとにした遊びのプログラム集「児童館の活動に活用できる遊びのプログラム 2」を発行した。本年度は収録プログラム数を増やし、全国の児童館と行政の健

全育成主管課に配布した。前年度と同様に研修会などで活用したいという声が多くあり、追加送付の要望に応えられるように前年度より1,000部多い6,000部を作成した。

プログラム集の印刷部数には限りがあるが、コピーが容易な体裁にしてあるので、配布部数以上の波及効果があると考える。また、このプログラム集の制作と配布によって、〈動く子どもの城〉による支援が届かない人たちにも、直接〔子どもの城〕での活動成果を伝えることができたのではないかと考える。



〈動く子どもの城〉ばかばか広場 研修会（山形県）

### ■■■ 啓発活動 ■■■

児童館、放課後児童クラブなどの職員やボランティア、全国の健全育成関係者、行政の担当者、また子育て支援にかかる人に、「子どもの城ニュース」を配布し、児童健全育成事業の意義や効果を広く周知・普及をはかる啓発活動を行った。〔子どもの城〕の活動内容や、子育て支援・児童の健全育成に関する情報を紹介するとともに、全国の児童館の優れた活動も紹介しており、児童館など健全育成団体の交流を促進する役割も果たしている。

### □□□その他の活動 □□□

#### ■■■ 講師派遣 ■■■

児童健全育成活動の普及に努める人材育成事業の一環として、全国の自治体や団体からの要請を受けて行う講師派遣にも積極的に取り組んだ。本年度158件（前年度204件）となった。

講師派遣実施の内容は、ゲーム、体育、音楽、造形など遊びの専門技術の実技研修から、小児保健分野、保育分野、児童健全育成分野の理論講習など幅広い。〔子どもの城〕の理念や運営で蓄積された技術を、全国の児童健全育成事業発展のために講師派遣という形で伝えていくことは、重要な役割である。それと共に各地に派遣された職員が、その地域の児童健全育成事業の実態を情報収集することで、〔子どもの城〕で行われるさまざまな事業が、より全国の各地域のニーズに沿ったものにアレンジしていくことも、この事業の持つ重要な要素だと考えられる。

### □□□まとめ □□□

各地の児童館や放課後児童クラブの活動内容、地域の子育て環境は一様ではなく、また時代とともに常に変化している。〔子どもの城〕が行う情報発信は、遊びのプログラムやボランティア活動についてなど、非常に具体的な内容である。さらに各地から集められたさまざまな優れた取り組みを、他の地域に向けて再発信する活動も行っている。

しかし、発信したこれらの情報は、各地域での活動を標準化するものではない。地域での実情に合わせた活動をより活性化し、実践するための、ひとつのモデルの提示であり、新たな視点を提供する活動である。今後も、〔子どもの城〕からの情報発信が、全国の健全育成活動、地域の子育て支援活動により役立つように取り組んでいきたい。

# 平成24年度活動一覧表

□□□ 〈動く子どもの城〉(派遣プログラム)ほか □□□

■■■ 〈動く子どもの城〉プログラム一覧 ■■■

名 称	内 容
<b>■子どもとその家族を対象とした活動の実践■</b>	
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	音楽や楽しい遊具を使い、赤ちゃんの成長に合った体操でスキンシップ。赤ちゃんの豊かな表情や動きの再発見で、日ごとに成長していることを実感し、お母さんもリフレッシュ。
親子のふれあい体操“1・2・3”	1・2歳または2・3歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながらふれあい、子どもの成長を感じながら、コミュニケーションを楽しむ。
親子いっしょにうきうき！おんがくあそび！	音楽にあわせて体を動かしたり、親子で手遊び・歌遊びなど。子どもの成長に応じた「親子のふれあい」「家族では得難い集団での遊び」を紹介。
親子で遊ぼう！パペットランド	身近にあるものを人形に見立てて遊ぶ、“親子のふれあい”プログラム。対象年齢別に、1歳6ヶ月～3歳向けの「ふれあい遊び」と、3歳以上向けの「劇遊び」がある。
ぽかぽか広場 乳幼児と親のための交流広場	“ふれあい広場”的実践を紹介。①「広場」での子育て学習会(小児保健部門ほか) ②「広場」で遊ぼう(音楽・保育部門ほか) ③身近なもので遊ぼう(プレイ部門ほか)
身近な道具でスポーツあそび	身の回りにある道具(新聞紙・棒・ひもなど)を使い、人数や場所の広さに合わせ変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開。
「おにごっこ」で楽しい体力づくり	基本的な体力の低下が危ぶまれている現代。体力のなかでも「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームやおにごっこなどのスポーツ遊びを多彩に展開。
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」	歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれたコンサート。演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となり音楽の楽しさをより一層体験できる参加型のプログラム。
絵本の読み語り 「おはなしコンサート」	ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語り。小劇場向けの「心をこめた贈り物」と、小さなスペースでも上演できる「おはなしおんがくパンパカパン」がある。
アニメ・ワークショップ	2枚の簡単な絵を描いて作る「くるくるアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ「視覚がん具」の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。「視覚がん具」などの展示も行う。
写真ワークショップ	写真の“写る仕組み”を体験するプログラム。レンズを使わない紙の「ピンホールカメラ」を作るワークショップ。写真の仕組みや歴史を探る展示も。
子どもの城映画劇場	子ども向けに作られた、国内外の芸術的な短編アニメーション作品の上映。基本的に、子どもの城フィルム・コレクション「武藤行雄記念文庫」の収蔵作品から数本を選んで上映。
科学あそびにチャレンジ 音のふしき	音が作る不思議な世界を体験。糸電話の工作、録音した声を逆再生して正しく聞こえる“言葉”作り、音の波形(図形)を描いて音にするプログラムなど、幅広く紹介。
みんなで遊ぼう！ パペット・ランド	人形作りと人形遊び。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作成。作った人形でお話をしたり、ごっこ遊びを繰り広げたりと、イメージの世界を楽しむ、人形遊びのプログラム。
やってみよう！ パソコン遊びのプログラム	パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置。「グラフィックス遊び」「パソコンクラフト」など、【子どもの城】で実施したプログラムから、いくつかを選択して実施。
レクリエーションゲーム大会 「忍者マスター決定戦」	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出し楽しむ交流プログラム。忍者の世界や魔法使いなど、さまざまなストーリーを設定しゲームを展開。
お父さんの少年時代	昭和30～40年代の〈遊び〉の展示。めんこ、べいごま、たこ、日光写真などの遊び道具の展示をきっかけにして、親子のコミュニケーションをはかり、昔遊びのエッセンスを体験。
不思議な世界であそぼう 「子ども妖怪サミット」	全国の〈妖怪〉を紹介する展示。事前に地元の〈妖怪〉を調べて全国の〈妖怪〉とあわせて展示。まち歩きをする“妖怪ラリー”も行う。協力：水木プロダクション。
造形ワークショップ展	【子どもの城】造形スタジオのプログラムを、視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。そのなかからいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。

名 称	内 容
<b>■児童館・放課後児童クラブの職員やボランティアなどを対象とした研修会■</b>	
0歳からの子育て支援研修	つくって遊ぼう 紙・布・木など身近な素材を使った、子育て広場や子育てサークルで活用できる造形プログラムの研修。子どもと造形活動を行う時の素材・道具の使い方や、環境設定などを学ぶ。
	乳幼児の食生活 乳幼児の離乳食、好き嫌い、肥満などの食生活について、基本的な考え方と、悩みや相談に対するアドバイスの仕方などを、管理栄養士が分かりやすく解説。
	乳幼児の健康管理と応急処置 乳幼児の成長をふまえ、日常的なのが応急処置をはじめ、事故や感染症の予防など、生活に欠かせない健康管理などを看護師が解説。簡単な実技もある。
	乳幼児の発達と大人のかかわり 子どもの遊び、言葉、自己主張など、発達や親子関係が気になる場合のかかわり方などを、臨床心理士が解説。思春期の子どもの問題にも対応。
	不思議な映像実験室 驚き盤などの“視覚がん具”的制作をとおして〈映像〉が動いて見えるしくみ、〈映像〉の不思議、〈映像〉を作る楽しさ、おもしろさを体験。
	リズムで遊ぶワークショップ ブラジルのサンバを中心に、アフリカの太鼓・タムタム、和太鼓、スプーンなど、身の回りにあるものや手作り楽器なども活用してリズム遊びの楽しみかたを体験。
	想像遊びのワークショップ さまざまな絵本をモチーフにして、想像遊び、見立て遊び、言葉遊びを楽しむプログラム。簡単なカードの制作をとおして協同制作者とのコミュニケーションをはかる。
	人形遊びのワークショップ 紙コップ、タオル、靴下など身近な素材を使って人形を作つて遊ぶ、小さな子どもむけのプログラム。人形を使った表現遊びをとおして、ふれあい、交流の楽しさを知る。
	パソコン遊びのワークショップ パソコンを使った遊びのプログラムをいくつか体験しながら、活動テーマの設定、ソフトやデータの準備など、子どもたちにパソコン遊びを提供するまでの具体的な方法を紹介する。
	レクリエーションゲーム大会の演出プラン “ごっこ遊び”的要素を取り入れることで、子どもたちがより意欲的にプログラム参加する。ストーリー性のあるレクリエーションゲーム大会の演出方法を、実践例を参考に考える。
遊びの実技研修	造形ワークショップ 素材・発想・技法などで、さまざまなプログラムが生まれる。何種類かのプログラムを参加者と体験制作し、それが生まれる考え方や、発想法についても考える。
	児童館を拠点としたネットワークづくり さまざまな地域の事例に基づき、ネットワーク作りについて学ぶ【研修】。おもちゃの交換を中心とした“子どもの街”「とり+かえっこ」を通じたネットワーク作りの【実践】。
	放課後児童クラブボランティア養成講座 放課後児童クラブの事業、そこでのボランティア活動の可能性、対象児童の発達にかんする基礎的な知識などの概要を学ぶ。
児童館運営支援のための研修	保育所ボランティア養成講座 保育所の事業、そこでのボランティア活動の可能性、対象児童の発達にかんする基礎的な知識などを学ぶ。受け入れ側を対象にしたコースもある。
	放課後児童クラブの職員等を対象とした研修会 放課後児童クラブの職員やボランティアなどを対象に子どもの発達や成長についての理解を深める研修会。「児童期の発達のかかわり方」「ワークショップ：遊びを通して子どもを理解する」「ケース検討会議の実践」から選択。

**■全国児童館おりがみ作品巡回展■**

おりがみ	<b>全国児童館おりがみ作品展</b>	各地の児童館活動のなかで制作した折り紙作品の展示。全国の児童館に参加を募り、寄せられた31作品を【子どもの城】での展示。終了後、全国で巡回展を実施。
------	---------------------	--

**■■■ 〈動く子どもの城〉ほかの派遣実績一覧 ■■■**

開催地	開 催 団 体	実施日時	プロ グ ラ ム 名	研修	実 践	展 示	養 成	ワ ク
千葉県	いんぱ児童館（印西市）	5月28日	ばかばか広場 乳幼児と親のための交流広場	●	●		●	
福島県	郡山市子ども総合支援センター	6月3日	親子ふれあい体操“1・2・3”（東日本大震災復興支援）	●	●		●	
愛知県	一宮市社会福祉事業団	6月26日	放課後児童クラブの職員を対象とした研修会	●			●○	●
東京都	葛飾区子育て支援部育成課	7月25日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	●			○	●
愛媛県	えひめこどもの城	7月8日～8月1～12日（火曜日）	不思議な世界で遊ぼう「子ども妖怪サミット」	●	●	●	●○	●
佐賀県	鳥栖市社会福祉協議会	7月10日	親子のふれあい体操“1・2・3”	●	●		●	●
北海道	釧路市こども遊学館	7月5日～7月6日～7月11日～7月12日	造形ワークショップ	●	●	●	○	
和歌山県	学童保育友遊クラブ（日高郡）	7月16日	身近な不思議を見つけよう みくる工房	●	●		○	

開催地	開 催 団 体	実施日時	プロ グ ラ ム 名	研修	実践	展示	養成	フォロ-
東京都	清瀬市児童センター	9月19日、9月20日～21日(祝)	不思議な世界でこそう「子ども妖怪サミット」	●	●	●	○	
岐阜県	川辺町社会福祉協議会	9月23・24日	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	●	●		●○	●
埼玉県	草加市立松原児童館	9月25日	放課後児童クラブの職員を対象とした研修会 魔術の基礎と練り方	●			●○	●
奈良県	奈良県児童館協議会	9月27日	小児保健の基礎と実際 放課後児童クラブの職員を対象とした研修会	●			●○	●
東京都	中野区立鷺宮児童館	9月29日	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	●	●		○	
大阪府	大阪狭山市教育委員会	10月2日	親子いっしょに うきうき！おんがくあそび！	●	●		●	
宮崎県	宮崎市田野児童センター	10月3日	科学あそびにチャレンジ 音のふしぎ	●	●		●○	
新潟県	燕市子育て支援課	10月6・7日	児童館を拠点としたネットワークづくり	●	●		●○	●
山梨県	山梨県教育庁社会教育課	10月11日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	●			○	●
山形県	ふたば保育園・児童館（大石田町）	10月12・13日	ばかばか広場 乳幼児と親のための交流広場	●	●		●○	●
福井県	福井県児童科学館	10月17・18日	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキニップ	●	●		●	●
静岡県	静岡県児童館連絡協議会	10月25日	リズムで遊ぶワークショップ	●	●		●	
札幌市	財団法人札幌市青少年女性活動協会	10月30日	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキニップ	●	●		●	
山口県	山口県児童センター	11月15日	リズムで遊ぶワークショップ	●			●○	●
宮城県	気仙沼市立古町児童館	11月20日	親子いっしょに うきうき！おんがくあそび！	●	●		●○	●
栃木県	壬生町児童館	11月27日	親子で遊ぼう！パペットランド	●	●		●	●
長野県	須坂市教育委員会 児童センター	11月28日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	●			●○	●
福井県	福井市社会福祉協議会	11月29日	リズムで遊ぶワークショップ	●	●		●○	
広島市	広島市教育委員会青少年育成部放課後対策課	12月7日	身近な道具でスポーツあそび	●			○	
奈良県	大和高田市立児童館	12月18日	親子いっしょに うきうき！おんがくあそび！	●	●		●	
岡山市	岡山市保健福祉局こども福祉課	平成25年1月22日	親子ふれあい体操“1・2・3”	●	●		●	
静岡県	静岡県中部地区児童館連絡協議会	平成25年1月23日	造形ワークショップ	●			○	
徳島県	板野郡児童館連絡協議会	平成25年1月31日	身近な道具でスポーツあそび	●	●		○	
埼玉県	比企地区学童保育指導員会	2月14日	放課後児童クラブの職員を対象とした研修会 魔術の基礎と練り方	●			●○	
香川県	さぬきこどもの国	2月16・17日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	●	●		○	
群馬県	ぐんまこどもの国児童会館	4月1～8日	全国児童館おりがみ作品巡回展(1年総覧)			●		
埼玉県	神保原児童館（児玉郡）	4月16～20日	〃			●		
愛知県	こども未来館（豊橋市）	4月28日～5月6日	〃			●		
鹿児島県	キッズランド児童館（南さつま市）	5月14～25日	〃			●		
三重県	明照児童館（伊勢市）	6月2～8日	〃			●		
秋田県	すぐく学童クラブ（秋田市）	6月12～17日	〃			●		
京都市	京都市大塚児童館	6月16日	〃			●		
福岡県	宗像ユリックス（宗像市）	6月21日～7月8日	〃			●		
札幌市	財団法人札幌市青少年女性活動協会	12月1～15日	全国児童館おりがみ作品巡回展(1年総覧)			●		
千葉県	浦安市高洲児童センター	12月20日～平成25年1月7日	〃			●		
愛媛県	今治市亀岡児童館	1月16日～2月3日	〃			●		
兵庫県	姫路市北児童センター	1月16～29日	〃			●		
茨城県	北守谷児童センター（北守谷市）	2月9～17日	〃			●		
千葉県	香取市山田児童館	2月22日～3月3日	〃			●		
愛媛県	今治市伯方児童館	3月1～10日	〃			●		
京都市	京都市久我の杜児童館	3月11～22日	〃			●		

注)「養成」欄の「○」は「放課後児童クラブボランティア養成講座」を実施したところ。  
 「●」は「保育所ボランティア養成講座」を実施したところ。

# 3

## 各部の事業

# 事業企画



かんばろう！東北の酪農キャンペーン

## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

事業企画部門は「こども活動エリア」の各事業の統括と共に、国立総合児童センターとしての〈センター機能〉充実をはかるための諸事業の企画・調整を行うことを目的に、企画研修、広報、総合案内の 3 部門で構成される。

本年度の「こども活動エリア」の事業計画は、[子どもの城] の〈センター機能〉の充実をめざし、「児童館ガイドライン」を重視した事業目標の設定と、[子どもの城] および児童館の価値を社会に伝える情報発信機能の強化を基本方針とした。

具体的には、社会的なニーズ、児童健全育成事業の使命や課題を考慮し、「乳幼児と親の支援」「父親の子育て参画」「子どもの居場所・意見表明」「屋外・野外あそびの推進」「あそびの価値の情報発信」の 5 つを年間事業の重点目標として設定し、この目標に沿った事業を各部協力のもとに計画・実施した。

また、[子どもの城] が置かれる環境の変化に対応するため、新しいボランティアの体制作りに取り組んだ。

### □□□ 事業の概要（企画研修） □□□

#### ■■■ 特別期間のプログラム展開 ■■■

学校の長期休み期間などの特別期間には、[子どもの城] 全体で積極的な事業展開を行った。事業計画は、各特別期間の特性を考慮し、年間の重点目標が達成できるように各部門のプログラムを調整した。特別期間終了後には、活動の結果を共通の記録シートにまとめ、入館児・者数とともに、事業目標への到達度合を振りかえる総括を行い、次年度への指針を明確にした。

#### ■ゴールデンウイーク（児童福祉週間）特別期間■

【期間】4月 28 日～5月 6 日（8 日間。5月 1 日は休館）

【重点目標】①多くの来館児・者で混雑する状況に対応するために、プログラム数や定員の増加、遊ぶスペースや遊具の拡充、館内アメニティーの整備。

②家族みんなが楽しめるプログラムの工夫。とくに父親が積極的に参加できるプログラムの実施。

③復興支援事業「忘れない！みんなでゲンキに」の実施と復興支援のピーアール。

④平成 24 年度児童福祉週間の趣旨と標語『ニコニコは「なかよくしよう」のあいだよ』のピーアール。

【目標来館児・者数】20,000 人（実績：20,867 人）、平均 2,500 人／日（実績：2,608 人／日）

### ■夏休み特別期間■

【期間】7月 21 日～9月 2 日（44 日間）

【重点目標】①夏休み特別期間に増加する小学生へ向けたプログラムの充実。

②夏休み短期講習会の内容充実と充足率向上のための受け付け方法や実施時期の検討。

③夏休み特別期間の繰り返し入館を促進するために、プログラムの内容や入れ替えを工夫。またフリーパスキャンペーンの実施。

④来館した保護者に対する〔こどもの城〕のプログラムの意義や“あそびの価値”的情報発信。

【目標来館児・者数】計 91,300 人（実績：計 86,411 人）、平均 2,075 人／日（実績：1,964 人／日）

### ■ファミリーフェア（開館記念特別期間）■

【期間】11月 1～30 日（26 日間）

【重点目標】①キャッチフレーズを『あそんでつながる・かぞくのココロ』とし、親子向けプログラムを充実させ、積極的に親子がふれあえるプログラムを実施。家族の良さ、大切さを伝える。

②毎週「家族」をテーマに、特色を持った「スペシャルデー」を設定する。1週目「子ども参画」、2週目「赤ちゃん大集合」、3週目「親子の体験」、4週目「父と子の交流」。

【目標来館児・者数】29,260 人（実績：30,290 人）、平均 1,125 人／日（実績：1,165 人／日）

※例年 10 月から 12 月は来館児・者の減少が顕著になる時期のため、本年度は 11 月のファミリーフェア（開館記念特別期間）を含めた前後の 3 か月間を来館児・者増の強化期間と定め、各期間にテーマを定め事業を展開した。10 月と 12 月のテーマは下記のとおり。

○10月：テーマ「ハロウィーン」／キャッチフレーズ『みんなでハッピーハロウィーン』

○12月：テーマ「クリスマス」／キャッチフレーズ『クリスマスをもってかえろう！』

### ■冬休み特別期間■

【期間】12月 22 日～平成 25 年 1 月 7 日（11 日間）。12 月 29 日～平成 25 年 1 月 3 日は休館

【重点目標】①クリスマス、お正月といった季節感、季節の遊びを体験できるプログラムを実施。

②来館児・者の少ない平日に、事前申し込み制のプログラムを充実させ、また家庭では体験できないプログラムの実施により、来館児・者増をめざす。

③クリスマス、お正月という季節感と華やかさを演出する目玉プログラムをピロティで実施。

【目標来館児・者数】計 16,944 人（実績：計 15,427 人）、平均 1,540 人／日（実績：1,402 人／日）

### ■春休み特別期間■

【期間】平成 25 年 3 月 23 日～4 月 7 日（15 日間）

【重点目標】①プログラムと館内アメニティー（食事場所・ベビーカー置き場など）を充実させ、多くの来館児・者があつても〔こどもの城〕が“安心・安全な遊び場”となるようにする。

②小学生以上の子どもが増加するため、小学生以上の子どもに対応したプログラムを多く計画する。

【目標来館児・者数】計 30,000 人（実績：計 28,831 人）、平均 2,000 人／日（実績：1,922 人／日）

## ■■■ 全館事業への取り組み ■■■

本年度の 5 つの重点目標のうち、「乳幼児と親の支援」「父親の子育て参画」「子どもの居場所・意見表明」の 3 つの目標に関して企画チームを編成、全館で協力し事業に取り組んだ。

### 【乳幼児と親の支援～つながろう！一緒に子育て～】

乳幼児親子向けの支援体制について、〔こどもの城〕全体で見直し作業を進めた。0～2 歳児と保護者への一般来館対応として平常期間の火曜日に実施している「子育て広場」（毎月第 1・3・5 が小児保健部門主催「赤ちゃんサロン」、第 2・4 が各部門共同運営の「ぽかぽか広場」）と、夏休みなどの特別期間中毎日実施している乳幼児親子の居場所「バブバブ・ベビータウン」を整理・統合。平成 25 年 3 月の春休み特別期間から「0・1・2 歳のぽかぽか広場」として新しくスタートした。

これにより 1 年間をとおして、毎日同じ形での乳幼児親子向けの支援体制ができた。また、館内にある乳幼児向けの食事場所やバギー置き場といったアメニティースペースを整備し、より使いやすく、居心地の良いスペースをめざした。

## 【父親の子育て参画～おとうさんもあそぼうよ～】

子育てを楽しむ東京近隣の父親サークルの参加協力を得て 9 月に実施した、「お父さんのあそび市」を皮切りに、10 月から 11 月のファミリーフェアを中心とした時期に、「父親の意欲的な子育て参加」を促すプログラムを連続的に実施した。また啓発活動の一環として、父親と子どもの遊びや、近隣の父親のサークルの情報を掲載した小冊子「ダディーズタイムス」を年 4 回発行。その後成果をまとめ、児童館における「父親の子育て参画事業」のあり方を検証した。

## 【子どもの居場所・意見表明～子どものやりたいを応援する～】

子どもたち自身が主体的に参加し、計画から実行まで、自分たちの声や意見を生かすことをねらいとした「子ども参画」のプログラム「ドルッチャテレビ」を、11 月と平成 25 年 1 月に実施した。内容は、子どもたち自身がテレビ番組を制作し発表する活動。小学校 4 年生から中学生の子どもたちがディレクターとなって事前の計画・準備をすすめ、プログラムの当日に参加した子どもたちと協力し、クイズやバラエティーなどのテレビ番組を制作し、インターネットを通じて発信。子どもたちの意欲とユニークな発想が発揮された活動となった。

## ■ ■ ■ 東日本大震災復興支援事業 ■ ■ ■

本年度も【こどもの城】の〈センター機能〉を生かし、他の関係機関や全国の児童館との連携をはかり、被災した子どもたちへの復興支援事業を実施した。

### 【メッセージの発信～忘れない！みんなでゲンキに「児童館こいのぼりがいっぱい」プロジェクト】

こいのぼりを復興支援のシンボルとしてとらえ、全国の約 4,300 館の児童館などへ、早い時期からの掲揚とこいのぼり関連プログラムの実施協力を呼びかけた。呼びかけに応じ全国 275 館の参加があった。実施後には参加各館から、手作りこいのぼりの掲揚やこいのぼりゲーム大会、また被災地の子どもたちにむけた寄せ書き作りなど、さまざまな活動の様子が報告され、夏休み特別期間に【こどもの城】で展示するとともに、ホームページでも紹介をした。

実施後のアンケートからは「小さな児童館でも全国の施設と大きな連携ができる事業」「被災した子や保護者にメッセージを発信できた意義は大きい」と評価を得ることができた。本年度は、【こどもの城】ホームページへの掲載、各児童館での掲出などの方法でメッセージを発信したが、今後は成果を直接被災地に届ける方法を模索することが課題としてあがった。主催は、(財)児童育成協会、共催団体は、(財)児童健全育成推進財団、(社福)こどもの国協会。

### 【東日本大震災中央子ども支援センターと連携した支援活動】

震災後の子どものための国の支援活動として「東日本大震災中央子ども支援センター協議会」が結成され、平成 24 年 2 月に加盟した。具体的な活動としては、全体での会議参加のほか、「あそびを通じた子どもの支援」のグループに所属し、情報収集や意見交換、他団体と連携して支援事業を実施した。

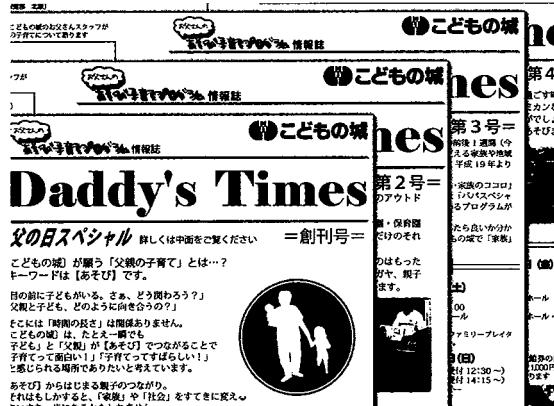
震災で首都圏へ県外避難をしている子育て世帯への支援活動として、夏休み特別期間中の 5 日間、親子の交流会「プレイ！プレイ !! プレイ !!!」を【こどもの城】で実施した。親子で自由に参加できる集いとして、「こども活動エリア」を自由に利用するとともに、子育てや生活相談を実施。事業全体で 125 人の親子が参加した。実施後のアンケートでは、「子どもも大人も楽しく過ごせた」「被災地情報もよくわかり、話も聞いていただけてよかった」と評価も高く、遊びによる子どもへの支援と保護者への直接的な支援がバランスよく展開された事業だと評価できた。

また、同センターの依頼により、運動指導の派遣要請があった、福島県川内村「かわうち保育園」へ体育部門のスタッフを派遣した。

### 【被災地支援のためのスタッフ派遣】

福島県郡山市からの要請で、郡山市の事業である震災後の子どもの心のケアを目的にした「心と

### 父親サークルの情報誌「ダディーズタイムス」



体のリフレッシュ事業」「楽しいリズム・みんなでライブ事業」の実施にあわせ、延べ 19 人の職員を派遣した。外遊びを制限されている中、体を動かすよい機会であり参加した母子は意欲的に活動していたが、一方で日常的に放射能を気にする生活は、保護者にもとてもストレスがかかっていることがうかがえた。

また、国庫補助事業である〈動く子どもの城〉事業で職員を派遣し、福島県郡山市で「親子ふれあい体操“1・2・3”」、宮城県気仙沼市で「親子いっしょにうきうき！おんがくあそび！」のプログラムを実施した。

#### 【他団体への協力】

東北酪農青年婦人会議主催の「がんばろう！東北の酪農キャンペーン」に協力した。これは乳製品の展示紹介、牧草で遊ぶコーナーや牛乳パックの帽子のクラフト、牛乳の試飲など、東北の酪農の現状を伝え、理解、応援する活動であり、【子どもの城】ピロティで実施した。

また、財児童健全育成推進財団が発行した「東北の子どもたちのメッセージ『僕らは今を生きている』」の写真集に掲載されている写真をパネルにして展示した。さらに写真集を有料頒布し、売上による募金活動への協力を行った。

### ■■■ 研修事業 ■■■

#### 【子どもの城のボランティア活動】

「子ども活動エリア」では、年間で延べ 7,000 人を超えるボランティアが活動している。その活動内容は、【子どもの城】各部門が実施するプログラムのサポートから、ボランティア独自で企画、実施する事業まで幅広い。

【子どもの城】では「ボランティアセミナー」を開催してボランティアを養成している。本年度は平成 25 年 2 月に「第 66 期ボランティアセミナー」を実施し 40 人の新規ボランティアを養成。また登録しているボランティアを対象に、「ボランティア登録更新研修会」を行うとともに、日常的な活動をとおして技術や知識の向上に努めた。また、野外活動事業に参加するボランティアを対象に、野外活動に必要な知識・技術の習得と、組織作りを目的に、年 2 回「グレードアップ講習会」を行った。

平成 24 年度の下半期からは、【子どもの城】が置かれる環境の変化に対応するため、ボランティアの新しい体制作りに取り組んだ。

「子ども活動エリア」の各専門分野の職員から、今後ボランティアに期待したい活動内容を調査し、それをふまえて今までのボランティアの活動形態を見直した。活動プログラムへの協力だけではなく、遊び場のスペース管理や受付など、今までとは異なるボランティア活動に、柔軟に対応できる体制作りをしてもらえるように、ボランティア全体に働きかけた。

これらの変化により、ボランティア活動への動機が薄れるメンバーもいたが、今まで以上にボランティアの力を活用することで、安心・安全で効果的なプログラムを展開できる体制を整えることができた。

#### 【児童厚生員等実技指導講習会】

【子どもの城】から全国の健全育成関係者へ情報発信をする〈センター機能〉の一つとして、児童館や放課後児童クラブの職員を主な対象に、実技を中心とした「児童厚生員等実技指導講習会」を 4 回実施した。そのうち 2 回は、児童館や放課後児童クラブの専門職が主に参加する内容で、“遊びの展開技術向上”と“地域組織化”がテーマ。また、2 回は、“人形劇”と“折り紙”がテーマで、児童厚生員に加え、保育所や子育て支援センターなどの専門職が参加しやすい設定とした。

なお、これら 4 回の講習会は、財児童健全育成推進財団の共催を得て、児童厚生員 2 級の資格取得に必要な単位認定を受けた。



野外活動技術を学ぶ グレードアップ講習会

## □□□ 事業の概要(広報) □□□

【こどもの城】の事業・活動をより理解・認識してもらうことを目的に、「こどもの城ニュース」などの印刷物の発行、ホームページなどのインターネットや各種メディアをとおした発信を行った。本年度は以下の項目にも取り組んだ。

### ■■■ 広報活動への取り組み ■■■

#### 【館内情報集約と発信、社会状況の把握と伝達】

告知を目的に広報活動を展開するためには、早めの情報収集が至上命題である。集まった情報をホームページ、ちらし、ニュースリリース、インターネット広報と目的ごとに加工し、発信した。本年度中に発行した各種ちらしは約 68 万部、ニュースリリースは 47 事業について約 1 万 3 千件を発信、207 件の取材を受けた。ホームページの更新はほぼ毎日、年間閲覧ページは約 760 万ページにのぼる。7 月にリニューアルオープンしたレストラン「カフェキャッスル」については、マスコミ対象の内覧会を実施、7 社が出席、多くの記事が掲載された。

#### 【こどもの城】の考え方を発信する広報】

27 年間におよぶ遊び場のプログラム、専門家講習などの人材育成の実践や考え方についての広報活動も適宜行った。機関紙「こどもの城ニュース」については、4 月にリニューアルを行い、家庭でも児童館職員でも活用できるような実践的な記事を心がけた。ホームページは日替わり情報などこれから行われることの告知が中心であるが、その中に事業の考え方を広報する試みとして、「プログラムレポート」を掲載した。事業目的、内容、実施状況、スタッフの感想などを紹介、プログラム立案の考え方や、子どもたちや大人に伝えたいことを織り交ぜて構成、レポート全体で【こどもの城】の考え方、めざすもの、スタッフの取り組みなどを発信している。

また、Facebook も活用し、児童厚生員、保育・小児保健などの専門家を対象とする講習についても、その内容を保護者向けに知らせるなど、"めざすもの" を伝える試みを継続した。

#### 【ホームページに「東日本震災復興支援活動」・「パノラマ映像」を掲載】

ホームページに、【こどもの城】が取り組んでいる「東日本震災復興支援活動」のページを開設した。また、メディアアーティストの橋本典久氏の協力を得て、館内 6 か所で映像を撮影、ぐるりと周囲を見回せるパノラマ映像をホームページに掲載した。継続している Facebook については、毎日情報発信を心がけ、24 年度末で 2,000 人を超える「いいね！」を獲得した。

#### 【地域との連携、地域での広報】

地域と連携をはかる広報活動として、ネットワーク強化と集客を目的に以下の事業を実施した。  
 ①表参道エリアへの親子の来訪増大を目的にクレヨンハウス、表参道ヒルズ・キッズの森と共同で「表参道キッズわくわくプロジェクト」を立ち上げ、親子対象のワークショップを年 2 回実施（9 月・平成 25 年 2 月）。②渋谷・恵比寿・原宿地区の 20 施設の「あ・ら・かるちゃー渋谷恵比寿原宿」としてのマスコミ対象の施設めぐり（7 月）、【こどもの城】秋祭り出店（9 月）、渋谷区民まつり出店（11 月）を実施。③赤坂・青山地域 20 施設のネットワーク「共育情報局」への参加。

### ■■■ これからの広報活動 ■■■

【こどもの城】活動の軸は児童健全育成の現場にある。【こどもの城】を広報する上で最も大切なことは、現場の活動を広報するとともに、子どもたちの成長にとっての〈あそび〉の大切さを広く伝え、またその機会を提供することにある。この点を心がけ、来館児・者へのいねいな情報提供とともに、広く社会へ「こどもの城の伝えたいこと」を発信していくように努力していきたい。

全館的な経費削減方針を受けて広報宣伝費も大幅に削減し、一般紙などメディアへの露出を減らさざるを得なかった。一方、7 月の「カフェキャッスル」オープン、9 月の厚生労働省による【こどもの城】閉館方針発表などの大きなトピックの際には、多くのメディアから注目を集めた。【こどもの城】の活動をていねいに伝達することでメディアとの良好な関係を築いていきたい。

また、渋谷・恵比寿・表参道・青山・赤坂など、近隣の地域施設と協力して活動を行う機会も拡大している。点ではなく面で活動できるようにそれぞれのネットワークと強固な関係を構築していきたい。

## □□□ 事業の概要(総合案内) □□□

総合案内課では、通常行っている受付・案内などに関する業務のほか、「グループ活動」や「友の会」の業務も行った。本年度は、特に遊び場の入口であるアトリウムの雰囲気作りに力を入れ、装飾の充実、ミニコンサートの実施、遊び場の設置などに取り組み、活気ある雰囲気を作りだした。

### 【来館児・者増への取り組み】

【子どもの城】では、多くの来館児・者に気軽に利用してもらうために、各種のフリーパスを発売している。平日には乳幼児と親のための「平日ゆうゆうバス」、土曜日の小中学生のための「小中学生土曜日バス」、夏休み特別期間限定の「夏休みフリーパス」がある。本年度、「平日ゆうゆうバス」(218件)は前年比で64件の減少、「小中学生土曜日バス」(26件)は前年比で6件の増加であった。「夏休みフリーパス」は500件限定で販売し、夏休み特別期間開始早々に目標に達し販売を終了した。

その他、東京都から依頼された「家族ふれあいの日」の割引クーポン、新規に新聞社への招待券販売など、来館児・者増の取り組みをした。

### 【視察・見学対応】

本年度の視察・見学は104件であった。内訳は公的団体6件、児童館・保育所など90件、海外8件である。前年度が126件だったので、件数としては減少したが、人数では前年度(554人)の2倍近い1,073人であった。専門学校・短大などの福祉関係や児童関係の学生が授業の一環で、ゼミやクラス全体で見学するケースが増えたことも前年度より人数が多くなった要因の一つである。

外国からの見学者は、中国から教育者を集めた市の団体が3件見学に訪れた。また視察見学では、施設全体を見学する場合と、専門分野を中心に見学する場合があり、総合案内課だけでなく、それぞれの専門スタッフが対応した。

### 【ギャラリー】

【子どもの城】のギャラリーでは、児童健全育成施設として意義のあるプログラムを実施することを念頭に、さまざまな団体と連携している。本年度は、0歳～100歳のはり絵作品を展示した「はり絵展」や、国境を越えた活動をしている「南北コリアと日本のともだち展」などの外部団体主催の展覧会を開催した。また、【子どもの城】が共催で行う展覧会の中には、渋谷ユネスコ協会が開催する「ヒト展」、インターナショナルスクールが行う「アートスケープ展」などがある。主催事業としては、「全国児童館おりがみ作品展」や「保育活動展」などが行われた。

## □□□ まとめ □□□

本年度は、来館児・者増をはかるための事業展開と、〈センター機能〉の充実をはかる事業展開を重点項目として取り組んだ。【子どもの城】の存在価値を広く社会に伝える具体的な指標として、来館児・者数は重要な指標である。本年度の「子ども活動エリア」入館者数は、410,051人(講座クラブ等受講者数含む)となり、前年度より、10,637人増加した。本年度は東日本大震災の自粛ムードが緩和され、大型連休や子どもの長期学校休暇中は、遠方への旅行やレジャーに対する欲求が高まることが予想されたが、広報やプログラムの充実をはかることで対応した。さらに、平常期間の土・日曜日に焦点をあてて取り組んだことが、結果的に来館児・者の増加へつながったと考えられる。

また、重点項目の2つ目である〈センター機能〉の充実に関しては、全国の児童館に呼びかけた東日本大震災復興支援事業の展開、人材育成事業として児童厚生員などを対象にした専門職講習会の実施があげられる。東日本大震災復興支援事業で全国の児童館と連携して、被災地の子どもたちや家族を応援する「こいのぼりがいっぱいプロジェクト」を実施したように、各地で起こっている児童健全育成上の課題を全国の児童館と共有して、課題解決のためのアクションを起していくことが、センターとして重要な役割だとあらためて認識した。専門職講習会についても、“虐待”をテーマにとりあげると、全国から多くの人が参加したように、時代のニーズや課題に対して敏感に対応する重要性を再確認した。

今後も、国立総合児童センターとしての機能を十分に発揮するためには、具体的な事業内容の立案、展開能力もさることながら、全国各地の情報を集約、分析、再発信していく能力も重要である。

# 平成 24 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■■■ 平常期間（全館事業など）■■■

名 称	日 時	内 容
こいのぼりがいっぱい！ こいのぼり掲揚式	4.8 11:30～12:00	【こどもの城】が全国に呼びかけ、児童館で遊ぶことで“ゲンキになろう”という趣旨のプロジェクト「児童館こいのぼりがいっぱい～みんなでゲンキに！～」のオープニングセレモニーとして実施。東日本大震災の発生から1年が経つ中で復興支援の事業として、その開催を記念し、こどもの城児童合唱団・混声合唱団による歌を楽しみながら、掲揚式を行った。（ピロティ）
小学生プログラム スペシャル	①6.16・17 ②H25.2.9～11	平常期間の毎週土曜日に行っている、各事業部の小学生向けプログラムへの参加促進が目的。6月は、体験発表を中心にして夏の短期講習会や9月からのプログラムをPR。2月は対象学年を下げて新たな参加層の開拓を心がけた。6月＝小学生ラボ「不思議な動きのやじろべえ」／ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部「アンクルン」／ビッグサタデー「バレーボール」／クリエイティブコーナー「金物屋さんペーパーキッチャンツール」 2月＝小学生ラボ「アスキーートにチャレンジ・ミニミニ凧をつくろう」／ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部「ガムラン（9日）・日本の楽器 和太鼓（10日）・アフリカの太鼓 ジェンベ（11日）」／ビッグサタデー「バスケットボール大会（9日）・スポーツ鬼ごっこ大会（11日）」／クリエイティブコーナー「ゆらゆらウイング」（プレイホール、音楽ロビー、造形スタジオ、体育室）
秋まつり	9.22・23 15:00～19:00	閉館時間後の夕方から夜の【こどもの城】を親子で体験する特別プログラム。食べ物や的当てなどゲームの模擬店、夜の暗さを生かしたワークショップ、音楽やパフォーマンスなど。にぎやかなお祭りを来館児・者と楽しんだ。17時以降は入館無料。地元の人々にも楽しんでいただいた。（ふしぎが丘）
ハロウィーンラリー	10.27・28	ハロウィーンにちなんだクイズや各エリアで行っているイベントへの参加で、ポイントを集めて記念のバッチをもらうゲームラリー。（館内各所）
みんなでかざろう クリスマス	12.1～25 開館時間中	クリスマスの雰囲気作りのため、館内各所に手作りのクリスマスツリーを用意し、来館児・者の協力で飾りを作った（手でちぎったケント紙に模様をつける）。絵を描いたり、サンタさんへの願いを書いている子もいた。親子や兄弟、友人同士で作ったものを見せ合っていた。子どもたちの作品が館内の装飾になったので、温かみのある雰囲気になった。（館内各所）
サンタにとどけ！ うたおうクリスマス	12.15 ① 15:00、② 17:00	クリスマスの雰囲気作りと【こどもの城】をアピールするため、こどもの城児童合唱団・混声合唱団によるクリスマスにちなんだ歌の合唱とハンドベルの演奏を楽しむミニコンサートを実施。（ピロティ）
ピコピコ ドルッチャテレビ	H25.1.19 13:00～17:00 1.20 11:00～16:30	当日参加型の子どもも参画事業。“テレビ”を題材に、子どもたち自身で番組制作を行い、遊びのプログラムを発信した。インターネットによるユーストーリーム配信も展開。「子どもの参画とは」「大人の役割とは」について検討を重ね、事業をすすめた。（体育室）
子供未来 とうきょうメッセ	1.26	子どもや子育て、次世代育成を応援している企業や民間団体、自治体などが活動を紹介し合い、子育て情報の発信や連携を期待するイベントへ参加。一般的の乳幼児親子も多く参加するため、【こどもの城】の紹介だけでなく、野外活動の紹介や「アニマル帽」作りの造形ワークショップも実施した。 主催：子育て応援とうきょう会議。（東京国際フォーラム）
きいてみようみてみよう みんなのガムランコンサート ～インドネシアジャワ島の 青銅の打楽器アンサンブル	3.17 ① 11:00 ② 13:00 ③ 15:00	インドネシア・ジャワ島の青銅の打楽器アンサンブル、ガムランのコンサート。【こどもの城】の内外で活動するガムラングループと元ガムラン講座の子どもたちがコラボレーション。ガムランを体験するコーナーも設けた。（アトリウム）
小学校開校記念日招待 (渋谷区・港区)	通年	近隣の渋谷区・港区の区立小学校の児童に、地元の児童館としてもっと利用してほしいとの思いから、開校を記念して全校児童に招待券を配布。開校記念日のある月の1日間のみ有効。本年度の利用率は3.5%で、前年度の3.9%より若干落ちたものの、32校の児童に利用してもらっている。

名 称	日 時	内 容
<b>〈共催・協賛・協力事業〉</b>		
交通安全イベント	4.7	春の交通安全運動のスタートイベントとして、親子・子どもも向け交通安全を学ぶ集い。白バイや騎馬隊も登場し、ゲストに俳優の加藤清史郎さんを迎えて、楽しく交通安全を学んだ。主催:警視庁渋谷警察署。(ピロティ)
ヒト展	6.2～9 開館時間中	11回目を迎えた「ヒト展」。どんなことでも感謝し“ありがとう”的気持ちを持って生きることが大切と考え、今回は「ありがとう」をテーマとした。渋谷区とベトナム・カンボジア・インドなど海外の子どもたちの絵画や彫刻などを展示した。主催:渋谷ユネスコ協会。(ギャラリー)
こままわし大会	6.9 11:00～16:00	こままわしの楽しさを知る体験だけではなく、専門的な技術としてのこまの技や遊び方を、たくさんの人々に伝えることを目的に実施。共催:日本こままわし普及協会。(ピロティ)
育児休業者向け wiwiw カフェ親子 で遊んで学ぼう	6.27	親子で楽しむ英語リトミック参加者同士の交流イベント。育児休業者同士が同じ立場で、休業中の過ごし方や職場復帰の準備、復帰後の働き方などの疑問・悩みを共有・情報交換を行った。主催:㈱wiwiw。(ピロティ)
がんばろう! 東北の 酪農キャンペーン	6.30	復興支援の活動として、被災地の様子を都会の人々に伝えることや震災の影響でダメージを受けた産業の振興などを目的に実施。東北の酪農の現状を伝えるパネル展示、牛乳やチーズなどの乳製品の試飲・試食や、牧草を使った遊びのコーナー、牛乳パックを使った帽子作りのコーナーも実施。主催:東北酪農青年婦人会議。(ピロティ)
楽しい大型絵本! 「森の戦士ボノロン」	7.15	ボランティアで活動をしている歌手「うちやえゆか」さんによる『森の戦士ボノロン』の絵本の読み聞かせ活動。『ボノロン』はセブン銀行のCSR活動として無料配布している読み聞かせ絵本のシリーズ。(プレイホール)
平和・国際都市 渋谷の日	10.1	10月1日は「平和・国際都市 渋谷の日」。区内施設の無料開放の依頼に協力。渋谷区内在住・在学の3～17歳の利用を無料とした。
アートスケープ展	H25.3.2～3.17 開館時間中	首都圏のインターナショナルスクールの合同美術展。13校の小5～高3の子どもたちの絵画、版画、写真、陶芸などの作品約600点を展示。個性的な作品がそろうこの展覧会は、「こどもの城」では28回目。(ギャラリー)

### ■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
<b>〈児童福祉週間〉</b>		
忘れない!みんなでゲンキに!児童館こいのぼりがいっぱい	3.24～5.27	3月下旬～5月末という長期にわたって、屋上から正面広場を利用して、日本鯉のぼり協会から寄贈された100匹のこいのぼりを掲揚。被災地を含め全国の子どもたちに、「ゲンキになろう」とのメッセージを伝えた。(ピロティ)
〈 〃 〉 でかでか でっコいのぼり	4.28～30 5.3～6 開館時間中	長さ4.8mの真鯉と3.6mの綾鯉の骨組みを用意し、子どもたちが作ったうろこをはりつけて、大きなこいのぼりを完成させた。987人が参加。こいのぼりは、5月31日まで展示。(アトリウム、エントランスホール)
〈 〃 〉 バブバブベビータウン	4.28～4.30、5.3～6 11:00～17:00 (6日のみ16:00まで)	3か月～2歳11ヶ月の、乳幼児と保護者のための居場所。手作りおもちゃ、音のできるおもちゃ、木のおもちゃなどで遊べる場所。幼児～学童の入館が増える時期に、乳幼児親子延べ1,725人が利用し、ゆったりと遊んだ。またスタッフが常駐し、利用者に支援を行った。(Aスタジオ)
〈 〃 〉 西遊記のドキドキマジックショー	4.30 ①12:30②15:00	体育室を会場に、誰もが参加して楽しめる公開イベント。内容は、①みんなで歌おう!、②西遊記ドキドキマジックショー、③ゲンキげんきゲーム大会の3部構成。協力:小学館クリエーションリーダーズクラブ(体育室)
〈 夏休み 〉 児童館こいのぼりがいっぱい報告コーナー	6.23～8.17	児童館などでの遊びを通じた復興支援事業「児童館こいのぼりがいっぱい」に参加した、全国275館の施設から寄せられた写真と文書による報告を展示了。参加館の子どもたちが作ったこいのぼりも借りて会場に飾り、華を添えた。(ギャラリー)
〈 〃 〉 バブバブベビータウン (夏休み)	7.21～9.2 11:00～17:00 (9.2日のみ16:00まで)	ゴールデンウイーク(児童福祉週間)特別期間と同じ。延べ8,257人の乳幼児親子が利用。(Aスタジオ)

名 称	日 時	内 容
夏のハーブイベント	8.6 13:00～	ハーブの演奏家を迎え、デモンストレーション演奏と楽器に触れる時間を設けた。入り口で華やかさを演出しつつ、触れる機会の少ないハーブを知るきっかけを提供。主催：銀座十字屋ハーブ＆フルートサロン。（アトリウム）
〈 〃 〉 はたらく消防の写生会渋谷区入選作品展	8.11～9.17 開館時間中	渋谷消防署管内の小学校で開催された、「はたらく消防の写生会」の入賞作品 111 点を展示、啓発活動用のポスター・ちらし、消防車両などの写真パネルも展示。展示を通じて防災の啓発をした。（エントランスホール）
〈 〃 〉 ブレイ！ブレイ !! ブレイ !!!	8.21～8.24 10:00～17:00	東日本大震災中央子ども支援センターからの協力依頼により、県外避難している世帯を【こどもの城】へ招待した。遊んでリフレッシュしたり、また相談の窓口を設置した。（10 階研修室・会議室）
〈ファミリーフェア〉 ピコピコ ドルッチャテレビ	11.3 13:00～17:00 11.4 10:00～17:00	子ども参画事業として実施。子どもたちの生活の身近にある“テレビ”を題材として、子どもたち自身で番組制作を行い、遊びのプログラムを発信した。インターネットによる動画配信も実施。（B スタジオ）
〈 〃 〉 第 13 回全国児童館おりがみ作品展／第 19 回おりがみカーニバル	11.3～11.25 開館時間中	〈元気にスポーツ〉をテーマにした「第 13 回全国児童館おりがみ作品展」（立体 12、壁面 13、写真参加 6 の合計 31 作品）と、〈希望〉をテーマにした日本折紙協会員の作品を展示する「おりがみカーニバル」を開催。折って遊ぶコーナーを土・日曜日、祝日に実施した。協力：日本折紙協会。（ギャラリー）
〈 〃 〉 第 17 回 赤ちゃん大集合	11.7 10:30～15:30	3か月～2歳未満の乳幼児と保護者が対象。研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で、「小児科医師の話」「井戸端会議」「子育て相談」を行った。また、8階の育児用品関係の企業・団体による「情報・展示コーナー」を実施。活動エリアでも「みんなにこここ広場」「ごろごろハイハイ／たっちたっちタッタッタッ／てくてくピョンピョン」「It's a ベビーワールド」「うたってバブリン／あそんでバブリン」「親子の ZOO っと広場」「なかよし映像広場」「紙のおふろ体験」などを実施した。参加者は 1,512 人（741 組）。全館事業として実施。入館券対応。（研修室ほか）
〈 〃 〉 パパもいっしょにベビータウン	11.23・25 11:00～16:00	父親に“子ども”や“子育て”に目を向けてもらおうと、各日 2 回、1 回 30 分程度、パネルシアターや運動遊び、簡単な工作などの“父親と乳児のためのプログラム”を実施。プログラム時間外は、親子で楽しめる“乳児のための遊び場”を設置。参加：2 日間延べ 208 人。（A スタジオ）
〈冬休み〉 バブバブベビータウン	12.22～H25.1.7 11:00～16:00	ゴールデンウイーク（児童福祉週間）特別期間と同じ。延べ 1,342 人の乳幼児親子が利用。（A スタジオ）
〈 〃 〉 おそなえ餅づくり～年末にお餅つき	12.26 ① 10:15 ② 13:00 ③ 15:00	家族でもちについて、自分の家に飾る小さな「おそなえもち」を作った。正月の文化や慣習、もち米からもちへの変化、手ざわりなどを家族いつしょに体験できる、人気の季節行事。参加：68 家族 172 人。（フリーホール）
〈 〃 〉 こま名人来たる！ こまばふおーまんす	1.4 ① 11:00 ② 13:00	“こまたけちゃん”による、投げごまやディアボロのパフォーマンス。正月プログラム「新春遊びのお年玉」とあわせて実施。ボランティアとともに、こまわしなども指導。【こどもの城】の活動を多くの人に伝える、ピロティの活用事業。（ピロティ）
〈 〃 〉 ひびけ！めでタイコ	1.6 ① 11:00 ② 13:00	新春を盛り上げる、和太鼓講座の小学生によるミニコンサート。同講座指導者がかかわっている「助六太鼓」の子どもたちも加わり、にぎやかに演奏。【こどもの城】の活動を多くの人に伝える、ピロティの活用事業。（ピロティ）
〈 〃 〉 新春もちつき大会	1.7 13:00～15:00	お正月を祝って、来館児・者ともちつきを楽しむ集い。ついてくれた参加者（約 800 人）には、つきたてのお餅をふるまつた。（ピロティ）
〈春休み〉 0.1.2. 歳の ぽかぽか広場	3.24～4.7 11:00～16:00	3か月～2歳 11か月の乳幼児と保護者のための遊び場、居場所。さまざまなおもちゃを用意し、乳幼児親子がゆったりとすごせ、他の親子との交流もできる場となった。またスタッフが常駐し、利用者に支援を行つた。（A スタジオ）

## ■■■ その他 ■■■

名 称	日 時	内 容
グループ活動	特別期間を除く 平日の午前中	平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、遊びのプログラムを提供。本年度は、119 グループ 2,488 人（前年度は 129 グループ 2,789 人）を受け入れた。全体の 3 分の 2 が未就学児童、3 分の 1 が小学生と特別支援学級や特別支援学校、自主保育グループ。中高校生の利用が 2 件。
こどもの城友の会	通年	家族単位で入会し、【こどもの城】の活動をサポートする。会報「こどもの城友の会通信」を年 12 回発行。特典は、入館招待券のプレゼント、友の会限定のプログラムへの招待、青山劇場・青山円形劇場公演への招待・優待、【こどもの城】内外の催しへの招待・優待、遊び場以外の施設利用割引（売店・ホテル）などがある。新規プログラム実施の際の、モニター機能も持つ。本年度末の会員数は、283 家族（前年度は 540 家族）。
来館促進活動	〃	各種優待バスの企画、入館キャンペーンの企画・実施、【こどもの城】の地元となる渋谷区・港区内の小学校などへの働きかけなど、【こどもの城】への来館を促進するための活動を行った。

## □□□ ボランティアの活動 □□□

## ■■■ 定例活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
保育活動 (保育研究開発)	月～金曜日 10:00～16:30	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り運営補助。 (保育室ほか)
赤ちゃんサロン (小児保健)	第1・3・5火曜日 11:00～14:00	小児保健スタッフと共に、乳幼児と親を対象にいつしょに遊んだり、親との会話、相談したい人をスタッフにつなぐなどの運営をサポート。(音楽ロビー)
ぽかぽか広場 (事業本部)	第2・4火曜日 11:00～14:00	各部門のスタッフが交代で担当する「子育て広場事業」のサポートを行う。 (音楽ロビーほか)
水ようこそにこ広場 (紙芝居／人形劇／影絵) (ブレイ)	水曜日 15:00～15:30	第1・3週は「紙芝居」、第2週は「人形劇」、第4週は「影絵」。各女性ボランティアグループが担当し、公演を行う。 (プレイホール)
おりがみあそび広場 (ブレイ)	木曜日 14:30～15:30	毎回1～2種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝えながら、いつしょに遊ぶ。 (プレイホール)
みんなの楽器屋さん (音楽)	木曜日 15:00～15:30	プログラム導入の手遊びなどで、子どもたちをサポート。年数回、季節にちなんだ童謡などをトーンチャイムなどで演奏することもある。(音楽ロビー)
絵本であそぼっ (事業企画)	金曜日 14:00～14:30	幼児とその親子を対象に、絵本の読みかたり。その後、少しの時間、個別に絵本を読む時間も設ける。 (Aスタジオ)
みかんちゃんズの オバオバサンバ(音楽)	金曜日 14:15～14:45	スタッフとともに“サンバ”的リズムを中心としたリズム遊びの活動。演奏やプログラム進行を行う。 (音楽ロビー)
布おもちゃ (事業企画・ブレイ)	金曜日 10:30～15:30	プレイホール幼児コーナーの「抱き人形」や、赤ちゃんも遊べる遊具の制作。季節ごとの環境設定を手作りの手芸品で行う。 (ボランティアオフィス)
ビッグサタデー (体育)	土曜日 10:30～11:45	小4以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケットボール、バレーボール、テニスなど基礎練習から試合まで行う。 (体育室)
不思議な映像実験室 (AV)	土曜日 15:00～17:30	来館児・者を対象に行う視覚がん具作りのワークショップ(主にくるくるアニメ)の運営補助。 (音楽ロビー)
手足の不自由な子の スイミング(体育)	土曜日 17:00～18:00	講座に参加する子どもたちにボランティアが1対1でサポート。水泳の補助や安全面に配慮する。 (プール)
土曜昔あそびの会 (事業企画)	第2土曜日 14:00～17:00	屋上ふしげが丘を中心に、こまや三つ馬などの伝承遊びを実施。親子での参加が目立つ。 (ふしげが丘ほか)

名 称	日 時	内 容
こどもの城アドベンチャー (事業企画)	月1回土曜日 14:00～16:30	こども活動エリア全体を使った、ウォーカリー形式のゲーム。館内に設置された課題を探し、謎解きをする。子どもたちに人気のプログラム。(全館)
ボラカフェ (事業企画)	月1回土曜日 18:30～20:30	青年ボランティア各グループで構成される組織。活動の活性化をめざし、交流会、学習会、機関紙の発行などを行う。セルフヘルプ活動。(研修室ほか)
キッズクラブ (プレイ)	月2回土曜日 15:00～17:00	小1～4を対象に行う年間をとおした活動を運営する。プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。(会議室ほか)
ユースクラブ (プレイ)	月2回日曜日 13:00～17:00	小5～中3を対象に行う年間をとおした活動で、プログラム企画・準備、グループワーカーとしての役割を担う。(会議室ほか)
L.I.T.=高校生ボランティア (事業企画)	月2回日曜日 10:00～16:00	年間をとおして高校生が行うボランティア活動を支援。ボランティアは、プログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとしての働きを担う。(会議室ほか)
おはなしや (事業企画)	月1回日曜日 11:00～14:30	本年度から、「青年人形劇」「パネルシアター」の合同公演に変更。それぞれの公演を各1回行う。公演の合間は、パネル布を使ったワークショップで自由に遊ぶ時間。(プレイホール)
絵本のよみかたり (事業企画)	月1回日曜日 14:00～14:30	保育室の1～2歳の遊び場で絵本の読みかたり。4～5冊程度の絵本を読み、その後、自由に絵本を読む時間(約10分)も設けている。(保育室2)
つくってあそぼう !!! (事業企画)	月1回日曜日 14:00～16:30	小学校低学年を対象に、身近な素材で手作りおもちゃのワークショップを行う。(フリーホール)
日曜クラブ (事業企画)	月1回日曜日 11:30～12:00	縄跳び、フラフープ、ドッジボールなどを実施。幼児～小学生と親の参加がある。最後に、レクリエーションゲームの集い(30分)も行う。(ふしきが丘)
女性総会 (事業企画)	月1回(年齢別に提示/火～金曜日) 11:00～12:00	女性ボランティア各期のメンバーが、毎月交代で会議に参加し、連絡事項、検討事項を話し合う。女性ボランティア全体の活性化をめざすことが目的。
あかちゃんといっしょの子育て学習会 (小児保健)	年3回金曜日 10:30～15:00	親子いっしょに参加する学習会で、親が集中できるように、同じ部屋で赤ちゃんの遊びをゆったりと見守る。
花壇ボランティア (事業企画)	月1回木曜日	本年度から本格始動。エントランス近くの花壇に、「ひまわり100本計画」を企画し、ボランティアに呼びかけ、自宅で本葉まで育てて花壇に移植したが、日陰のため、花が咲かず失敗。その後は、定期的に花壇の草取り、植物の植え替えなどを実施。チューリップ花壇は成功。
ピコピコ ドルッチャテレビ	11.3・4 H25.1.19・20	プログラムに参加する子どもたちといっしょに、番組制作を行う活動を支援する。事前の準備活動にも参加し、小学校5～中学生の《実行委員》(ディレクター)として活動する子どもたちの、相談役兼つなぎ役。当日は「ゲーム屋さんエリア」全体を見渡し、必要に応じた最小限のサポートを心がけた。

### ■■■ 特別期間中の活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 おもちゃ箱シアター (事業企画)	5.3～6	紙芝居、人形劇、影絵、絵本、パネルシアターなど、表現活動系のボランティアグループが集い、日替りで公演。また、小学生以上を対象にした「キッズ人形劇団」(1時間程度の練習の後、公演)や、ペーパーサートのワークショップも行う。(研修室)
〈 〃 〉 ホップ!ステップ! トランプ王国 (事業企画)	4.28～30 12:00～16:00 5.3～6 11:00～16:30	トランプ王国を舞台にしたゲーム大会を実施。トランプをテーマにした数種類のゲームをクリアするともらえるトランプを集め、トランプ王国の王様から「マスタートランプナイトの証」をゲットするゲーム大会。(ふしきが丘)
〈夏休み〉 きょうふ!!オバケ屋敷 (事業企画)	8.25～9.2 12:30～16:30 ※8.25・26、9.1・2は11:00～	前年度好評だった企画。「みっちゃんのわすれもの」と題し、忘れ物をしたみっちゃんに届けに行くという内容。幼児から高校生、また平日の幼児を連れた親子までにも、大人気のプログラムとなった。(Bスタジオ)
〈 〃 〉 われらキャッスル海賊団 ～幻の幽霊船を追え!～ (事業企画)	8.26・27 11:00～16:00	L.I.T.が実施したストーリー仕立ての館内ラリー。来館児・者が、海賊団に入団し、羅針盤を取り戻すために協力するという設定。それぞれのゲームは協力して複数人で行えるゲームとした。最後に悪の海賊との戦いの場面も設けた。(館内・保育室1)

名 称	日 時	内 容
〈ファミリーフェア〉 みてこ！よってこ！ てこてこパーク (事業企画)	11.23～25	大人と子どもが心を通わせる空間をめざす、「公園」をテーマにしたボランティアプログラム。新聞紙プールやこままわし、縁台将棋などを実施。初日は雨のため、B スタジオで実施。 (ピロティ)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉 ～あそび極めてへび一級～ (事業企画・プレイ)	12.26～28 13:30～16:00 H25.1.4～7 11:00～16:30	“三世代で遊べる”遊びこむ”をテーマに、こまやあやとりなどの昔遊びと、幼児も楽しめるように、少ない枚数ができるように工夫をした百人一首も実施。遊びと「七福神カード」をもらうことができる。プレイ事業部との共同企画。 (プレイホール、ピロティ)
〈春休み〉 みてこ！よってこ！ てこてこパーク (事業企画)	3.29～31 11:00～17:00	秋に実施したものと同様、「公園」をテーマにしたプログラム。今回は参加者がコースを組み替えられる「巨大迷路」を取り入れた。大縄やボードゲーム、クイズ大会のほか、駄菓子屋も運営し、子ども同士の交流の場を設けた。 (ピロティ)

## □□□ 広報活動 □□□

名 称	日 時	内 容
「子どもの城ニュース」の編集・発行	毎月 1 日発行	<p>毎月 1 日発行。B3 判、表面 4 色、裏面 1 色印刷。各号 17,000 部発行。主な配布先は下記のとおり。</p> <p>都道府県児童館連絡協議会など (3,250 部) / 都道府県児童福祉主管課 (3,200 部) / 子どもの城友の会 (約 1,000 部) / 渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校 (330 部) / 渋谷区町会ほか (220 部) / 市町村 (1,000 部) / その他・一般来館児・者、視察・見学者など (約 8,000 部)</p> <p>◇主な内容◇</p> <p>第 240 号 (4 月 1 日号) = 速く走るコツ、体育フロアの活動から</p> <p>第 241 号 (5 月 1 日号) = 新しい仲間や友だちと遊ぼう！プレイホールの活動から</p> <p>第 242 号 (6 月 1 日号) = 親子で楽しむ！音楽遊び！音楽ロビーの活動から</p> <p>第 243 号 (7 月 1 日号) = 児童館で映画会しようよ！ビデオライブラリーの活動から</p> <p>第 244 号 (8 月 1 日号) = 紙でアートやってみよう！造形スタジオの活動から</p> <p>第 245 号 (9 月 1 日号) = 転んでも遊べ！子どもたち！小児保健クリニックから</p> <p>第 246 号 (10 月 1 日号) = 手作り楽器でノッて！合わせて！楽しんで！ 音楽ロビーの活動から</p> <p>第 247 号 (11 月 1 日号) = 子どもは創造力のかたまり！保育室の活動から</p> <p>第 248 号 (12 月 1 日号) = 思わず作りたくなる仕掛けがいっぱい 造形スタジオの活動から</p> <p>第 249 号 (平成 25 年 1 月 1 日号) = みんなでこまをまわそうよ！プレイホールの活動から</p> <p>第 250 号 (2 月 1 日号) = なわ遊びっておもしろい！体育フロアの活動から</p> <p>第 251 号 (3 月 1 日号) = 広がれ！遊び！好奇心！ビデオライブラリーの活動から</p>
ホームページの運用	通年	催し物情報の提供を中心に運営。日替りプログラム、季節プログラム、特別プログラム、遊び場の紹介、事前申し込み制で行う講座・講習会などの募集案内、小児保健クリニック、保育などの情報をほぼ毎日更新。このほか、公益財団法人児童育成協会、〈動く子どもの城〉など、計 4 サイトの更新と運営を行っている。
インターネットで行う広報	随時	ホームページの更新に加え、Facebook を利用した広報活動として毎日記事と画像を掲載、情報の発信に努めた。
特別期間のちらしの作成	特別期間開始日の 1か月前	<p>以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成した。</p> <p>○児童福祉週間 (ゴールデンウイーク) 特別期間ちらし (A4 判 / 4 色 × 2 色 / 22,000 部)</p> <p>○夏休み特別期間ちらし (B4 判 2 つ折り / 4 色 × 1 色 / 45,000 部)</p> <p>○冬休み特別期間ちらし (A4 判 / 1 色 × 1 色 / 17,000 部)</p> <p>○春休み特別期間ちらし (A4 判 / 4 色 × 2 色 / 27,000 部)</p> <p>※英語版 (1 色 / 簡易印刷) もあわせて作成した。</p>
平成 25 年度 講座・クラブ一覧	H25.1 月	次年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。 B4 判 2 ページ (2 色)、153,000 部印刷。
館内リーフレットの作成	H24.3 月	館内案内リーフレットを改訂して印刷。90,000 部印刷。
その他のちらしの作成	通年	講座・クラブの募集ちらし (2 期、3 期、夏休み短期講座)、月間カレンダーを年間延べ 150,000 部作成した。

名 称	日 時	内 容
<b>新聞広告</b>		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への記事広告掲載のほか、次年度講座募集の案内ちらしの折込広告を実施した。その他の新聞広告などは、経費削減のため出稿を取りやめた。
<b>催し物案内ほか</b>	通年	朝日小学生新聞（年2回）と毎日小学生新聞（年1回）に記事広告を特約掲載。
<b>平成 25 年度 講座一覧折込</b>	H25.2.8	講座募集一覧を、朝日新聞（2月8日朝刊）に71,700部、日本経済新聞（2月8日朝刊）に50,850部、折り込んだ。
<b>その他の広告</b>		
<b>ウェブ</b>	通年	以下のサイトに定期的に情報を入力し配信機能を使って広報活動を行った。 毎日新聞の情報紙ウェブ版「エリア毎日」／Event Bank（株）イベントバンク）／Dokka! 関東おでかけ探検隊（株）Dokka エンタープライズ）／るるぶ.com
<b>読者プレゼント・ 割引クーポン</b>	随時	ファミリー向けの雑誌に割引クーポン、招待券プレゼントなどで協力し、適宜記事を掲出した。 「るるぶこどもとあそぼ！首都圏版」（JTB パブリッシング）／「るるぶこどもとあそぼ！夏休み」（JTB パブリッシング）／「まっふる 家族でおでかけ 夏号」（昭文社）／「まっふる 家族でおでかけ 秋号」（昭文社）／「春ぴあ 2012 首都圏版」（ぴあ）
<b>取材関係</b>	通年	取材の申し込みを受け、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。 新聞 43（21）、テレビ・ラジオ 30（20）、雑誌 52（65）、その他 87（33）で、全体では 212（139）。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。さらに、取材対応とは別に、47（36）事業について約 13,000 件のニュースリリースを郵送、メール、ファックスで送った。
<b>あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿</b>	"	渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力して PR 活動などを行う。NHK スタジオパーク、渋谷 CC レモンホール、たばこと塩の博物館、トーキョーワンダーサイト渋谷、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリー TOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、地球環境パートナーシッププラザ、国連大学ギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、東京都立中央図書館、エビスピール記念館、山種美術館、JICA 地球ひろば、東京都写真美術館、子どもの城の 21 施設が参加。本年度は事務局の一員として会の運営に主体的にかかわった。 「子どもの城秋まつり」（9月）に輪投げのゲーム店「あらわなげ」を出店、また「渋谷区民まつり ふるさと渋谷フェスティバル」（11月）に参加して「あ・ら・かるちゃー」を PR した。さらに、旅行業界、出版業界対象のプレス発表・施設巡りを 9 月に開催。知名度アップを目的に参加館を巡るスタンプラリーを年間をとおして実施した。
<b>青山・赤坂 共育情報局</b>	"	赤坂・青山地区の子どもを対象とする施設・団体が集まり、交流・情報交換を行い、子ども向け事業の情報提供を行った。赤坂小学校、青山小学校、青南小学校、赤坂中学校、青山中学校、青少年対策赤坂地区委員会、青少年青少年対策青山地区委員会、青山児童館、赤坂子ども中高生プラザ「なんでも～も」、赤坂図書館、NPO 法人 檜町公園遊びを考える会、サントリー美術館、21-21 DESIGN SIGHT、フジフィルムスクエア、先端技術館@TEPIA、すみっこ文庫、青山ライオンキッズクラブ、港SC、みなとスポーツ吹矢会、「子どもの城」の 20 施設・団体が参加している。「共育まつり」（11月 / 檜町公園）に連動し、ファミリーフェアの告知を行った。

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
L.I.T. (Leader In Training)	(人) 高校生 (30)	(人) 18	日曜日 10:00～16:00 (原則／月 2 回)	高校生の社会参加プログラム。トレーニング中のリーダーという意味で、【こどもの城】を中心に、〈あそび〉をとおして子どもたちとふれあうボランティア活動。平成 23 年 9 月から平成 24 年 8 月まで、月 2～3 回活動した。年に数回、子どもたちを対象としたプログラムを企画・運営し、ボランティア活動を行うことの楽しさや喜びを体験的に学んだ。受講料 = 10,000 円 (1 年間)。

■■■ 専門指導者向け講習会など ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成 24 年度 こどもの城 児童厚生員等 実技指導講習会	第 1 回 遊びの専門技術 ～アレンジで広げる遊びの可能性～ (児童館職員ほか)	(人) 34	6.6・7 10:00～16:30	遊びを「アレンジ」することがテーマ。遊び・スポーツ・造形の 3 つの分野の活動を素材に、ひとつのプログラムをさまざまにアレンジし、遊びを広げ、より楽しく活動する方法を実践しながら体験。講師：【こどもの城】専門スタッフ。受講料 11,000 円。
	第 2 回 つくって演じる人形劇～身近な素材で子どもと楽しむ人形劇～ (30)	31	8.19 10:00～17:00	靴下・軍手・スポンジなどの身近な素材を使った人形作りと、子どもたちに見せる人形劇の実習。また日常の集いやイベントで人形を効果的に使うコツを指導。講師：鹿島佳子さん（人形劇・木ぐつの木）。受講料 7,000 円。
	第 3 回 おりがみにつよくなれる講習会～子どもの遊び応用～ (50)	54	11.17 13:00～16:00	きれいに折るポイントや、折り図の見方、子どもへの伝え方など、初心者向けに子どもといっしょに楽しむ折り紙について指導。折って遊べるものを中心に、季節を題材にしたものも紹介。講師：鶴下富美子さん（日本折紙協会）。受講料 4,000 円
	第 4 回 子どもを育てるコミュニケーション～児童館と地域の関係を考える～ (50)	32	H25.1.23～25 10:00～16:30	【講義】地域社会とこどもの育ち～子どもが育つ環境を考える～(講師：早稲田大学大学院教授・増山均さん) / こども、親、地域住民と心をつなぐコミュニケーション技術～知って身につき、関係がよくなる話し方～(講師：とも子塾・竹之内裕子さん) 【事例発表】子どもが育つ地域とのコミュニケーション／(事例報告：名古屋市中川児童館長・原京子さん、せたがや子育てネット代表・松田妙子さん、大田区子ども交流センター・五十嵐一裕さん)。他に各参加者の施設のアクションプランを作成。受講料 14,000 円。
平成 24 年度 登録ボランティア研修	平成 24 年度こどもの城登録希望ボランティア	延べ 255	4.21 5.10・12・13 各日 9:30～12:00	登録更新をしたボランティアを対象に、事業方針や、小児保健部門の視点から来館親子の様子の説明、話し合い中心のワークショップを実施。ボランティア活動の活性化をめざした。(会議室)
第 66 期 ボランティアセミナー	18 歳以上 (進路決定の高校生) (30)	40	H25.2.2～3.2 19:00～21:00	進路が決定した高 3 以上の学生・社会人が対象。「ボランティアはじめのいっぽ」「『発掘』あそびごころ・こどもごころ」などの概論のほか、グループ活動などを行った。(会議室)
グレードアップ 講習会	こどもの城ボランティア (各 30)	18 10	6.30、7.1 H25.2.16・17	夏の野外活動、春の雪上活動におけるキャンプ活動の充実をはかり、ボランティアの資質向上と技術向上をめざす講習会。

■■■ 野外活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
ジュニア・アウトドア・スクール 2012	8.7～11	小 4～中 3 を対象とした全日程テント泊、自炊のキャンプ。班ごとにテントを持って 1 泊するアウトトリップのほか、アドベンチャーゲーム、小中学生別プログラム（登山、沢登り）など、大自然につつまれ、班の仲間とともに、思い切り活動を楽しんだ。参加者 66 人。場所は独立行政法人国立花山青少年の家南蔵王野営場（宮城県）。
ジュニア・スプリング・キャンプ 2013	H25.3.25～3.29	小 3～中 3 を対象とした施設宿泊型のキャンプ。晴れ、雨、雪、霧とさまざまな表情を見せる大自然の中、定番となっている「イグルー作り」、クロスカントリースキーや雪上テント泊にチャレンジするメンバーの姿も見られた。参加者 68 人。場所は、独立行政法人国立妙高青少年自然の家（新潟県）。

# 体育



集中水泳講習会



ガンバ体操教室

## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

体育部門の活動は、水泳・体育の講座・講習会と、一般来館児・者を対象にした〈スポーツ遊び〉の活動に大きく分けられる。いずれの活動も、基本方針は安全管理を土台に、“運動の楽しさ”を子どもたちに感じてもらうことを目的に事業運営をすすめた。

また、運動の楽しさとともに、〈あそび〉の重要性を講座生の親や一般来館児・者に伝えることを大切にした。子どもにとって大切な行動体力（瞬発力、筋力、敏捷性など）は、〈あそび〉のなかで多く養われる。このことは親にとっても理解しやすく、講座では話や書面で伝えたり、一般来館児・者には掲示して伝えるようにした。さらに、前年度から始めた幼児と親を対象にした一般来館児・者活動「親子の体操」（日曜日・祝日の 11 時～12 時／体育室）の参加者が増えてきたことから、本年度の重点目標として、幼児向けの活動の充実を掲げた。また、子育て支援の一環として、一般来館児・者活動における父親の参加促進を目標にした。

### □□□ 事業の概要 □□□

バドミントン 2 面分の大きさの体育室と 25 メートル × 5 コースのプールを中心に、〈あそび〉の要素が多く含まれる一般来館児・者を対象にした活動と、赤ちゃんと親向けから小中学生までを対象にした講座・講習会を、年間を通しておして行っている。夏休み特別期間には、「ちびっこプール」を屋上に設営し、乳児と親向けにプール遊びができるようにしている。

#### ■■■ 一般利用 ■■■

平常期間の体育室は、土曜日の午後と日曜日に一般来館児・者向けの〈スポーツ遊び〉のプログラムを実施している。〈スポーツ〉というと、特別な訓練が必要に思われ敬遠されがちなイメージであるが、〈あそび〉を付け加えることで、“身近さ”を感じて誰もが参加したくなるようなイメージになる。このように気軽にスポーツに親しんでもらいたいという願いから、〈スポーツ遊び〉という表現を使っている。

種目はドッジボールやサッカーなど、なじみのある種目からプラスティックのステイックを使つ

てプレーするユニホック（ホッケー）などのニュースポーツを多く取り入れている。また、特別な道具を使わず、かなりの運動量が期待でき、どこでも手軽に楽しめる鬼ごっこを祝日に取り上げている。鬼ごっこにもさまざまな種類があり、【子どもの城】では指導法や遊び方にアレンジを加え、幼児や親子でも、誰にでもできるように工夫して実施している。

重点目標に掲げた幼児向け活動の充実は、親も取り込み、親子で楽しめる活動とした。日曜日の午前中を中心に、親子でのスキンシップ体操、ペタンクやユニホックなどのニュースポーツ、またサッカーなどのプログラムを週がわりで実施した。回を重ねるごとにリピーターも増え、おそろいのスポーツグッズを身につけて参加する親子もいるなど、人気のプログラムとなつた。



親子のスキンシップ体操（「親子の体操」から）

### ■■■ 講座・クラブなど ■■■

親子、幼児、小学生（「シニアスイミング」「新体操」は高校生まで）を対象に、水泳・体育の講座を開講している。親子の講座は体操と水泳のコースがあり、対象年齢は1・2歳、2・3歳の枠で行っているが、常に満員状態が続いている。親と子がいっしょに体を動かすことでコミュニケーションをはかるよい手段となっているようだ。

「幼児水泳」の講座では、泳法は重視せず身の安全確保を第一に指導している。もともと「幼児水泳」は溺れる事故を無くすために発案されたものであり、水の中で楽しく遊べ、浮いて呼吸の確保ができるようなカリキュラムになっている。年長ぐらいになり、体に余計な力が入らなくなつてボディーイメージができるようになった子どもには、クロール、背泳ぎなどの泳法を指導している。

「小学生水泳」では10級～1級のレベルに班分けをして（学期に1度判定会を行い級を決める）指導している。クロールが完成したら次の泳法という形ではなく、カリキュラムの中に4泳法が習得できる要素を組み込み、4泳法が自然に身につくような指導方法をとっている。

体育の講座は、体育嫌いを無くすことを前提に指導している。体を動かすことのおもしろさ、汗をかくことの気持ちよさを多くの子どもたちに体験してもらうことがスタッフの願いでもある。器械体操を指導する日であっても、鬼ごっこをウォーミングアップに取り入れている。鬼ごっこは昔も今も子どもの〈あそび〉の代名詞みたいなものである。子どもたちの多くにとって大好きな〈あそび〉であり、道具も必要なく相当の運動量が期待できる〈あそび〉でもある。子どもたちの体力や理解力を考え、いろいろなアレンジを加えた鬼ごっこを組み込み、体育講座を行っている。

成人向けの講座としては、午前中を使いスイミングとリズム＆ストレッチを週4回「レディースコース」を開講。また、インストラクトコースの「成人集中水泳教室」を月7回開講している。25メートルのクロール完成のコースと4泳法習得コースに分かれる。

大人の会員制スポーツクラブ「ダイナミックスポーツクラブ」は、子どもたちの講座が無い昼間（12時～13時30分）と夜間に運営し、近隣住民や勤務先が近くの人が多く利用している。

### □□□ スポーツ遊びプログラム □□□

#### ■■■ 特別期間のスポーツ遊びプログラム ■■■

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、利用者のニーズや季節にそったテーマを決めて、毎年プログラム作りをしている。一般に来館する子どもや親子を対象にしているため、集まった子どもたちの年齢もさまざまであり、その時々の子どもたちの様子をみながら、参加者全員が楽しめるようにアレンジを加えて行っている。

児童福祉週間では、オリンピックイヤーということもあり、夏の大会のプレプログラムとして「もうすぐロンドン五輪 こどもの城プレリンピック」を行つた。

夏休み特別期間はオリンピック開催に伴い「みんなで挑戦！子どもの城 城リンピック」を行った。正式種目からアマチュアスポーツ、ニュースポーツまで取り入れ、子どもたちにわかるように、複雑なところはアレンジを加えて指導した。

また、特別プログラムとして「It's ライフセービング～たのしい夏にするために～」を本年度も海の日に行った。夏休みの前に「日本ライフセービング協会」の協力で行っているこのイベントは、海の知識（危険な生物、波の性質など）、身を守る手段などをレクチャー。また、着衣泳やトラブル回避などの実習を行っており、毎年恒例になり好評を得ている。

冬休み特別期間は、「七福神スポーツあそびめぐり」を行った。行動体力（瞬発力、柔軟性、敏捷性など）を使わなければクリアできないポイントが5つ、スタッフが行う運動プログラムへの参加でもらえるポイントが2つ、「七福神」にちなんだ計7つのポイントで、スタンプがもらえる。1日でスタンプが集まらなくても、期間中いつでも使え、再度来館して集めることができるようになつた。

春休み特別期間は、誰にでも簡単にできて楽しめるなどをねらいに、bingoゲームとスポーツをあわせ、「～春一番の運だめし～bingo DE スポーツ」を実施。行うスポーツ種目が書かれてあるbingo用紙をもらい、体験したスポーツを消していくプログラムで、いろいろなスポーツを体験してもらうことを目的とした。

### ■ ■ ■ その他のプログラム ■ ■ ■

11月の「ファミリーフェア」には、ファミリー向けの運動プログラムを実施した。「親子であそぼ」は幼児と親を対象にした親子体操やスキンシップ体操を行い、「ファミリースポーツフェア」では〈スポーツ遊び〉・〈運動遊び〉を中心に、運動会種目をおりませながら親子で楽しめるプログラムを行つた。また、柔らかいフリスビーを使うドッヂボールである「ドッヂビー大会」をエントリー制で行つた。経験未経験者は問わず、エントリーしてきた子どもたちで即席チームを作り試合を行つた。日常的一般来館児・者向けのプログラムの中でドッヂビーを取り入れているため、普段【子どもの城】に来ている子どもたちが多くエントリーし、大会を楽しんだ。

### □□□ まとめ □□□

【子どもの城】開館以来、体育部門は子どもたちに、"運動の楽しさ" "スポーツのおもしろさ"を講座・講習会や一般来館児・者活動において伝えてきた。今も昔も子どもを持つ親にとって、勉強だけではなく、スポーツや運動もできて欲しいという願いを持つことに間違はないだろう。子どもに運動を無理強いする親の姿を時おり見かけるが、子どもの興味や関心にそわないことを無理にさせても、恐らくうまくいかないであろう。

動くことが好き、運動が好きという、自発的に湧き出てくる気持ちには遺伝的な要因はあるにせよ、経験が大半を占める。ある子どもは運動や体育の授業で「よい経験をしなかった」「辛い思いをした」とマイナスに作用してしまうことがある。人間は子どもも大人も楽しいこと、心地よいことにこそ、進んでやろうという意欲が生まれてくる。

【子どもの城】ではさまざまなセクションがあり、さまざまな分野で子どもたちの興味を満足させることができるように工夫したプログラムを行つてき。体育部門でも同様で、講座でも一般来館児・者活動であつても、"運動することはおもしろい" "スポーツって汗をかいて気持ちがいい"と感じることで、またやってみようという意欲をかきたてるように、スポーツという概念にとらわれず、〈スポーツ遊び〉〈運動遊び〉といった幼児でも親子でも楽しめるように創意工夫をしてきた。これからも一人でも多くの子どもたちに、"運動する楽しさおもしろさ"を伝えていきたい。



ゴールに向かって サッカー

# 平成 24 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	日曜日・祝日 10:30～17:00	日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。 (プール)
体育室一般利用	土曜日 14:00～15:00 日曜日・祝日 14:00～15:00 16:00～17:00	日曜日14時と16時の2回、土曜日14時に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクのフリースローイング。第1日曜日：フライングディスク（14時）、サッカー（16時）／第2日曜日：ドッジボール（14時）、ユニホック（16時）／第3日曜日：卓球／第4日曜日：サッカー（14時）、ドッジボール（16時）／第5日曜日：ユニホック（14時）、フライングディスク（16時）。土曜日は、翌日曜日の14時の種目。卓球は終日卓球の自由利用（混み合う場合は各グループ20分交代で利用）。利用時間は土曜日が13時30分～16時、日曜日が10時～17時。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこ。日曜日・祝日の11時～12時は「親子の体操」。(体育室)
体力測定	土曜日 14:00／15:00 日曜日・祝日 11:00／13:00／ 14:00／15:00／16:00	8種目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、小学生以上は男女別に全国平均値と比べることができる。半年～1年おきに来館して、体力測定をするリピーターも増えている。利用料は1回100円。 (健康開発室)
ビッグサタデー	土曜日 10:30～11:45	小学4年生以上が対象。クリケット、タグラグビー、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどの種目をほぼ2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム（試合）の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。 (体育室)
ファミリー アドベンチャー	5.27 8.1 10.28	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいながら、自然のなかの不思議を発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジ。参加費=500～2,000円（1人）。 □5月27日=パークアドベンチャー～なつかしのザリガニ釣りに挑戦!!（水元公園=東京都） □8月1日=川遊びアドベンチャー～思いっきり川遊び （伊奈キャンプ場=東京都） □10月28日=クイズハイキングに挑戦！（江ノ島=神奈川県）
It's ライフセービング	7.16 10:30～11:50	海の安全についての学習や着衣泳を実践。小学生以上の子どもとその親37人が参加。先着予約制。参加費500円。協力：日本ライフセービング協会。 (プール)
スポーツ鬼ごっこ大会 子どもの城CUP	10.17 14:00～17:00	オリジナルの「スポーツ鬼ごっこ」（自分の陣地の宝を取られないように守りながら、相手チームの宝を取りに行く、点数制で勝敗を決める鬼ごっこ）の大会を開催した。その日に集まった子どもたちで作ったチームと、講座に参加している子どもたちで作ったチームなどが、チーム対抗で優勝を争った。 (体育室)
第25回水泳記録会	12.2 13:00～17:00	水泳講座生の記録会。25m完泳できる講座生が対象だが、完泳できない講座生も参加できる「チャレンジ25」も設けた。エントリー（1人2種目=1,000円）を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児19人、小・中学生163人参加。 (プール)
第24回 新体操発表会	H25.3.17 15:00～16:30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1年間の成果を披露、家族の前で演技を発表した。本年度のテーマは「ミラクルアワー」——新体操で、童話の世界を表現。3歳以上を対象にした体験コーナーも。 (体育室)

## ■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 もうすぐロンドン五輪 子どもの城プレリンピック	5.3～6 14:00～15:00 16:00～17:00	オリンピックの競技種目をアレンジした〈スポーツ遊び〉を集めて挑戦。金銀銅の順位をつけ、オリンピックの雰囲気を体験した。 (体育室)
〈 〃 〉 親子で動いてあそぼ	5.3～6 11:00～12:00	身近な道具を使った運動やサッカーなどの球技を、親子向けにアレンジして行った。 (体育室)
〈夏休み〉 みんなで挑戦 子どもの城リンピック	7.21～9.2 14:00～15:00 16:00～17:00	ロンドンオリンピックにちなん、でサッカーやバレーボールなどのオリンピック種目や、鬼ごっこやドッジボールなどに挑戦し、表彰台をめざした。 (体育室)
〈 〃 〉 ちびっこプール	7.21～8.31 10:30～16:30	屋上に仮設プール(13.6×5m、水深60cm)を設置。一般利用。利用料200円、レンタル(タオル・水着)各200円。 (屋上遊園)
〈冬休み〉 クリスマス・ダンス カーニバル	12.22～24 14:00～15:00 16:00～17:00	日替りでチアダンス、ストリートダンス、コンテンポラリーダンスに挑戦。クリスマスをテーマにし、ジャンルによる踊り方の違いを3日間楽しめた。 (体育室)
〈 〃 〉 今年最後の七福神 スポーツあそびめぐり	12.25～28 14:00～15:00 16:00～17:00	七福神めぐりのように、【子どもの城】の"スポーツ七福神"が行う5つの常設運動プログラムと、2時・4時に体育室で行う運動プログラムに挑戦。クリアするごとにスタンプがもらえる。 (体育室)
〈 〃 〉 今年最初の七福神 スポーツあそびめぐり	H25.1.4～7 14:00～15:00 16:00～17:00	「今年最後の七福神スポーツあそびめぐり」と同じ内容。 (体育室)
〈春休み〉 ～春一番の運だめし～ bingo DE スポーツ	3.23～4.7 14:00～15:00 16:00～17:00	サッカー、鬼ごっこ、ドッジボールなど、bingoカードに書かれたスポーツに挑戦しbingoの完成をめざす。bingoカードは4種類で、4枚集めると1枚の大きな絵になる。 (体育室)
〈全期間〉 体力測定	11:00、14:00、15:00、16:00 (日・祝日は13:00の回あり)	身長、体重、握力、垂直跳び、肺活量、立位体前屈、反復横跳び、閉眼片足立ちの8種目を測定。1回100円。 (健康開発室)
〈 〃 〉 プール一般利用	10:30～17:00	18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着)各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。 (プール)

## □□□ 講座・クラブなど □□□

## ■■■ 講座 ■■■

※講座回数=1・2期13回、3期9回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳 A	(組) 1・2歳児 と親 (30)	(組) ① 26 ② 25 ③ 20	水曜日 10:00～11:00 (全35回)	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
" B	" (〃)	① 35 ② 39 ③ 31	土曜日 10:00～11:00 (全35回)	
幼児水泳 A	(人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 14 ② 17 ③ 15	木曜日 14:00～15:00 (全35回)	単に泳法の修得だけでなく、水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。 受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
" B	4・5歳児 (60)	① 35 ② 50 ③ 45	木曜日 15:00～16:00 (全35回)	
" C	" (〃)	① 18 ② 22 ③ 24	金曜日 14:30～15:30 (全35回)	

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児水泳 D	(人) 3~5歳児 (50)	(人) ① 50 ② 50 ③ 52	火曜日 14:30 ~ 15:30 (全35回)	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
" E	" (")	① 45 ② 45 ③ 44	水曜日 13:30 ~ 14:30 (全35回)	
幼児体育 A	3・4歳児 (40)	① 26 ② 15 ③ 15	水曜日 14:30 ~ 15:30 (全35回)	たくさんの友だちといっしょに思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しみながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料=1・2期各20,500円、3期14,000円。
" B	4・5歳児 (40)	① 18 ② 13 ③ 14	火曜日 15:00 ~ 16:00 (全35回)	「幼児体育A」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し、体の使い方を学んでいく。 受講料=1・2期各20,500円、3期14,000円。
" C	" (")	① 9 ② 11 ③ 8	木曜日 15:00 ~ 16:00 (全35回)	
小学生水泳 A	小1~6 (60)	① 19 ② 22 ③ 17	水曜日 15:00 ~ 16:00 (全35回)	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10級~1級)。次への目標としている。 受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
" B	" (")	① 37 ② 38 ③ 30	火曜日 16:00 ~ 17:00 (全35回)	10級 顔つけ もぐり 息こらえ ボビング 水なれ 9級 伏し浮き 背浮き 板キック ボディーイメージ1 8級 伏し浮きキック 背浮きキック ボディーイメージ2 7級 ノーブレクロー／バックキック ボディーイメージ3 6級 クロール・バック(12.5) プレスト・バタフライ(キック) 5級 クロール・バック(25) プレスト・バタフライ(リズム) 4級 クロール・バック(50) プレスト・バタフライ(呼吸) 3級 クロール・プレスト(タイム) 個人メドレー 2級 個人メドレー(100)(タイム) 1級 個人メドレー(200)(タイム)
" C	" (")	① 58 ② 53 ③ 47	水曜日 16:00 ~ 17:00 (全35回)	
" D	" (")	① 28 ② 25 ③ 25	金曜日 15:30 ~ 16:30 (全35回)	
" E	" (")	① 35 ② 45 ③ 48	木曜日 16:00 ~ 17:00 (全35回)	
小中学生水泳 A	小2 ~中3 (30)	① 15 ② 18 ③ 11	火曜日 17:00 ~ 18:00 (全35回)	
" B	" (50)	① 52 ② 49 ③ 39	木曜日 17:00 ~ 18:00 (全35回)	
シニア スイミング	小1 ~高3 (30)	① 33 ② 29 ③ 29	火・水曜日 16:30 ~ 18:00 (全70回)	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4泳法とも、自己記録の向上をめざす。指導者の推薦が必要。受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。 ※「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯にも練習可。
シニア スイミング フレッシュ	小3 ~高3 (30)	① 27 ② 24 ③ 21	金曜日 16:30 ~ 18:00 (全35回)	小学3年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きい。受講料=1・2期各22,500円、3期15,500円。
小学生体育 A	小1~6 (30)	① 28 ② 30 ③ 23	火曜日 16:00 ~ 17:00 (全35回)	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。受講料=1・2期各17,000円、3期11,000円。
" B	" (")	① 32 ② 26 ③ 16	木曜日 "(全35回)	※バランスよく発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳(小学生のみ)」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円(2コース合計)。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ジュニア新体操	(人) 小1~3 の女子 (35)	(人) ① 22 ② 23 ③ 18	水・金曜日 15:30 ~ 17:00 (全70回)	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
シニア新体操	小4~高3 の女子 (35)	① 17 ② 17 ③ 18	水・金曜日 16:30 ~ 18:00 (全70回)	「ジュニア新体操」から一步進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料=1・2期各29,000円、3期20,000円。
手足の不自由な子の水泳	小1 ~中3 (15)	① 11 ② 14 ③ 13	土曜日 17:00 ~ 18:00 (全35回)	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料=1・2期各17,500円、3期12,000円。

## ■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ヘルス・クラブ (D.H.C.)	(人) 成人 メンバー ビジター 法人	(人) 年間延べ 5,085 492 0	火～土曜日 12:00 ~ 13:30 18:00 ~ 21:00 日曜日・祝日 18:00 ~ 20:00	18歳以上の大人的ためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月会費20,000円、月会費5,500円、利用料(利用の都度)300円。利用パス券(月3,000円、4か月11,000円)、ビジター1,500円。
レディース コース スイミング リズム& ストレッチ	18歳以上 の女性 (122)	① 41 ② 43 ③ 38	火・木曜日 10:00 ~ 11:00 水曜日 10:00 ~ 11:00 土曜日 11:00 ~ 12:00	「スイミング」3コース、「リズム&ストレッチ」1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できる。チケット終了後は6回分の追加利用券を発行。生活習慣のなかに定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身につけることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」ではゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。受講料=1・2期各22,500円(13回分)、3期15,500円(9回分)。利用券(6回)5,000円。

## ■■■ 講習会 ■■■

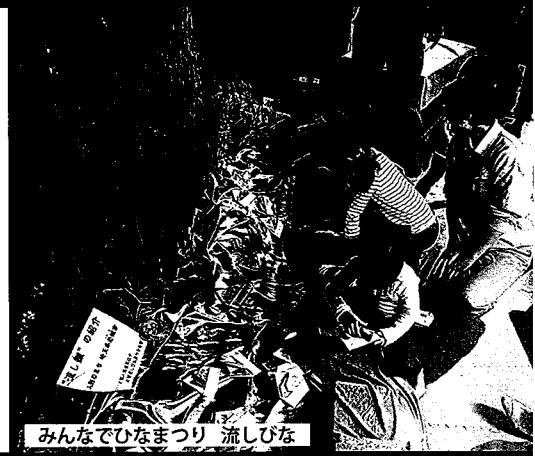
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子の すくすくランド	(組) おすわり のできる 乳児(5~ 8ヶ月前 後)と母 親 (20)	(組) ① 33 ② 35 ③ 24	金曜日 10:00 ~ 11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び。お母さんのシェイプアップも。 受講料=1・2期(各10回)各24,500円、3期(9回)22,000円。
幼児・母親体育 A	1・2歳の 子どもと 母親 (30)	① 34 ② 31 ③ 32	火曜日 13:30 ~ 14:30	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。 受講料=1・2期(各10回)各20,500円、3期(9回)18,000円。
" B	2・3歳の 子どもと 母親 (30)	① 28 ② 31 ③ 30	水曜日 11:00 ~ 12:00	
ぱちゃぱちゃ ファミリースイム A	1・2歳の 子どもと 父母、祖 父母 (30)	① 11 ② 34 ③ 17	金曜日 10:00 ~ 11:00	1歳から始まる水泳のビギナークラス。父母、祖父母のうち2人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。 受講料=1・2期(各10回)各26,500円、3期(9回)23,500円。
" B	"	① 31 ② 31 ③ 33	土曜日 14:00 ~ 15:00	

■ ■ ■ 短期講習会 ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みこども集中水泳講習会 A	(組) 小1～中3 (50)	(組) 50	7.21～25 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。受講料=8,000円。
〃 B	4・5歳児 (40)	40	7.21～25 10:30～11:30	
〃 C	小1～中3 (50)	50	8.15～19 9:30～10:30	
〃 D	4・5歳児 (40)	40	8.15～19 10:30～11:30	
ガンバ 2012	小1～3 (30)	30	8.8～12 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子どものための5日間連続の体操教室。受講料=9,000円。
春休みこども集中水泳講習会 A	小1～中3 (50)	50	H24.4.2～6 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料=8,000円。
〃 B	4・5歳児 (40)	40	4.2～6 10:30～11:30	
成人水泳集中講習会	18歳以上 (月20)	延べ 97	水・金曜日 18:00～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習会。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。受講料=10,000円(各月7回)。

■ ■ ■ 野外活動 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
スポーツキャンプ	7.30～8.2	大自然に囲まれたニュー・グリーンピア津南でテニスや球技などのスポーツやトレーニングをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わうキャンプ。自分の体の感覚やバランスをしっかりと感じ、体力的にも精神的にも成長することを目的とした。参加36人。参加費=小学生50,000円、中学生54,000円。 (新潟県:ニュー・グリーンピア津南)
新体操夏合宿	7.26～7.29	自然環境に恵まれた環境の中で、伸び伸びと楽しく、充実したプログラムを行なうことができた。参加者25人。 (新潟県:グランディア中里)
水泳合宿	8.20～22	「シニアスイミング」受講生を対象とした水泳合宿。本年度は群馬県で実施。1日2時間の練習2コマのほかに、筋力トレーニングや海水浴も行った。参加15人。 (群馬県・敷島公園プール)
チャレンジキャンプ	8.23～26	チャレンジの言葉どおり、何にでも挑戦していく、低学年の体験キャンプ。がんばった子どもたちは、大きな満足感と達成感を味わった。生活面は、ボランティアリーダーを中心に、仲間と協力して過ごした。小学1～3年生42人が参加。参加費48,000円。 (山梨県:東京YMCA山中湖センター)
スキースクール パート1 1期 〃 2期	12.26～29 H25.1.4～7	1期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキーリゾート(長野県)。2期はファミリー向けゲレンデで安心して楽しめるニュー・グリーンピア津南(新潟県)。2期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。2期は中学生のみスノーボードのレッスンがある。小学2年生～中学3年生が対象。1期は47人、2期は41人参加。参加費=1期58,000円。2期小学生58,000円、中学生62,000円。
スキースクール パート2	3.26～29	小学1～3年生の低学年が対象のスキースクール。パート1と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」など、レクリエーション的なプログラムも多く含む。41人参加。参加費59,000円。 (新潟県:ニュー・グリーンピア津南)



## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

プレイ部門では、〔子どもの城〕の遊び場所の中心となるプレイホール、パソコンルーム、そして屋外の遊び場所である屋上遊園・ふしげが丘を担当している。これらのスペースで子どもたちがさまざまな体験をかさね、自らの心と体の成長・発達につなげられるように、多くの〈あそび〉のプログラムを実施している。

本年度は、子どもが育つ環境整備のための活動として、「親子・家族向けプログラムの充実」と「父親の子育て参画支援」を第一の重点目標とした。さらに「遊び場の機能と魅力の向上」を目的に、参加体験型のプログラムや遊具がより充実するよう活動をすすめた。

親子で参加する「ファミリープレイタイム」をはじめ、特別期間のイベントや「あそぼうタイム」など、プレイホールやパソコンルームで実施するプログラムは、親子・家族単位で参加しやすく、楽しめるように工夫した。特に「ファミリープレイタイム」では、父親の参加促進を意図して、父親がより参加しやすい内容のプログラムを用意した。また、東京近郊の「父親子育てサークル」との連携により、父親が遊びながら子育ての楽しさを知る機会とするプログラム「おとうさんのあそび市」を実施した。

### □□□ 事業の概要 □□□

#### ■■■ 一般来館児・者向けプログラム活動 ■■■

一般来館児・者は、乳幼児と親子から高校生までと年齢層が広く、動きにも大きな差があるため、安全性を保ちつつ、多くの来館児・者が楽しみを共有できることが重要になる。発達年齢や遊びの種類によって分けられた遊びスペースの環境作りと、平日は乳幼児と親、週末・学校の休み期間は、幼児から学童以上の子どものいる家族が中心というような、来館児・者の傾向にあわせてプログラムを計画した。平常期間には、毎週定期的に、〈影絵〉〈人形劇〉〈紙芝居〉〈折り紙〉などのプログラムをボランティアと協力して実施。その他、歳時記に合わせた季節の行事、特別期間や年間の節目の時期に企画プログラムを実施した。

〔子どもの城〕の本年度の重点目標の一つに「父親の子育て参画」をあげている。これに伴い、『父

親と子ども”を主な対象にしたプログラムを通年にわたり実施した。「ファミリープレイタイム」は“家族のためのプログラム”としているが、本年度は運営を男性スタッフ中心に行い、「うどんづくり」や「わりばし鉄砲」、段ボールや木材を素材としたダイナミックな工作プログラムを多くするなど、全体の雰囲気作りに配慮をして父親の参加を促した。9月には、地域で子育てを楽しんでいる、〈父親の子育てサークル〉が運営に参画する事業も実施。一般来館の父親や広く社会に対し、“父親が子育てすることの意義”について発信する機会を設けた。

子どもに伝えていきたい季節行事から「七夕・節分・ひなまつり」を実施。行事の由来を伝えると共に、日本の文化や風習、なぜ受け継がれていくのかを感じてもらいたいと願った。家庭で行わなくなったりとの声も多く、家族で楽しみながら心豊かな生活の一助になればと考えた。

クリスマス期間には、年間をとおして実施している人形劇を、内容をより充実させた“フェア”という形で実施した。〈見る〉〈作る〉〈遊ぶ〉〈演じる〉の4つの視点からプログラムを構成し、子どもたちに人形劇の楽しさを伝えた。東京近郊の大学の人形劇・児童文化研究サークルのネットワーク「じゃんぐるじむ」と、その卒業生で構成されている人形劇団ネットワーク「パペットマーケット」と共同で実施した。当日は子どもたちに積極的に参加を呼びかけ、人形遊びの楽しさや人形劇のコツを伝えた。子どもが演じる「キッズ人形劇団」を観劇した年長児から、小学生になったら人形劇団に入りたいという声や、留守番をしている家族の人形を作りながら、相手の喜ぶ顔を思い浮かべて楽しそうに話している親子の姿があった。

パソコンルームは、10階から3階のプレイホールへ移動をして1年が経過した。遊び場内にあることから全体の利用者も増加したが、就園前の幼児と親の利用も増加。子どもの年齢が低いということで利用をためらう親もいる一方、プログラムの内容がクラフト、デザインなど身近なものが題材であったりするため、親子で楽しみたいという利用者も増加した。親が普段からパソコンの操作に慣れていることも反映されていると考えられる。

## ■■■ 講座・グループ活動・野外活動など ■■■

### 【講座「キッズクラブ」「ユースクラブ】

本年度の「キッズクラブ」は、新入会が多く1年間でどれだけ横と縦の関係をつなげられるかが課題であった。少人数でのグループ活動や作戦会議など、話し合いを多くした結果、その課題を達成して終了することができた。

「ユースクラブ」は、中学生がリーダーシップを大いに發揮し、先輩後輩の関係をしっかりと結ぶことができた。その結果、まとめの活動では、中学生が一般来館児・者を対象としたゲーム大会の企画・運営を中心となってリードし、メンバー全員で協力し実施することができた。

### 【グループ活動】

プレイホールでのグループ活動では、集団の中での自己表現や仲間作りを目的に、〈ごっこ遊び〉や〈劇あそび〉の手法を取り入れたプログラムを実施した。「忍者修行道場」や「森へいこう」といったさまざまな世界観の中で、子どもたちが各々の個性を發揮し、仲間と楽しさや怖さなどの気持ちを共有したり励まし合ったりすることで、仲間作りのきっかけとなったようだ。また、ねらいを効果的に達成するために、事前打ち合わせで先生方に一つの世界観を共有して遊ぶ楽しさや意義を伝えること、またプログラム導入時の雰囲気作りや声かけなどを大事にしてプログラムを実施した。

### 【野外活動】

キャンプなどの野外活動は、多くの自然に触れたり、体をダイナミックに動かせたりと室内の活動とは違った開放感が味わえる。また協同生活を通じての仲間作りや人との関係作りなどは、子どもたちの成長発達に非常に良い影響を与える活動である。

本年度は夏休み特別期間に、埼玉県の青少年総合野外活動センターで、小学校



やっぱりキャンプは楽しいね！「ちびっこ冒険団」

低学年を対象とした3泊4日の「ちびっこ冒険団」を実施。仲間といっしょに自然のなかで遊ぶ楽しさを、十分に体験することができた。

屋内型の施設である児童館が、より総合的な子どもの健全育成をめざすために、プレイ部門では継続的に野外活動を実施してきた。本年度のキャンプを終え、楽しみだけではなく、子どもたちの健全育成という視点でのキャンプが、社会的にもっと認知されるよう、広く社会に働きかけ続ける必要性を改めて強く感じた。

### ■■■ 遊び場機能の充実をめざして ■■■

子どもたちは〈遊び〉の中で、多くのことを発見する。直接体験から得た“学び”は、子どもたちの成長・発達にとって大きな糧となる。子どもたちが“遊びながら学ぶ”“遊ぶことをとおして何かを発見する”ことを大切にした参加体験型プログラムが、「ハンズオン広場」である。

「ハンズオン広場」は、数年間継続して行っている。本年度は、遊びながらエコロジーについて学ぶ「eco ランド」と、洗濯ばさみをブロックのように使って遊ぶ「ピッチンパッキンせんたクリップ」を実施した。

「eco ランド」は、たくさんのペットボトルのキャップや牛乳パックをゲームやブロック遊びに使ったり、来館児・者みんなでいっしょに取り組むペットボトルを使った協同制作、また生活の中での環境について考えるクイズなど、遊びと環境問題を組み合わせたプログラムとした。

「ピッチンパッキンせんたクリップ」は、約1,000個のカラフルな洗濯ばさみを用意し、自由に組み合わせてさまざまな形を作るプログラム。普段家庭などで使用する洗濯ばさみを、遊び道具として使うことで、作りたいものを、創意工夫しながら表現し楽しむ機会となった。

また、今まで蓄積した「ハンズオン広場」のプログラム素材を生かして、平常期間のプレイホールに、常設の〈ハンズオン遊び〉のコーナーを設置した。過去に実施したプログラムから、本物のネジと木材を使ってモノ作りをする「ネジであそぼう」、大規模なお店屋さんごっこ「おしろマーケット」などを取り上げ、内容を整理してプレイホールの常設プログラムとした。さらに、屋上やプレイホール内の遊具を見直して、プレイホールの遊び場機能の充実をすすめた。



ハンズオン広場「eco ランド」

### □□□ まとめ □□□

プレイホールと屋上の遊び場は、幅広い年齢と多くの人数に対応する必要がある場所である。どの年齢の子ども、あるいは大人でも楽しめるような場作りを行う一方、発達年齢にあった遊びが行えるように環境作りをしてきた。ただ道具や場所を用意して利用してもらうのではなく、より能動的・主体的に参加ができるように、また、より社会性が育まれるように工夫をして遊び環境の設定を行った。遊んでもらう、遊ばせてもらうということではなく、自ら遊びに取り組み、遊び込むことによって工夫し発展させていくようにした。そしてスタッフと子ども、いっしょに来た保護者や兄弟、友だちはもちろんのこと、その場で初めて出会った子どもや大人と、〈遊び〉をとおして触れ合い、つながれるような〈遊び場〉をめざした。

平常期間、特別期間のプログラムは、伝えたいことを大事にしながらも、新しい要素を取り入れることやアレンジすることで進化をはかった。また、プログラムをとおして〈遊び〉の価値や、児童文化の意義を伝えることも大切に考えて実施した。

プレイ部門のスタッフは、プレイリーダーであり、〈遊び〉の環境デザイナーであり、さらにグループワーカーとして、幅広い知識と技術を持つことが大事であることを、あらためて感じた年でもあった。

# 平成 24 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□
■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
みんなの にこここ広場	水曜日 15:00～15:30	ボランティアとともに運営。紙芝居、人形劇、影絵を週替わりに実施。11月5日の「赤ちゃん大集合」では紙芝居を行った。人形劇11回、影絵11回、紙芝居16回。全38回実施。参加者延べ1,830人。 (プレイホール)
おりがみあそび広場	木曜日 14:30～15:30	ボランティアとともに運営。児童文化の継承が主な目的。2・3歳児連れの親子の参加が多い。乳児連れの親と話をしながら制作することも増えた。年間をとおして定着する子どもも多く、年度最後には大きく成長した姿も。日本の文化の継承はもちろん、スタッフと参加者、参加者同士のコミュニケーションも大切にした。食べ物、動物、季節の作品、遊べる作品など、1回につき1作品。全39回、参加延べ人数約1,232人。 (プレイホール)
金曜開店！ あそびやさん	金曜日 開館時間中	積み木やブロック、バランスゲームなど、期ごとに3～4種類のおもちゃを週替わりで体験できるプログラム。同じような遊び方のおもちゃを組み合わせて、雰囲気を変えずにいろいろ楽しめるように試みた。全38回。 1期＝汽車+木の車／モノブロック／かえるさんジャンプ+パックンフィッシング 2期＝ワミー／手びねりこま／はたらく車／ドミノたおし／ネジブロック 3期＝バランスゲーム（サルも木から落ちるほか）／絵合わせ（動物ドミノ、Mee Too、ポケットパズルほか）／ネジブロック (プレイホール)
おはなし人形広場	日曜日（不定期） 15:00～15:40	プロの劇団による人形劇などの公演。生の舞台にふれて、感性の豊さをはぐくむことが目的。毎回、幼児～小学校低学年を中心に、100人近くの親子が楽しんだ。親子の気持ちの共有もはかられ、語らいが一層深まった。遊び場と直結するスペースであり、乳幼児を連れた親も気軽に公演をみることができ、人形に見入る我が子の反応も楽しめたようだ。全12回。 (プレイホール)
小学生ラボ	第3・5土・日曜日 13:00～16:00 (受け付け時間)	小学生以上が対象の科学・映像遊びを中心とした実験体験を重視したプログラム。映像科学課と交代でプログラムを実施。内容は映像科学の項参照。 (ビデオライブラリー)
小学生ラボスペシャル	6.16・17、2.9～11 10:00～16:00	小学生プログラム特集「集まれ！小学生」の一環として実施。内容は映像科学の項参照。 (ビデオライブラリー)
みんな集まれ あそぼうタイム	6.15、10.1 13:00～16:00 (受け付け時間)	千葉県民の日と都民の日に、学校が休みとなる千葉県民、東京都民向けに実施。さまざまな遊びのプログラムに自由に参加できる形式で、幼児から親子まで幅広い年齢が参加した。内容は別表参照。 (プレイホール)
〈七夕〉 天までとどけ ねがいごと	6.30、7.1・7 11:00～17:00 7.3～6 13:00～17:00	日本の伝統行事「七夕」を伝えるワークショップを実施。「短冊に願い事を書いて笹竹に飾ること」で、字の上達を願ういわれを体験してもらった。七夕の由来を閲覧できるコーナーも設置。参加者延べ1,339人 (プレイホール)
ハンズオン広場 ～みんなで体験 楽しく体験～ 「わくわく eco らんど」	11.10～18 13:00～16:00（平日） 11:00～16:00（土・日曜・祝）	「遊ぶことをとおして何かを発見する」「遊びながらまなぶ」がねらいのプログラム。今回は“エコロジー”をテーマに、ペットボトルと新聞紙などリサイクルされている身近な素材を使った遊び、日々の生活でのエコな行動について考えてみる遊び、エコロジーに関するクイズなどを実施。 (プレイホール)
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H25.2.2・3 14:30～15:15	恒例の豆まき大会。節分の由来を参加劇仕立てで紹介。スタッフやボランティアが扮する鬼めがけて、会場の親子が一斉に豆を投げ、鬼を退治した。たくさんの親子が達成感と一緒に味わうことができた。 (プレイホール)
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	2.27～3.3 13:00～17:00（平日） 10:30～17:00（土・日曜日）	「流しひな」をテーマに、折り紙で女びな男びなを折り舟に乗せて、照明効果などでつくった川に流すことで無病息災を願った。日本各地の流しひなも紹介。参加者延べ531人。 (プレイホール)
第51回 パンパー大会	3.20 小学生の部 10:30～12:30	小中学生コーナーにある遊具「パンパー」の大会。小中学生の子どもたちの交流促進を目的に実施。小学生の部3人が参加。パンパーをとおした楽しいひと時を過ごした。中高生の部は申し込みが少なく中止。 (プレイホール)

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ホップ！ステップ！ トランプ王国	4.28～30 11:00～16:00 5.3～6 11:00～16:00 (受け付け時間)	〈協力〉〈競争〉〈一緒に〉の要素を取り入れ、屋外で行ったダイナミックなゲーム大会。友だち間・家族間、見知らぬ子ども同士の交流促進の機会を作った。トランプ王国の世界で、「トランプタワー（バランスゲーム）」「トランプロード（変形すごろくゲーム）」「トランプタッチ（俊敏さや判断力を駆使するゲーム）」「トランプシュート（まとあてゲーム）」「トランプめぐり（運だめしゲーム）」などのゲームに参加してトランプカードをもらう。トランプカードが集まると王様に会うことができ、ゴールの証としてカードがもらえる。一日数回、大人数で実施するじゃんけんゲーム大会を実施。延べ3,089人参加 (屋上ふしげが丘)
〈夏休み〉 夏休み ハンズオン広場 「あそんで+まなんで =大発見！」	8.11～24 開館時間中 ※「空気砲 Ban・Ban」は11:00～16:00	遊びや実体験のなかで楽しみながら〈気づき〉〈発見〉〈学ぶ〉ことを目的に実施。「ネジであそぼう」は、ボルトやナットをつないだり、間に木片を入れてロボットを作るなど、「ネジ」の機能を体験し、身近な場所で大切な役割として存在しているネジを紹介した。「空気砲 Ban・Ban」は、箱に丸穴をあけて「空気のうず」を飛ばす空気砲という科学おもちゃ。空気が集まってできる威力や、“見えないので、そこにある”不思議さも感じもらつた。 (プレイホール)
〈〃〉 第 50 回 パンパーカンパ	8.26 小学生の部 10:30～12:30	小中学生コーナーにある遊具「パンパー」の大会。小中学生コーナーに集まる子どもたちの交流促進を目的に開催。小学生の部は参加者4人。総当たり戦で予選を行い、上位2人で決勝を行った。中高生の部は申込者が少なく中止。 (プレイホール)
〈〃〉 小学生ラボ 夏休みスペシャル	8.28～31 13:00～16:00 (受け付け時間)	平常期間に実施している「小学生ラボ」のスペシャル版。実施プログラムは、「ピンホールカメラをつくろう」「海の生き物チリメンモンスター」「計算尺をつくろう」「浮沈しつくろう」。映像科学部門との共同事業。内容は映像科学課参照。 (B スタジオ)
〈〃〉 おとうさんのあそび市	9.2 13:00～16:30	東京近隣の父親サークルが集い、活動報告と来館児・者向けに遊びのプログラムを実施した。特に来館者の父親に、"父親としての子育ての楽しみ方"を知ってもらったり、家族間や家族同士のコミュニケーションを促進した。絵本ライブ・歌をうたおう等のステージプログラム／体を使ってあそぼう／パレーンアート／紙飛行機を作つて飛ばそう／こども笑わせコンテスト／ダンボールランド／Daddy's Tree（お父さんの子育てについてコメントを書いてもらい掲示） (プレイホール)
〈冬休み〉 クリスマス 人形劇フェア	12.22～24 上演 ①11:30 ②14:00 ③16:00 11:00～16:00	人形劇という児童文化を多方面からアプローチして、人形劇の楽しさを伝える。〈見る〉〈作る〉〈遊ぶ〉〈演じる〉の4つの視点からプログラムを設定した。演じる楽しさを伝える「キッズ人形劇団」では小学生以上の子どもを事前募集し、大学生の指導で練習したのち上演した。東京近郊の大学人形劇・児童文化研究サークルネットワーク「じゃんぐるじむ」と人形劇団ネットワーク「パパペットマーケット」との共同企画。 □作るワークショップ□紙コップ人形を作つて遊ぶ。延べ632人参加。 □キッズ人形劇団□延べ28人参加。13時30分と15時30分。30分の練習の後に公演。事前申し込みと当日申し込み。 □参加大学□創価大学・東京家政大学・帝京大学・立正大学 (プレイホール)
〈〃〉 新春あそびのお年玉 ～あそび極めてヘビーリング～	H25.1.4～7 11:00～16:00	世代を超えて参加できる昔遊びのプログラム。ボランティアとの共同企画・運営。こま、べいごま、あやとりのほかに、本年度は、新たに百人一首を加えて実施した。お父さんと子どもが、ここまで競い合ったり、おばあさんが孫にあやとりを教えるなど、3世代で楽しむ姿が見られた。 (ピロティ、プレイホール)
〈春休み〉 ピッчин・パッчин せんたクリップ	3.23～4.7 11:00～17:00	約1,000個の洗濯ばさみを使用し、身近な物で遊ぶ楽しさを体験してもらった。洗濯ばさみの“はさむ”機能を生かして、洗濯ばさみ同士をつないで、動物や乗り物などに見立てたり、自身の洋服につけて楽しんだり、ネットフエンスや天井から下がるロープにはさんで造形作品を作つたりして、思い思いに遊んだ。 (プレイホール)

■ ■ ■ パソコンルーム ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
マジックピクチャー	4.18～5.31	あらかじめ用意した写真を使い、画像(写真)加工ソフトを使って、写真の色を変えたり画面をゆがませたり、絵画風にしたりして作品を作った。ソフトのいろいろな機能を使い加工を楽しみながら、不思議な作品を仕上げた。
ネイチャーキズ	6.1～7.10	図鑑ソフトを使って、鳥や花の名前をクイズ形式で探すプログラム。鳥は住んでいる環境や身体の色、大きさなど、花は咲いている時期や場所、花の色や葉っぱの形など、それぞれの対象の特徴から、その名前を導き出す。
ジオラ街つく	7.11～8.9	あらかじめ用意したビルの展開図に、壁の色や窓・看板などをデザインしてプリントし、はさみとのりで組み立てる。完成したビルは、大きなジオラマに建てて、参加者みんなで街作りを楽しんだ。
フォト・ペタ・コレージュ	8.10～9.11	写真のコラージュ遊び。あらかじめ用意した動物・建物・人・乗り物・風景などの写真素材データを、大きさや向きを変えながら何枚も台紙に張り付けていき、不思議な風景やアート作品を作った。パソコンならではのコレージュが楽しめた。
ことばあそびの A☆B☆C	9.12～10.16	パソコンとしりとり対決をしたり、複数の言葉を聞き分けたり——5つの言葉遊び(しりとり、アナグラム、4W遊び、暗号解読、聞き分けクイズ)を実施。自分の好きな遊びが見つかると、遊び続けている姿が多く見られた。
うつしとるとるなぞ ってアート～とれと れハイポーズ！～	10.17～11.30	ペンタブレットを使い、写真をなぞって書く写し絵遊び。今回は人間のポーズをなぞるプログラム。仕事をする人やスポーツをする人、料理をする姿など、さまざまな場面の人のポーズの写し絵を楽しんだ。
クリスマス ペンダント	12.1-25	ペンダントの台紙データに、リースや星、長靴などのクリスマスにちなんだイラストを飾りつけてプリント。刷り上がったものをはさみとのりで組み立て、ペンダントを作製した。
福来る！ パソコン開運くじ	12.26～H25.1.31	数種類の「くじ」や「占い」の展開図から選び、イラストを並べたり、占いの内容の文字を打ち直してプリントし、オリジナルのくじを作る。ひきくじ、こまくじ、さいころくじ、ふりくじのデザインから選んだ。
サウンド エフェクター	2.1～3.12	写真やイラストに効果音やBGMをつけるプログラム。音からストーリーを考えたり、ストーリーから音を探して、雨の音や動物の鳴き声、元気なものや悲しいメロディーなどをつなげていく。完成したら、画像を見ながら効果音やBGMを聞き、ストーリーを想像して楽しんだ。
フレンドシップ カード	3.13～4.16	名刺作成ソフトを利用し、名前・住所・趣味・特技・メッセージなどを入力。好みのイラストも選んでレイアウトし、オリジナルの名刺を作成。また、自分の顔写真を入れた名刺作りも行った。おしゃべりしながら入力していたり、できあがった名刺を見せ合ったり——交流する場面も多く見られた。

■ ■ ■ みんな集まれあそぼうタイム ■ ■ ■ 13:00～16:00／プレイホール

名 称	日 時	内 容
千葉県民の日 記録に挑戦！ チャレンジゲーム	6.15	1分間にカウンターをどれだけ押せるか、どれだけ一息で「あー」と言い続けられるかなど、自分の記録にチャレンジするゲームをいくつか用意し、参加カードに記録をつけた。参加者:75人。
都民の日 わりばし鉄砲をつくろう	10.1	わりばし鉄砲作りを楽しんだ。作り方を教えあったり、的当てを競ったりなど、みんなで遊ぶ楽しさを満喫した。参加者:160人。



パソコンルーム「ジオラ街つく」

■ ■ ■ ファミリープレイタイム ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
手打ちうどんに挑戦	4.15 10:30～12:30	うどん作り。練った後、ビニール袋に入れ足で踏む作業も。一つの鍋で数家族がいっしょにゆでて試食した。参加:16 家族 40 人。参加費 300 円(1 家族)。
みつうまをつくろう	5.12 10:30～12:30	3 本の材木を組み合わせ、バランスをとりながら乗って遊ぶ伝承遊具。材木を切るところからはじめ、家族に手伝ってもらいながら、子どもたちはのこぎりに挑戦。実際に乗って遊んだ。参加:5 家族 15 人。参加費 800 円(1 台)。
ダンボールでトンネル迷路を作ろう	6.17 10:30～12:30	段ボール箱で大きな迷路を作る。参加した家族が作った迷路をつなぎ合わせ、大きな迷路に。参加:11 家族 23 人。参加費無料。
バルーンアートに挑戦	10.13、H25.1.12 10:30～12:30	パンシルバルーンの基礎(空気の入れ方・ねじり方)を伝えた後、実際に作品を作った。10月13日=「かぶりもの」「剣」「犬」「花」「カボチャ」。参加:10 家族 20 人、平成 25 年 1 月 12 日=「かぶりもの」「剣」「犬」「花」「ハート」。参加:10 家族 20 人、参加費 200 円(1 家族)。
絞り染め体験	11.23・24、H25.3.9 10:30～12:30	絞り染めの方法(一か所を絞る・おりたたんで絞るなど)を伝え、ハンカチを輪ゴムで絞る。染料で染めつけ～水洗い～乾燥。完成した作品で観賞会も楽しんだ。11月 23・24 日 / 参加 22 家族 49 人(2 日間計)、平成 25 年 3 月 9 日 / 参加:9 家族 20 人、参加費 500 円(1 家族)。
メリークリスマス！あわせ手ツリー	12.8 10:30～12:30	家族の手形でできたクリスマスツリーの台紙に、思い思いに飾り付け。工夫したところを発表。観賞も楽しんだ。参加:9 家族 24 人。参加費無料。
エイ凧をつくろう	12.26・27・28 10:30～12:30	正月を迎える催しとして実施。親子で「エイ凧」を制作。協力:日本の凧の会／凧の博物館 参加:34 家族 79 人(3 日間計)。参加費 300 円(材料費)。

□□□ 講座・クラブなど □□□

■ ■ ■ 講座 ■ ■ ■

※講座回数=1・2期 6 回、3期 4 回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 30 ② 30 ③ 29	隔週土曜日 15:00～17:00 (原則)	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす ③子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、自発性やコミュニケーション力を養うことを目的とした〈あそび〉のクラブ。本年度は3年生と1年生が多かった。人数が少なく参加回数も少ない子が多かった4年生だが、最後の期である3期にメンバー同士のまとまりをみせ、下の学年をひっぱってクラブ全体会のまとまりも作ることができた1年だった。受講料=1・2期 10,000 円、3期 7,000 円。
ユースクラブ	小5～ 中3 (40)	① 24 ② 22 ③ 24	隔週日曜日 13:30～15:30 (原則)	小学校5年～中学校3年の〈あそび〉のクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおし豊かな人間形成をはかるのがねらい。①さまざまな直接体験をする ②仲間をとおし人間関係を学ぶ ③計画から実施をとおし夢を実現する—この3つが目的。まとめの活動として、【子どもの城】の来館児・者を対象に催し物の企画運営を行った。受講料=1・2期 10,000 円、3期 7,000 円。

■ ■ ■ 野外活動 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
ちびっこ冒険団 2012	8.4～8.7 (3泊4日)	小学校1～3年生のための宿营キャンプ。豊かな自然のなかで班ごとに考えたグループ活動を楽しむ。班の仲間とともに“何をして遊ぼうか”“どうやって遊ぼうか”などを相談し協力しあうなかで、自己と他者との関係性を学んだり、協調性や社会性を獲得していくことが大きなねらい。本年度は、自然に目を向けるためのきっかけとして、『こびとは自然のものを使ってアート作品を作るのが好き』という動機づけを行った。“空想の世界”的設定だが、子どもたちは自由に想像をふくらませ、穴のあいた葉が顔に、三角形の石がおにぎりに、などと多くの“こびと”的作品や“こびと”そのものを発見し空想の世界を満喫していた。参加者 63 人、L.I.T.・ボランティア 21 人、職員 3 人。参加費 39,000 円。 (埼玉県:青少年総合野外活動センター)

## ■キッズクラブの活動プログラム一覧■

日時	プログラム名	内 容
4.21	いよいよスタート 2012 年！キッズクラブ	新メンバー（入会者）と継続メンバーとの親睦をはかるため、ゲームや屋外でおにぎっこを行った。
5.12	キッズリンピック 2012	風船がボールの「バレー・ボール」など、オリンピックの競技をアレンジしたゲーム大会を実施。
5.26	キッズ街角探検隊	少人数のグループごとに街に出かけ、街角の不思議で楽しい表情を撮影して集め、発表しあった。
6.9	型あそび大会	動物や乗り物の型に粘土をつめて型取りし、色をつける懐かしい「型あそび」に挑戦した。
6.30	わんぱく遊び大集合！	「ドンジャンケン」や「バッカン」など体を動かす外遊びの「陣取りゲーム」で、メンバーの親密度を上げた。
7.14	ウォーターゲーム 2012	チームに分かれ、はちまきで額につけ金魚すくいの紙を、水鉄砲で撃ち合うゲームで大盛り上がり。
9.15	キッズ街中探検団！	グループごとに街探検をしながら、クイズや指示された行動など、設定されたいろいろな課題に挑戦。
10.6	代々木公園であそぼう！	代々木公園に行き、鬼ごっこや陣取りゲームで、みんなでおもいきり身体を動かして遊んだ。
10.20	めざせ！チリモンマスター	ちりめんじゅこの中にいる、タコやタツノオトシゴなどのモンスターを見つける遊びに集中力發揮！
11.10	秋の遠足へ行こう！	電車で花小金井へ遠足。公園でお弁当を食べ、近くの農園で芋掘り。大きなお芋にみんな大喜び。
11.24	元気に遊ぼう「ミニドッジボール」	屋外で、チームに一人「王様」を決め王様が当たら即刻負けとなる「王様ドッジ」を楽しんだ。
12.8	バーガーキッズ本日開店！	人気のクッキングプロ。手作りハンバーグと持ちよった具材で個性豊かなハンバーガーを作った。
H25.1.14	初笑いゲーム大会！	画びょう付羽子板で風船を打ち合う「はねつき」やおもちゃのお金をとりあう「お年玉ゲーム」で遊んだ。
1.26	エイ凧をつくろう！	和紙と竹ひごで、魚のエイを模した凧を作り、好きな絵をかいて完成させた。
2.16	ドッジボール！	最上級生の 4 年生が考えだした、男専用と女専用の 2 つのボールを使う「男女ドッジ」を楽しんだ。
3.9・10	最後までたくさん たくさん遊ぼうよ！	1泊 2 日の特別プログラム。1 日目は代々木公園で鬼ごっこ、夜は「こどもの城」館内で宝をうばつた泥棒を捕まえる「ハンターゲーム」。プレイホールで就寝。2 日目は子どもたちのリクエストで「ドッジボール」をし、最後は「1 年を振り返る会」。4 年生が下級生も保護者も楽しめる出し物を考えた。司会進行も子どもたちが行い、まさに子どもが自分たちで作り上げるクラブ活動となった。

## ■ユースクラブの活動プログラム一覧■

日時	プログラム名	内 容
4.8	ゲームでよろしくこれぞユースだゲーム大会！	グループに分かれ、新聞紙を使ってグループ対抗ゲームを行いながら、仲間作りを行う。
4.22	こどもの城のわたりを競!町にはいなんかわかる?	都立代々木公園で野外ゲーム「クマ狩り」。初めてのメンバーもすぐにルールを覚え、熱中して行った。
5.20	今度こそ！代々木へ行こうよ！	都立代々木公園での活動。スポーツおにぎっこや陣取りゲーム「クマ狩り」を楽しむ。
6.10	こどもの国であそぶぞ！	こどもの国（横浜市青葉区）での活動。グループごとにボートに乗ったり、遊具で遊んだりした。
7.1	ディアボロ体験 & 1 期最終回作戦会議	空中で回転させるこま「ディアボロ」を体験。いろいろな技を習得した後、覚えた技を「こどもの城」プレイホールの来館児・者に前で披露。その後、来館児・者にディアボロの回し方を教える。
7.14・15	こどもの城ワントキヤンブンしが丘でテント泊	閉館後の「こどもの城」屋上ふしが丘にテントを建て、1泊 2 日の宿泊活動を行う。
9.9	紺り染め体験！オリジナルエコバックを作ろう	紺り染めで、おそろいのエコバックを作った。
9.30	横浜はじめて物語	横浜の街探検プログラム。グループに分かれ横浜にあるさまざまな「発祥の地」を見つけその歴史に触れた。
10.14	やるぞ！ 「こんなことできません」	テレビ番組の 1 コーナーをヒントに、「人間には到底できそうにないことも、写真のコマ撮りを使うとできるように見える」という映像を作るワークショップ。
11.11	三浦半島ハイキング	神奈川県三浦半島にある三浦富士・武山方面へのハイキング。観光農園でのみかん狩り体験も行う。
11.25	2 期最終回作戦会議	第 2 期最終回に実施する内容について、全員で考える企画会議を行う。
12.16	ユーススマスパーティー	食事や装飾を準備しパーティーを行う。ピアノ、ギターなど楽器を持ち寄り、「ユースクラブの歌」を合奏した。
H25.1.13	夢の実現に向けて～最終回プロジェクト第 1 回作戦会議	ユースクラブとしての最後の活動を決め、その準備から実施までをどのように行うかという企画会議を実施した。メンバーの意気込みが感じられた。
1.27	最終回プロジェクト第 2 回作戦会議 & 代々木へ行こう	最終回の企画会議を行った後、都立代々木公園へでかけ、「クマ狩り」などの陣取り遊びを行う。
2.24	東京散歩～東京駅駅舎と東京スカイツリーを見に行こう	東京マラソン、皇居、東京駅駅舎、日本橋、東京スカイツリー、浅草、水上バスといった東京のさまざまな名所を歩いて回るハイキング。
3.10	最終回プロジェクトの準備	最終回活動の来館児・者向けのゲーム「VS レアアニマル」のルール作りや物品の準備活動を行う。
3.16・17	ユースクラブ最終回プロジェクト! さあ！仲間の夢を実現だ!!	1泊 2 日の活動を行う。1 日目はメンバーが企画した来館児・者向け催し「VS レアアニマル」を開催。約 100 人の参加者。2 日目は都立代々木公園で活動した後、これまでの活動を振り返った。ユースクラブでの活動は、子どもたち一人ひとりにとって次のステップへの大きな糧となったようだ。

# 造形



やってみよう！つくってみよう～  
空気と造形（展示体験コーナー）



お父さんのあそび子育てプログラム  
「親子で陶芸体験～キャンドルスタンドをつくろう！」

## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに育てていけるように、①新しい視点で素材を探求して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ「素材との出会い展」②そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感覚を新しくするワークショップ「造形発見展」③造形活動の基本となる“素材と道具と技法”的関係をわかりやすく理解できるように視覚化したワークショップ「オープンスタジオ」——の3つを軸に活動を展開している。ひとつのテーマでの活動を約1年間にわたって継続し、3種類のワークショップを順次繰り返しながらスタジオを運営している。

ワークショップを実施するにあたって、全体の構成要素である「展示・体験・制作」という基本コンセプトを効果的に実施するため、ワークショップごとのテーマに応じて環境設定を行い、子どもたちが自主的、能動的に活動にかかわるようにしている。本年度の夏休み特別期間には「素材との出会い展～紙と造形～」、10月からは新しいテーマ「造形発見展～空気と造形～」を実施した。

本年度の重点目標として、“父親の子育て参画事業”“乳幼児プログラム”“子どもの参画”的3点を掲げて活動を展開した。“父親の子育て参画事業”では年3回、有料の短期講習会「お父さんのあそび子育てプログラム」を実施し、多くの父親を含む親子で造形体験を共有した。2時間程度のプログラムで、父親も参加しやすい形態をとった。

“乳幼児プログラム”は、イベント形式の「新聞紙のお風呂屋さん」を開設し大変好評を得た。“子どもの参画”では「ドルッチャテレビ」へのかかわりだけでなく、造形スタジオの「クリエイティブコーナー」の対象年齢を、より低い学年から参加できるようにプログラム開発を行った。さらに重点目標達成への取り組みとして、一般活動の展示・体験コーナーでも乳幼児が楽しめるものや、親子で一緒に体験できるプログラムを実施したり、設営内容などに工夫を凝らした。

### □□□ 事業の概要 □□□

#### ■■■ 一般来館児・者へのワークショップ ■■■

平常期間は「やってみよう！つくってみよう！」。夏休み特別期間までのプログラムステップと

して〈紙〉をテーマにプログラムを実施した。10月からは〈空気〉をテーマに、約3週間ごとにプログラムを新しくして実施した。また、季節行事として正月や節分などをテーマにした「こども歳時記」も開催した。

### ■■■ 講座 ■■■

講座・クラブ活動では、年間テーマを決めてストーリー仕掛けでプログラム展開していく「こどもクリエイティブクラブ ゆかいな造形」、親子で協力して作ったり、ときには子どもと大人が分かれて制作したり、または別々に作った作品を合体させたりと、親子で互いに触発し合いながら造形体験を深めていく「同 親子でアート」、木や金属、布などいろいろな造形素材を切る、削る、溶かす、磨くなど、さまざまな方法で素材を変化させ、今まで知らなかつた素材の特性を発見しながら制作する「同 ハンズワーク」の3コースを実施した。

受講当初は、のこぎりや電動糸のこを触ることさえ恐る恐るだった子どもが、いつの間にか器用に使いこなすようになったり、上級生が下級生に道具の使い方をていねいに教える姿が見受けられるなど、受講回数が増えるほど前向きに取り組む姿が向上していた。

### ■■■ グループ活動 ■■■

本年度は、22件を受け入れた。保育所や幼稚園の団体のほか、インターナショナルスクール（プレスクールおよび小学部）や特別支援学校の小学部の団体が利用している。

特別支援学校の場合、先方の引率者と細かな事前打ち合せを行い、本来のプログラムの流れにアレンジを加えたり、状況によっては別プログラムを計画して提供した。また活動中、各団体の引率者にも役割を担ってもらい、プログラムに積極的に参加してもらえるように進行した。

## □□□ 素材との出会い展 紙と造形～ペーパーマーケット～ □□□

〈紙〉は発明されてから約2000年が経つといわれている。長い時間をかけて育まれた紙は、現代の私たちの生活には無くてはならない身近な素材のひとつとなっているが、私たちは大量生産される紙を日々あたりまえのように使うことが多く、その素材の成り立ちや素材性を改めて考え、見つめ直す機会は少ないのではないだろうか。

今回の「素材との出会い展」では、身近な素材である〈紙〉を取り上げ、造形活動を通じて〈紙〉を変化させる技法を体験しながらその素材性を見直し、〈紙〉との新たな出会いや、普段見過ごしている特性や魅力を再発見するワークショップを実施した。

#### ■ペーパーマーケット■

春休み特別期間には、造形スタジオの環境を子どもたちにとってなじみやすい「お店屋さん＝ペーパーマーケット」という設定とした。親子コーナーで実施したパン屋さん「ふっくらベーカリー」は、2枚の薄紙を張り合わせ、息を吹き込むと、まるでパンがふっくらと膨らむように形が変わるプログラム。クリエイティブコーナーで実施したガーデンショップ「波段プランツ」は、波段ボールの“波状”“曲がる”などの特性を生かして、自由な発想で植物を制作した。

展示体験コーナーでは、和紙が何でできているか、またどのようにして作られているのかを知ることができるように、原料や和紙のできるまでの工程をパネルで紹介した。また、乳幼児が紙の素材体験ができるように、細く裂いた新聞紙を風呂の湯に見立て、その中に入ったり、触ったりしながら、新聞紙の柔らかさを体験できる「新聞紙のお風呂屋さん」も設営した。

#### ■さまざまな種類の紙を使って■

造形スタジオにおいて、今までの紙を使った活動では、おもに色ラシャ紙やケント紙、和紙などを使っていたが、夏休み特別期間までの平常期間には、通常の活動では使用しない、指で押すと簡単に模様が写し取れる“ア



素材との出会い展～ペーパーマーケット（体験コーナー）

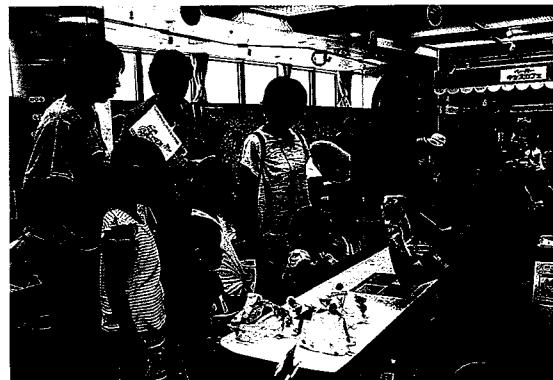
ルミペーパー”、水をはじく”ワックスペーパー”、光があたると絵や文字が浮かび上がってくる”感光紙”などの特殊紙も積極的に材料として取り入れた。これらの紙の特性を生かしながら、“切る”“ちぎる”“揉む”“丸める”などの技法を使って、それぞれの紙の性質の違いが体験できるプログラムを実施した。

#### ■夏休み特別期間■

夏休み特別期間には、引き続き「ペーパーマーケット」を実施。造形スタジオ入口では、夏休みまでに実施した紙のプログラムで作った作品を、お店屋さん仕立てのテントの中にぎやかに飾った。スタジオ奥の体验コーナー「ペーパーキッズカフェ」は、段ボールでできたイスや机、棚が置いてあり、このカフェの中で、紙で作ったお皿やパンなどでお店屋さんごっこをしながら、段ボールの固さや、紙の触り心地が幼児から体験できるコーナーとした。

「紙の研究所」では、春休み特別期間に展示した和紙の原料と製作工程を説明したパネル、そしてたこや扇子、提灯や番傘といった和紙でできた昔ながらの生活用品を展示した。併設した「身近な紙あれこれ」コーナーでは、おむつやキッチンペーパーのように水を吸い取る紙や、トイレットペーパーのように水に溶ける紙、牛乳パックや紙コップのように水を通さない紙など、普段何気なく使っている紙製品を分類して展示し、使う用途に合わせてさまざまな加工がされていることを紹介した。また夏休み特別期間の最後の2日間、特別イベントとして「紙漉き体験～和紙をつくってみよう」を実施し、昔ながらの和紙の手漉きを親子で体験した。

紙と造形～ペーパーマーケット（親子コーナー）



紙と造形～ペーパーマーケット  
「紙漉き体験～和紙をつくってみよう！～」

平成23年10月から1年間、「ペーパーマーケット」(紙で作るいろいろなお店屋さん)という設定のなかで、子どもたちに馴染みのある帽子やアイスクリームなど、身につけて遊べるものや食べ物をテーマにしたものを制作することで、楽しみながら〈紙〉のさまざまな表情を体験してもらえたようだ。この間、親子コーナーで16プログラム、小学生コーナーで15プログラムを実施。その他イベントおよび短期講座を含めると、プログラム実施総数は40プログラムにのぼり、述べ64,000人以上の参加者でにぎわった。

## □□□ まとめ □□□

【子どもの城】は、開館して27年余を経過し、造形部門のスタッフもさまざまな経験を積み重ねてきた。現在のスタッフのほとんどが、造形スタジオの活動の柱である「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」を実践、経験したことになる。

こうした経験が深まっていくことで、全館事業への取り組み、他部門との協力事業などが、以前にも増してスムーズに行うことができるようになった。今後も他部門と相互協力しながら、造形活動をとおした児童の健全育成、社会貢献、普及活動を充実させていきたい。

また、〈動く子どもの城〉をはじめとした研修会や講師派遣などの実技講習会では、開館当初から開発してきた多くのプログラムのなかからセレクトして紹介している。これからも、さまざまな素材やテーマを扱い、今後の研修会活動をさらに充実させていきたい。

# 平成 24 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

## ■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
やってみよう！つくってみよう！「ペーパーマーケット」	4.7～22、5.6～7.20、9.8～10.1 開館時間中	夏休み特別期間「素材との出会い展 紙と造形～ペーパーマーケット～」にむけて、さまざまな種類の〈紙〉を素材とし、「揉む」「ちぎる」「切る」「接着する」などの技法を体験しながら、お店屋さんにあるものを楽しく制作。身近にある素材、紙の特性を体験するワークショップ活動を実施、展開した。
やってみよう！つくってみよう！「空気と造形」	10.3～12.2、H25.2.5～11、3.5～22 開館時間中	身の回りにありながら意識することがほとんどない〈空気〉を、造形素材としてどのように捉えることができるか考察し、〈空気〉を視覚化する方法や動力として活用する方法でプログラムを検討。〈空気〉を五感で体感できるワークショップ活動を実施、展開した。
〈子ども歳時記〉端午の節句	4.24～5.5 開館時間中	スタジオ入口に、実施プログラム「でこぼこピカリゴい」の拡大サンプルを展示した。マグネットや模様のカードを変えることで、こいのぼりのうろこを飾って遊べるコーナーを設置。金属のかぶとのレリーフ、全国各地の民芸品、端午の節句のタペストリーも展示了。
〈　〃　〉クリスマス	12.4～25 開館時間中	全館事業「みんなでかざろうクリスマス」で子どもたちが作ったオーナメントをツリーに飾り、スタジオ入口に展示した。スタジオ壁面には、街並をイメージした装飾とレリーフのサンタクロース、トナカイなどを設置。天井にはクリスマスの飾りを吊るし、雰囲気を盛り上げた。全館事業に合わせてオーナメントを制作するスペースも設けた。
〈　〃　〉お正月	12.26～H25.1.14 開館時間中	スタジオ入口に、プログラムでテーマとして取り上げた「宝船」を展示して導入とした。スタジオ内には獅子頭や七福神の説明パネルを飾り、制作の際の参考とした。お正月や干支にちなんだ全国の民芸品を展示。3階ロビーやスタジオの天井には全国各地のたこを飾った。
〈　〃　〉節分	1.16～2.3 開館時間中	3階ロビーのスロープに、鬼のタペストリーを設置し、来館児・者を迎えた。スタジオ入口には、張り子で作ったさまざまな鬼を展示した。スタジオ壁面には、鬼と福の神を設置し、全体を布で作った豆や升などで飾った。実施プログラム「回転オニ」で遊べるコーナーも設けた。
〈　〃　〉桃の節句	2.13～3.3 開館時間中	スタジオ入口に、おひな様の民芸品をモデルにしたレリーフを展示した。スタジオには紙で作った大きなひな壇や桃の花を飾り、華やかな雰囲気を演出した。実施プログラム「ひなパラ」で遊べるコーナーも設けた。全国各地の民芸品と桃の節句のタペストリーも展示了。
〈開館記念〉第 27 回造形スタジオ展	11.1～25 開館時間中	開館記念行事にあわせて、毎年実施している展示の 27 回目。平成 23 年 11 月～平成 24 年 10 月の 1 年間に実施したプログラムと活動を見渡すことができる、造形スタジオ活動のダイジェスト版。「道と造形」「紙と造形～ペーパーマーケット」「子ども歳時記」のプログラム作品と、「夏休み造形教室」「子どもクリエイティブクラブ」の各コースを、作品と活動風景の写真で紹介した。
第 19 回親子体験ワークショップ	11.1～4 開館時間中	親と子がそれぞれに制作することで、造形活動をとおし親子のかかわりを見つめ直すワークショップ。実施プログラムは、「エアーふわクル」。表裏で色が違う色ラシャ紙をうずまき型に切り、中心にたこ糸をはつたら全体を飾る。たこ糸を持って動かすと、空気の抵抗でうずまき型の紙がクルクルと回る。親子で回して楽しんでいた。

## ■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
（夏休み）素材との出会い展「紙と造形～ペーパーマーケット～」	7.21～9.2 開館時間中	〈紙〉の特性を体験するワークショップ。紙で作るお店屋さんという設定のなかで、子どもたちにじみのある帽子やアイスクリームなどを制作。体験コーナーでは、お店屋さんごっこができる「ペーパーキッズカフェ」で、紙の固さや触り心地を体験。展示コーナーでは、紙の原材料の展示や和紙の作り方の紹介、紙でできた生活用品などを展示。楽しみながら紙の特性や素材性が体験できるワークショップを実施した。

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 やってみよう！ つくってみよう！ 「空気と造形」	H25.3.23～4.7 開館時間中	次年度の夏休み特別期間「造形発見展～空気と造形～」に向けた活動。〈空気〉に関連する機械、生き物、乗物などのパネル展示、ポンプで空気を送り、物を動かす仕組みの体験物、〈空気〉の動きを察知する壁といった環境設定をすることで、大人から子どもまでが楽しみながら〈空気〉の特性や魅力を再発見できるワークショップを実施した。

## □□□ 講座・クラブなど □□□

## ■■■ 講座 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ 「クレイワーク ゆかいな造形」	(人) 小1 ～中3 (20)	(人) ① 20 ② 16 ③ 15	水曜日 16:15～17:30	布や木、金属などのさまざまな素材を用い、素材にみあつた道具と技法を使い分け、遊びのなかで楽しむ造形体験。年間テーマは「伝説の生物をさがそう！」。子どもたちが考える伝説の生物の姿形やすみか、好みの食べ物の謎など、ストーリー仕掛けで展開。1期の「発見！伝説の生物！」編では、貝殻やボルトなどの雌型から型取りした粘土を組み合わせて作る謎の生物の化石や、新聞紙とラシャ紙で立体的な伝説の生物ほかを制作した。2期は「すみかと食べ物」編。木材を組み合わせて作った地下の生物のすみかや、ベニヤ板や樹脂粘土、ろうを使いコロッケや焼き鳥など、生物のごちそうプレートを作成。3期の「生物とあそぼう」編では、垂木の車体と輪切りの自然木をタイヤにした車を制作。車に取り付けたLEDライトで、紙や金網で作ったビルや橋などを幻想的なシルエットで壁面に映し出すものを制作。1年間の活動を通じて、子どもたちはさまざまな素材や道具、技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら楽しみを見出していた。受講料＝1期(10回)26,000円、2期(12回)31,000円、3期(8回)21,000円。
〃 「親子でアート ～わくわくワーク～」	(組) 4・5歳児 と親(10)	(組) ① 10 ② 9 ③ 6	木曜日 15:30～16:30	親子で協力して作ったり、時には別々に作った作品を組み合わせるなど、さまざまな制作方法を取り入れ互いに触発しあいながら、親子の新たなかかわりを発見するコース。さまざまな素材や技法を体験することで、新たな触感や視覚を発見することも目的。ミキサーで碎いた紙を使った弁当作り、スタンプを使った描画など、幼児にも扱いやすい〈紙〉を中心にしたプログラム。木工作や、金属の加工、石こうの型取りなど、幼児があまり経験しない素材や技法を体験するプログラムも実施。年間をとおし、“食べ物”や“季節行事”をテーマに取り入れ、より制作しやすいように工夫した。親子で協力し互いの表現に感心しながら、また他の親子とのコミュニケーションが広がるなど、造形活動をとおして自然なかかわりが生まれていた。受講料＝1期(10回)31,000円、2期(12回)37,000円、3期(8回)25,000円。
〃 「ハンズワーク ～創造探検～」	(人) 小2 ～中3 (16)	(人) ① 13 ② 12 ③ 13	土曜日 15:30～17:30	素材、技法、道具などについて、より深く理解をすすめ、切る、削る、磨く、溶かすなどいろいろな方法を試しながら、素材に合わせた造形表現を楽しむ小学2年生以上のクラブ。活動時間も2時間とし、より充実した制作ができるようにしている。1期は紙、木、プラスチックといった刷染みのある素材を中心に制作。丸太を輪切りにし、表面に焦がし模様をつけた名札、ペン先を取り付けた枝の万年筆、ミキサーにかけて碎いた紙を材料にした張り子のライトなどを制作。身近な素材の変化を楽しんだ。2期には石を使った名札、羊毛を縮毛して作るがま口、石膏を使ったクリスマスツリー、オリジナルの家紋をデザインして、シルクスクリーンで印刷する版画技法など、新しい素材に触れる機会を増やした。3期は金属やガラスといった素材を使用。アルミ板を打ち出し技法で飾った名札、ビー玉を金属で挟み込んだアクセサリー、鋳造によるスプーン、鍛金技法で作る銅の四角い皿など、高度な技法を積極的に取り入れて制作した。子どもたち同士で会話を楽しみつつ、それぞれのペースでゆったりと制作に励んでいた。受講料＝1期(10回)26,000円、2期(12回)31,000円、3期(8回)21,000円。

## ■■■ 短期講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子 ワーク ショップ	親子で陶芸体験 ～キャンドルス タンドをつくろ う！～	(組) 年長～高3 と保護者 のペア (各 10)	(組) 計 20  6.17 10:30～12:00 14:00～15:30	父の日を記念し父親が参加しやすい設定にしたワークショップ第1弾。色の違う2種類の粘土を使った「象嵌(ぞうがん)」模様や、陶土どうしを接着する「どべづけ」などの陶芸技法を体験しながら、親子で1つずつのキャンドルスタンドを作った。完成後、乾燥、釉がけ、本焼き焼成をし完成。受講料=3,000円(親子1組)。
	親子で体験 ～カラフルライ トツリーをつく ろう！～	〃	計 8  11.18 10:10～12:40 14:30～17:00	父親が参加しやすい設定にしたワークショップ第2弾。絵の具を使った色遊びや、ゴム板による版画技法を体験しながら、親子で協力してツリー型の照明作りを体験した。受講料=2,500円。(親子1組)
	親子で金属体験 ～アルミのレリ ーフ皿をつくろ う！～	〃	計 18  H25.2.24 10:45～12:45 14:30～16:30	父親が参加しやすい設定にしたワークショップ第3弾。アルミ板を“なます”“たたく”という金属加工(鍛金)技法をした後、金属用工具のタガネを使って打ち出し加工を施し、模様が少しふくらんだレリーフ皿作りを体験した。親子で1枚ずつ皿を制作。受講料=2,500円(親子1組)
夏休み み造形 教室	わくわく キャンプグッズ	(人) 小3～高3 (1日コース /4日間 計 60)	(人) 延べ 60  7.24～27 10:10～16:40	灯りをつけると飾りの絵や模様が壁に映し出される特製カンテラと、菓子などを盛りつけるレリーフ状のアルミの皿を制作。金づちや電動糸のこを使った木工、金属をたたいて立体的に形を打ち出す鍛金など、いろいろな道具や技法を体験しながらキャンプグッズを作る。○や△、□などの形のスタンプで飾り付けたバッグも作り、グッズを収納できる。受講料=5,000円。
	型どり 化石標本	小2～高3 (半日コー ス/4日間 計 120)	延べ 120  7.31～8.3 10:10～12:40 14:00～15:30	板状にした粘土に、石やネジ、チェーン、木の棒などの素材を組み合わせて型押しし、化石の雌型を作る。そこに水で溶いた石こうを流し込んでしばらくすると、化石の形がレリーフ状に浮き上がった石こう板ができる。木の標本箱に石こう板を飾ると、自分だけのオリジナル化石標本が完成。受講料=3,000円。
	マイ デザインハウス	小3～高3 (1日コース /4日間 計 60)	延べ 60  8.7～10 10:10～16:40	ベニヤ板を組み合わせた家の外壁工事の次は、イスやテーブルなどのインテリアを制作する。完成後は屋上や2階、外壁の一部が外せるので、家具のレイアウトを自由に変えて遊べる。自分のお気に入りの家のデザインに挑戦。受講料=5,000円。
	チクタク ジオラマ ワールド	小2～高3 (1日コース /4日間 計 60)	延べ 60  8.14～17 10:10～16:40	スポンジやコルク、砂などいろいろな素材で、海や山、川など自分の好きな場所のジオラマを作る。ジオラマの中央にセットした時計の機構に、樹脂粘土で作った動物や乗り物を取り付ければ、“チクタク”と楽しく動き出す。受講料=5,000円
特別 ワーク ショップ	せかいの色は どんな色?	年中～小4 (各 24)	計 48  4.30、5.13 11:00～12:30	平成22年度に続き、イタリア人アーティスト、ダリオ・モレッティ氏による大きな布に共同で描くワークショップ。1日目はこどもの日にちなんで「空を泳ぐコイ」、2日目は母の日にちなんで「お母さんのかお」をテーマに色と形を遊びながら、みんなで一つの世界を描いた。作品は後日、活動の写真とともに3階ロビーに展示した。参加費：入館券+1,000円
紙と 造形 特別 イベント	紙漉き体験 ～和紙をつくっ てみよう!～	年中～高3 (各 10)	計 40  9.1、2 13:30～14:30 15:30～16:30	古くから伝わる和紙の紙漉きを体験しながら、紙がどうやってできるのかを発見する。年中～小2は保護者同伴。受講料=無料。
	親子で段ボール キャップをつく ろう!	(組) 年長～高3 と保護者 のペア (各 12)	(組) 計 6  9.16 10:30～12:00 14:00～15:30	段ボール作家、島崎紘而氏と一緒に、帯状にした段ボールを組み合わせて動物(カメレオン)型の帽子「段ボールキャップ」を、親子で力を合わせて制作。かたい段ボールを曲げる、つなげるなどして、実際にかぶれるアート帽子を制作した。受講料=2,000円(親子1組)。

## ■■■ その他 ■■■

名 称	日 時	内 容
ブルーノ・ムナーリ展	4.21～5.27	[こどもの城] 所蔵の「ブルーノ・ムナーリ・コレクション」の貸し出し事業。秋田市立千秋美術館での展示、カタログ制作への協力。ワークショップ「テクスチャー」「コラージュ」を実施し、現地スタッフにも指導した。
レクチャー「手で見ること～ケ・ブランリー民族博物館における実践活動から～」	8.4	平成 18 年から継続している「触察」レクチャーシリーズの 7 回目。視覚障害者が認知の世界を広げるための習得法や、美的な鑑賞体験ができるよう開発された手で触って読み解く（触察）の本についての講演会。講師：デルフィーヌ・アルメル（元ケ・ブランリー民族博物館教育普及担当）。主催：NPO 法人視覚障害者芸術活動推進委員会、こどもの城造形課（会議室）
第 16 回 図工だいすき 子ども美術展	9.1～10.1	都内小学校図工専科教師有志（23 校）と造形スタジオによる子どもたちの図工作品展。会期中の土・日曜日、祝日にワークショップを開催。9 月 15 日は文部科学省教科調査官・岡田京子氏によるギャラリートーク、ギャラリー TOM 副館長・岩崎清氏によるフォーラムを開催した。入場者は 3,337 人。主催：NPO 法人 CCAA、こどもの城造形課（ギャラリー）
第 11 回鉄はうたう	12.4～12.25	インド、パキスタン、ネパールなど、南アジアの口琴の展示と、現地での演奏風景や制作過程の写真展示。12 月 15 日にはコンサートも開催。主催：日本口琴協会、こどもの城造形課（造形スタジオ）

## □□□ プログラム一覧 □□□

## ■■■ 親子コーナー ■■■

名 称	内 容
ペーパーマーケット	ふっくらベーカリー 2 枚重ねた薄色紙をパンの形に切り、端をのりづけする。ストローを付けて息を吹き込むと、パンがふっくらと膨らむ。
	紙の造船所～ワックスペーパーシップ～ ワックスペーパーの端をアルミ線でとめて船体を作り、紙で飾りつけをすれば、水に浮く紙のオリジナルシップの完成。
	ペットショップ～ペーパーアミマル～ クラフト紙に切りこみが入った紙「クッションペーパー」を広げて両端をとめたら、飾りつけをして自分の好きな動物を作る。
	アイス屋さん～ペーパージェラート～ デコボコの板の上に和紙をのせ、クーピーでこすって模様をつける。茶色の色紙を巻いて作ったコーンに和紙をのせれば、美味しいそうなアイスのできあがり。
	青山帽子店～クラフトハット～ クラフト紙でできた紙袋の底を折ったり、束ねたりして帽子の形を作る。さまざまな色や触り心地の紙で飾りつけをしたら完成。かぶって楽しめる。
	すけーるペーパーバスケット 2 つに折ったトレーシングペーパーに、持ち手の紙ひもをつけてバスケットを作る。野菜や果物など、紙で自分たち好きなものを作つて入れれば、中身がすけて見える紙のバスケットの完成。
空気と造形	かざみくる 任意の形に切ったラシャ紙に竹ヒゴをつけ、ストローに通す。ストローを持ち、息を吹きかけると、紙が空気をとらえてクルクルと回る。
	エアーふわkul 色ラシャ紙をうずまき型に切り、真ん中にたこ糸をはつたら全体を飾る。たこ糸を持って左右に動かすと、空気の抵抗でうずまき型の紙がクルクルと回る。
	ぐるぐるバンド 紙の帯で輪を作り、カールさせた紙をまわりにはる。輪を腕に通して息を吹きかけると、空気で紙が押されて輪がぐるぐると回る。
	くうきちゃん ビニール袋に空気を入れ、口を閉じたら全体を飾る。空気を袋に閉じ込めることで、無色透明の空気の形・量・重さを感じることができる。



紙と造形～ペーパーマーケット（親子コーナー）



やってみよう！つくってみよう空気と造形（親子コーナー）

名 称		内 容
こども 歳時記	でこぼこピカリごい	ホイルペーパーの内側に厚みのある素材をはさんではり合わせ、指でこすると、うろこの形が浮きあがる。頭を飾って竹ひごにつければ、ピカリと光るこいのぼりの完成。
	X'mas スノーパック	ビニール袋に小さく切った紙を入れ、ストローをつけたら外側を飾る。ストローから空気を送ると、中の紙が雪のようにひらひらと舞うスノードームが完成。
	お正月 すすめ宝船	段ボールの船にペンで絵を描いた帆を立て、お正月の飾りつけをする。風を送れば、机の上を滑りながら進む宝船の完成。
	回転オニ	紙の帯に切り込みを入れて両端をのりではり合わせたら、上に鬼の顔を飾り、下に重りのクリップをつける。高い所から落とすと、鬼の体が空気を受けてくるくると回転する。
	ひなパラ	色薄紙の角にたこ糸をとめ、集めた糸の先におひなさまの飾りをつける。高い所から落とすと、紙が空気の抵抗を受けてパラシュートのようにふわりと下りてくる。
その他	光るミニパックフレンズ	不織布のパックの中にシュレッダーで細かくした紙をつめて形を作り、蛍光紙で目や耳、手足などの飾りつけをすると、ブラックライトで幻想的に光る動物の完成。「秋祭り」のプログラム

### ■ ■ ■ クリエイティブコーナー ■ ■ ■

名 称		内 容
ペ ー パ ー マ ー ケ ット	ガーデンショップ ～なみ段プランツ～	波段ボールを葉っぱの形に切り、針金に通して植物を作る。「穴が開いている」「曲げやすい」という波段ボールの特徴を生かした植物作り。 (新小4以上、1時間30分)
	うつわ屋さん～パ ラフィンカップ～	円筒の型に柔らかいタオルペーパーを巻いて、模様や持ち手をつけて、溶かしたろうを塗ると完成。固まつたろうの効果で形がくずれず、水がもれないカップの完成。 (小3以上、1時間30分)
	写真屋さん ～感光プリント～	魚や貝、野菜などがプリントされた透明シートを組み合わせて、絵や模様など自由に作る。感光紙の上にのせて光と熱をあてると、絵や模様が劇的に浮かび上がる。 (小2以上、1時間)
	金物屋さん～ペーパー <sup>ー</sup> キッチンツール～	銀の厚紙に切り込みを入れて折ったり丸めたりしながらホッチキスでとめ、鍋やフライパンなどの調理器具を作る。 (小2以上、1時間)
	ぬいぐるみ屋さん～ パックフレンズ～	不織布のお茶パックの中に細かく切った紙をつめて膨らませ、形を作る。飾りつけをすれば、オリジナルのぬいぐるみの完成。 (小2以上、1時間)
空 気 と 造 形	ベタベタハリコの ピン屋さん	好きな形のびんを選んで、まわりに紙をのりではり、乾燥後、なかのびんをはずせば「張り子」のびんの完成。最後にラベルも作り、オリジナルのびんをデザインする。 (小3以上、1時間30分)
	電気屋さん～段ボーラー <sup>ル</sup> コレクション～	各種段ボールを組み合わせて、カメラや冷蔵庫など身の回りにある電化製品を作る。 (小3以上、1時間30分)
	ペーパーデザイン ～ロウケつ染め～	紙を折って角をろうにひたしたり、ろうで絵を描いた後、紙全体に染料を塗って乾かす。アイロンをかけてろうを溶かし取ると、ろう以外の部分が染まる「ろうけつ染め」の完成。 (小3以上、1時間30分)
	ぴゅーっと バルーンカー	段ボールで車を作り、中の風船に空気をいれて手を離すと、空気の勢いで車がピューッと前に走り出す。 (小2以上、1時間)
	エアキャッチャー	竹ひごを曲げて輪を作り、色薄紙をはる。全体を飾り、タコ糸をつけてぶらさげれば、風を受けてゆっくり動くオブジェの完成。 (小2以上、1時間)
こ ど も 歳 時 記	ふっくらフクラーム	色薄紙を折ってひだを作った後、ストローをはさんで袋状にとめて全体を飾る。息を吹き込めば、色薄紙が紙風船のようにふっくらと膨らみ、飾りもふんわり動く。 (小2以上、1時間)
	ゆらゆらウィング	アルミ板を好きな形に切り、タガネで模様をつけたら、土台にアルミ線を立てて載せる。風を受けてゆらゆら動くオブジェの完成。 (小2以上、1時間)
	端午の波段兜	波段ボールを三角に折り、段ボールや壁紙、金銀紙などで飾る。端午の節句ならではの、かぶれる紙製のかぶとの完成 (小2以上、1時間)
	X'mas ゆらりんツリー	アルミ線を曲げてツリーの形を作り、色セロハンをはる。反対側に石をつけて重りにし、飾りをつければ、風を受けてゆるやかに動くツリー型モビールになる。 (小2以上、1時間)
	お正月 スイスイ宝船	発泡スチロールを削った船をろうでコーティングし、お正月にちなんだものを描いた帆を立てる。できあがったら水に浮かべ、走らせて遊ぶ。 (小2以上、1時間30分)
節 分 ふわっとかくれ鬼	段ボール板の土台に穴をあけてストローを差し込み、鬼を作つて土台の上を飾つたら色薄紙で覆う。ストローに息を吹き込むと色薄紙がふわっと浮き上がり、鬼が現れる。 (小2以上、1時間)	
	ヒラリつるしひな	アルミ線で輪を作つて和紙をはり、おひなさまとおだいりさまの飾りをつける。糸でつなぎ、全体を飾れば、空気の動きにあわせてヒラリヒラリとまわる。 (小2以上、1時間)

# 音楽



集まれ！サンバ・フェスティバル



こどもたちからのサウンドメッセージ

## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

音楽部門の活動は、音楽ロビーを一般活動の拠点とし、スタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場とするという形を基本としている。

音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして「こどもの城」のなかでも、なくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共に感する喜びを子どもたちに伝えることができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

本年度の重点目標として、子どもたちがより能動的に音楽遊びを楽しめるように、プログラムへの参加性を高めた“子ども主役型のプログラム”と、音楽をとおした“家族のコミュニケーション”的充実を第一に掲げた。さらにより幅広い来館児・者が音楽プログラムに参加し楽しめるように、プログラムのネーミングや、構成を見直した。

### □□□ 事業の概要 □□□

平常期間の一般利用については、平日は1日1回の音楽遊びのプログラムを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは特に親子のスキンシップがはかるオリジナルの歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなどを行っている。

日曜日・祝日には、11時30分から17時まで9本の催しが組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「みんなであそぼうウキウキおんがく広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「めずらし楽器にチャレンジ」など。管楽器や打楽器などによる編成で、リズミカルな楽曲を演奏する「Oshiro Band 元気ライブ」は、子どもたちだけではなく、大人も十分に楽しめるレベルの高い演奏を心がけた。

スタジオの一般来館児・者事業は、Bスタジオで実施した「わいわいスペシャルコンサート」である。「草笛」「インドネシアのガムラン」「親子で楽しむクリスマスコンサート」「スペインのフラメンコ」「アメリカのブルーグラス」と5本のコンサートを企画した。“初めてのコンサート体

験を【子どもの城】で！”をコンセプトに、子どもたちになじみ深い選曲や、体験の時間を設けるなど、どの回も親子で楽しめる工夫を取り入れた内容が好評であった。

特別期間の催しは特に来館者児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者に幅広い音楽体験の場を提供している。

講座・クラブにかんしては他では体験できない音楽活動をめざして、邦楽・民族音楽系なども含むラインアップで運営している。

### ■■■ 音楽ロビーの活動から ■■■

#### 【うたっておどってハッピーシリーズ】

継続的に実施している季節の行事をテーマにしたプログラム。年数を重ねるごとに行事が増え、「七夕」「ハロウィーン」「クリスマス」「ひなまつり」(別シリーズで「子どもの日」もあり)と、1年間の主な歳時記がそろったことになる。

本年度から「うたっておどってハッピー○○○(たなばたなど)」とタイトルをそろえ、シリーズ感を打ち出した。前年度から実施の予告にオリジナルテーマソングのプロモーションビデオを作成し、館内テレビで放送していたが、本年度はインターネット(Youtube)も利用することで、広報的な効果と催しに対する期待感を高めることができた。行事にちなんだ楽曲やスタッフオリジナルのテーマソングをステージで歌い踊る、子どもたちに人気のプログラムとなっており、季節を感じる行事をとおして子どもの育ちを実感するという側面から、保護者にも期待される催しになりつつある。

#### 【あそんでおどって かがやけ！オリンピック】

夏休み特別期間には小学生がより興味を持って参加したくなるような内容で、かつ幼児も楽しめるようなプログラム作りを心がけた。今回こだわったのは“サウンド”と“動き”。初の試みとして、あらかじめ録音した“音”を使用した。リズムボックスを用いヒップホップ的なリズムを素材にした音楽、またサンプラーを使用しゲーム的な効果音も多用した。通常音楽ロビーでの活動は、子どもたちの動きに合わせた生演奏でのプログラムが好評だが、今回の電子的なサウンドは生演奏とは違う魅力で大きな子どもたちの興味を誘っていた。

プログラムへの参加者は、〈選手〉として金・銀・銅の3ステップに挑戦。保護者は選手を応援する〈観客〉という設定だ。準備体操の後、最初は銅メダルのスタッフが登場。まったく話さず、動きと視線での進行。ジャンプ、パンチ、足踏み——。ビヨーン、ブッシュ、ドスドスなど全ての身体の動きに、それぞれ効果音が付いており、あたかも動くと音が鳴っているように見えるのがポイント。口ボット的なコミカルな動きと音の効果により、子どもたちが集中して遊びの世界に入っていた。続いて銀メダルのスタッフによる楽器クイズ。3つの楽器からどの音が鳴ったかを当てるゲームだ。

最後の金メダルのスタッフはダンス。ヒップホップ調の曲にバスケット、バレー、サッカー、水泳、マラソンなどスポーツの動きをモチーフに振り付けた。アーチェリーやフェンシングのポーズをスローに取り入れることで、幼児も踊りやすく、カメラを手に見守る保護者にも好評だった。最後は表彰式と称して、子どもたちがステージにあがりダンスをし、保護者も手拍子などで応援して会場が一体となるフィナーレになった。

オリンピックというテーマを音楽に置き換え、“聞く”“想像する”“動く”などいろいろなアプローチから音楽を楽しんでもらえるように工夫したねらいは、最後まで飽きることなく参加していた子どもたちの様子から充分に達成されたと思われる。

幼児期には音が聞こえると自然に身体を動かしていた子どもたちが、成長するにつれて恥ずかしさや人の目が気になり、自然に身体を動かすことが消えてしまう。今回のプログラムでは、いきなり音楽を流して身体の動きを誘うのではなく、今までとは異なったアプローチで子どもたちを導いた。



うたっておどって ハッピーハロウィーン

まず、効果音という“音”そのものに興味を持つてもらい、ダンスとも体操とも一味違う、〈足踏み〉や〈ジャンプ〉、〈パンチ〉や〈バネのようにはずむ〉などと、わかりやすく、コミカルな動きで構成したところ、抵抗なく参加し、豊かな身体の動きにつながった。また、幼児のプログラムのように親子参加だと、大きな子どもたちが幼稚に感じて参加を渋るようになるので、基本的には子どもだけで参加できるような雰囲気作りを心がけた。このことにより小学生以上の子どもたちが積極的に参加していた。

さらに、リーダーがロボットのように無言・無表情で動きを提示する、不思議な雰囲気にも引き込まれたようだ。今回のような無言・無表情でも、全身から漂わせる“空気”で子どもたちの気持ちを引き付ける試みは新しい発見になった。

今回、導入部分では子どもたちが行進をしたりマス目に入ったり、子どもの周囲で見守る人たちの楽しさもねらった。クイズでは大人を巻き込むような呼びかけをし、会場全員が楽しめる進行になるよう工夫した。一緒に参加する、参加している子どもを見守る、さまざまな方法で子どもたちの活動を支え、楽しめるような環境作りを含めて、プログラムを作る大切さを提案していきたい。



あそんで おどって かがやけオリンピック

## □□□ まとめ □□□

前年度末に音楽ロビーの利用者から聞き取りをした利用時間の調査結果に基づいて、プログラムのタイトルの統一化や時間の調整を実施した。また本年度は動画やポスター、Facebookなどを利用し、催しの告知などにも力を入れた。国立の総合児童センターとして、よいプログラムを作り、実施することは大切だが、それだけではなく利用者のニーズを察知し、より利用しやすい環境を作り出すことも必要と考える。

プログラムの成熟とスタッフの技術の向上は、多くの利用者を迎えた実践のうえに成り立っている。プログラム運営にあたって多くの試行錯誤があったからこそ、〈動くこどもの城〉や講師派遣業務において、〔こどもの城〕のプログラムやノウハウが実際に活用してもらえるように、さまざまなニーズに合わせた形で提供できるようになった。

音楽ロビーの活動では、子どもたちのためのプログラムを考えるだけではない。子どもたちを取り巻く保護者や大人に対しても、〈音楽〉や〈あそび〉の楽しさ、子どもたちとすすぐ喜び、子どもたちの成長を感じるきっかけなど、プログラムを通してさまざまなものを発信するように心がけている。ほんの一言でも、こちらから話しかけることによって日頃のストレスが解消できたり、悩みを話せたり、スタッフの橋渡しによって知らない家族同士が言葉を交わすきっかけを作ったりなど、単にプログラムの実施に留まらない、子育て支援の場作りをめざしている。

私たちスタッフは、子どもたちが育つ過程で、幼児期には保護者と共に成長を見守り、学童期には共に考え、やがて中・高校生になった彼らと共に小さな子どもたちを手助けする。スタッフのかわり方はさまざまに変化するが、変わらないのは子どもたちの成長を、保護者と共に感じ、喜びあうことであり、27年間の活動を通じて、この子どもたちが成長し、親になり、再び〔こどもの城〕を利用していることは大きな喜びである。

各種アミューズメント施設の充実により、児童館の存在が問われる昨今だが、〈遊び場〉という“点”としての役割は同様でも、子どもや保護者を長く見守り、かかわることができる“線”としての役割は代えがたいものがあると信じている。

# 平成24年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□
■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
<b>みんなであそぼう ウキウキ音楽広場</b>	火曜日 15:00～15:25 水・金曜日 14:30～14:55 土・日曜日・祝日 14:00～14:30 ※8スタジオの催しのある日を除く	スタッフ一人ひとりの個性を生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えた音楽ロビーの遊びを代表するプログラム。前年度までの各曜日ごとのプログラムタイトル(みんなでライブ、すいようパチパチパーク、木曜なかよし広場、音楽あそびマーケット)を統合した。参加者の年齢に対する配慮や保護者の参加方法を工夫することで、よりバラエティーに富んだプログラムになった。(音楽ロビー)
<b>トキメキ楽器 ミニライブ</b>	火曜日 15:30～16:00	前年度来館児・者に好評だった楽器のみの演奏プログラム。バイオリンとピアノに、新しくマリンバや打楽器も取り入れた編成でレパートリーも増やして実施した。 (音楽ロビー)
<b>赤ちゃん特等席 ぱぶりんパラダイス</b>	火～金曜日 開館時間中 (催し開催時を除く)	0～1歳児と保護者のコーナー。赤ちゃんを囲んで初対面の母親同士が自然と交流を持てる場になっている。 (音楽ロビー)
<b>うたってハッピー</b>	火曜日 14:30～15:00 水曜日 14:00～14:30 15:30～16:00 木曜日 14:00～14:30 金曜日 13:30～14:00 15:30～16:00 土曜日 11:30～12:00 13:30～14:00 日曜日・祝日 11:30～12:00 13:30～14:00 15:15～15:45	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなど。リクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。土・日曜日、祝日の午前中の回は、早い時間帯に来館する幼児と保護者には特に好評である。また昼食時間をさけ13:00の回を13:30に変更したところ、より多くの参加者を得る事ができた。 (音楽ロビー)  ※日曜日・祝日の「ウキウキおんがく広場」がないときは 11:30～12:00、13:00～13:30、15:00～15:30に変更
<b>ストリートオルガン やってみよう！</b>	火曜日～金曜日 16:00～16:30 土曜日 13:00～13:30 16:30～17:00 日曜日・祝日 12:45～13:15 16:30～17:00	ロビー常設のオランダ式手回しオルガン。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)  ※日曜日・祝日の「ウキウキおんがく広場」がないときは 12:30～13:00、16:30～17:00に変更
<b>みんなの楽器屋さん</b>	木曜日 15:00～15:30	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。活動には女性ボランティアも参加。演奏のレパートリーも増え、アンクルン、トーンチャイム、ミュージックベルなどで季節の童謡を演奏。演奏した楽器・曲についての紹介を女性ボランティアが担当。楽器の扱い方、演奏のコツ、曲の由来など、個性豊かに司会している。 (音楽ロビー)
<b>みかんちゃんズの オバオパサンバ！</b>	金曜日 14:30～15:00	女性ボランティア中心の活動。サンバのリズムに合わせて体を動かす「サンバ新聞」というプログラムに取り組んだ。ボランティアの一人ひとりが、プログラムリーダーとしてのスキルや演奏技術の向上をはかり、活動を支えてくれている。 (音楽ロビー)
<b>ポコ・ア・ポコ 土曜音楽俱楽部</b>	土曜日 15:30～16:20	高学年向けの楽器体験コーナー。1期は「箏」、2期は「三味線」、3期は「ガムラン」を取り上げた。どの楽器も、参加した子ども同士あるいはスタッフと合奏することで、みんなで演奏する楽しさを伝えられるようにした。毎週同じ楽器を続けることで、リピーターには個々の技術を向上させるおもしろさや達成感を味わってもらえるように工夫した。6月16・17、2月9～11日には、体育・映像科学・プレイ部門と企画研修部門の共同で、小学生プログラムのスペシャル企画を実施。音楽部門は、アフリカの太鼓と日本の太鼓、インドネシアのガムランやアンクルンで参加。プレイホールで発表(ミニ・コンサート)も行った。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
<b>Oshiro Band 元気ライブ</b>	日曜日・祝日 13:15～13:30 16:00～16:30 ※「ウキウキおんがく広場」がないとき 13:55～14:15 16:00～16:30	『クシコスポスト』『トランペット吹きの休日』『トルコ行進曲』など、リズミカルな楽曲をマリンバ、ギター、トランペット、バイオリン、フルートなどで演奏。オリジナルアレンジで、スタッフのソロを入れ、来館児・者にアピール。子どもだけではなく、大人も一緒に手作り楽器を演奏したり、手拍子をしたり、ロビー全体が一体となるライブになった。(音楽ロビー)
<b>めずらし楽器に チャレンジ</b>	土日曜日・祝日 14:30～15:00 ※「ウキウキおんがく広場」がないとき 14:15～14:45	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴をわかりやすく紹介。コンサート終了後は使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。(音楽ロビー)
<b>わいわいスペシャル コンサート</b>	9.16、10.8、12.16・24 H25.1.27 13:30～14:00 15:30～16:00	手作り楽器のワークショップとコンサートの2種で構成してきた「わいわいスタジオ」を改め、コンサート形式に絞って実施。お馴染みとなった「草笛」(9.16)、「インドネシアのガムラン」(12.16)、「モーモーーのクリスマスコンサート」(12.14)、「フラメンコ」(1.27)に加え、初登場の「アメリカ音楽のブルーグラス」(10.8)の5回のコンサート。本格的な演奏と子どもたちに親しみやすい曲目の取り入れや、体験の時間を設けることにより、小さな子どもから大人まで楽しめるようなコンサート作りを心がけた。(Bスタジオ)
<b>うたっておどって ハッピーなばた</b>	6.30、7.1・7 11:30～12:00 13:30～14:00 (1日のみ) 15:15～15:45	星の飾りを身につけ、子どもたちがステージに上がって歌い、踊る場面を設けた「うたってハッピー！」のスペシャル版。フィナーレは新作オリジナルソング「きらきらなばた」で歌い踊った。(音楽ロビー)
<b>うたっておどって ハッピーハロウィーン</b>	10.20・21・27・28 11:30～12:00 13:30～14:00 (21・28日のみ) 15:15～15:45	子どもたちがステージに上がって歌い、踊るシリーズのハロウィーン版。来館児がだれでも身につけられる仮装用の衣装を用意。ロビー全体をパーティ会場のように演出。ステージに上がらなくても楽しめた。フィナーレはオリジナルソング『PAN PAN PUMPKIN』で歌い踊った。(音楽ロビー)
<b>うたっておどって ハッピーひなまつり</b>	H25.3.2・3 11:30～12:00 13:30～14:00 (3日のみ) 15:15～15:45	子どもたちがステージに上がって歌い踊るシリーズのひなまつり版。小さなマイクを持って、“女の子”をイメージさせる曲のほか、フィナーレは本年度新作のオリジナルソング「おひなまつり おはなまつり」で歌い踊った。(音楽ロビー)
<b>ドキドキッズ オンステージ</b>	H25.3.17、20 13:30～14:00	音楽部門講座・クラブ発表会をかねる、一般来館児・者向けのコンサート。 □集まれ！サンバ・フェスティバル！(レッツ・プレイ・サンバI、レッツ・プレイ・サンバII) = 3月17日／13時30分／音楽ロビー □花のお江戸の助六太鼓(和太鼓グループ) = 3月20日／13時30分／音楽ロビー



わいわいスペシャルコンサート  
「ずんちゃかノリノリアメリカ民俗音楽  
ブルーグラスであそぼう」



集まれ！小学生！  
ポコ・ア・ポコ土曜音楽俱楽部スペシャル  
「インドネシアのガムラン」

## ■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉めずらし楽器にチャレンジ	4.28～30、5.3・4 14:15～14:55 5.5・6 13:30～14:10	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉うたってハッピー!	4.28～30、5.3・4 11:30～12:00 13:00～13:30 5.2 14:00～14:30 15:30～16:00 5.5・6 13:00～13:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉ストリートオルガンやってみよう!	4.28～30、5.3・6 12:15～13:00 16:30～17:00 5.2 16:00～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉Oshiro Band元気ライブ!	4.28～30、5.3・4 14:55～15:10 16:10～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉みんなであそぼうウキウキ音楽広場	5.2 14:30～15:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉みんなでダンス!ノッちゃって!おどっちゃって!	4.28～30、5.3・4 13:30～14:10 15:10～15:50	「子どもの日」にちなんで、子どもたちによりスポットが当たるよう工夫したダンスプログラム。体全体を使ったまねっこ遊びのウォーミングアップから始め、ゲームに発展させる。それらの動きが次第に組み合わさり、知らず知らずのうちにダンスになるという進行。最後は年齢ごとにステージに上がり、「こどもの城」オリジナルソングにあわせて披露する。 (音楽ロビー)
〈〃〉ガドガドスーパーライブおんがくであそぼう!	5.5・6 11:30、14:30(ファミリータイム) 16:00(パワフルタイム)	[こどもの城]から生まれた6人編成のバンドの公演。今回は結成20周年の記念コンサート。劇場公演と違い、子どもたちそれぞれが音楽ロビーにある楽器を持って参加。リズム遊び、手遊び、ダンス、民族楽器紹介、ジャグリングなど多彩な内容を展開。 (音楽ロビー)
〈夏休み〉ストリートオルガンやってみよう!	7.21～9.2 12:45～13:15 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉夏のごいっしょライブ!	7.21～8.19 11:30～12:00 15:00～15:30 (8.13、16は11:30のみ) 8.20～9.2 11:30～12:00 14:30～15:00	バンド形式による弾き語り。歌の演奏は子どもたち、親子にとって、人気のあるプログラムであることから、夏休み特別期間をとおして実施した。 (音楽ロビー)
〈〃〉Oshiro Band元気ライブ	7.21～8.19 13:15～13:30 (8.13、16のみ)14:45～15:00 16:00～16:30 8.20～9.2 13:15～13:30 16:00～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉みんなであそぼうどれみふあプレミアム	7.21～31 13:30～14:15	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、ダンスとバラエティに富んだ内容で実施。スタッフによる日替わりプログラム。 (音楽ロビー)
〈〃〉めずらし楽器にチャレンジ!	7.21～8.11 14:15～15:00 8.12～19 14:10～15:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 あそんでおどって かがやけ! オリンピック	8.1～11 13:30～14:15	オリンピックイヤーにちなんで、スポーツの動きを多く取り入れたプログラム。幼児の利用が多い音楽ロビーだが、小学生も楽しめるプログラムをめざした。オリジナルの準備運動から始まり、「金銀銅」のメダリストをめざし行進や音当てクイズにも挑戦する。最後は特設ステージにあがり、マラソンやバレーボール、サッカーなどの動きを取り入れたオリジナルのダンスを踊りグランドフィナーレをむかえた。 (音楽ロビー)
〈〃〉 めずらし楽器にチャレンジスペシャル!	8.20～9.2 13:30～14:15 15:00～15:45	1回目は平常期間と同じく、世界の民族楽器を紹介するコンサート。2回目はインドネシアの楽器「バリ島のガムラン」「竹のハンドベル～アンクルン」に絞り、2種類の楽器を日替わりでじっくり体験する形にして変化をもたらした。前年度まで配布していた「オリジナル楽器ガイド」に加え、「オリジナル楽器ガイド～インドネシア編」を作成し、参加者にプレゼントした。 (音楽ロビー)
〈〃〉 みんなでおどろう! BONダンス	8.12～19 13:30～14:10	季節の風物詩を感じる、世代を超えて楽しめるという点がぴったりの盆踊りのプログラム。スタッフによる和太鼓のデモンストレーション演奏、オリジナルの音頭にコント風のブレイクタイム、前年度に続き2年目であることから安定したプログラム運営ができた。 (音楽ロビー)
〈〃〉 みんな to みんな おどろうヨ!	8.13、16 15:00～15:20	夏休み短期講座「Smile Dance Project」の子どもたちがリーダーとなり、一般来館児と一緒に踊るダンスプログラム。声を使ったコール&レスポンスやじゃんけんの動きを使ったリズム遊びなども取り入れ、受講生が主体となって進行。最後はオリジナルテーマ曲『to-be-tate』で踊った。(音楽ロビー)
〈冬休み〉 うたってハッピー	12.24 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30  12.25 11:30～12:00 13:30～14:00  12.26～28 11:30～12:00 14:30～15:00  H25.1.4～7 11:30～12:00	平常期間と同じ。 12.24・25は「うたってハッピークリスマススペシャル」と題して、クリスマスにちなんだ曲を特集した。 (音楽ロビー)
〈〃〉 Oshiro Band 元気ライブ	12.22・23、26～28 13:15～13:30 16:00～16:30  12.24 13:55～14:15 16:00～16:30  H25.1.4～7 14:45～15:00 16:00～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)



うたってファミリー



レッツ・プレイ・サンバ!

名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 うたっておどって ハッピークリスマス	12.22・23 11:30～12:00 13:30～14:00 15:15～15:45	子どもたちがステージに上がって歌い、踊るシリーズのクリスマス版。子どもたちはサンタ帽の飾りをつけ、歌い踊った。クリスマスソングのほか、オリジナルソング『HAPPY MERRY CHRISTMAS』で大フィナーレ。ハロウィーン同様、クリスマスの衣装やグッズを用意し、音楽ロビー全体をクリスマスパーティ会場のように演出した。 (音楽ロビー)
〈〃〉 わいわいスペシャル コンサート	12.24 13:30～14:00 15:30～16:00	毎年おなじみになった「モーモーーずのようこそクリスマス」(牛に扮した2人組が繰り広げるおはなしと遊びのコンサート)。クリスマスとクリスマスソングをモチーフにしたオリジナルのおはなし「まくろくろのクリスマス」を上演した。 (B スタジオ)
〈〃〉 ウキウキ音楽広場 クリスマススペシャル	12.25 14:00～14:30	平常期間に実施している「みんなであそぼうウキウキ音楽広場」の特別版。クリスマス当日であり、手遊び、パネルシアター、ダンスまで全てクリスマスを題材にしたもので構成。 (音楽ロビー)
〈〃〉 トキメキ楽器 クリスマスライブ	12.25 15:00～15:30	平常期間に実施している「トキメキ楽器ミニライブ」の特別版。「ウキウキ音楽広場」と同じく、クリスマスにちなんだ曲で演奏を楽しんでもらうプログラム。マリンバを中心に構成した。 (音楽ロビー)
〈〃〉 ストリートオルガン やってみよう！	12.22・23、26～28、 H25.1.4～7 12:45～13:15 16:30～17:00 12.24 12:30～13:00 16:30～17:00 12.25 12:45～13:15 16:00～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉 めずらし楽器にチャレンジ	12.22・23 14:30～15:10 12.24 14:15～15:55 12.26～28 13:30～14:10 15:00～15:40 H25.1.4～7 14:00～14:40	平常期間と同様、世界の楽器を紹介し、体験してもらうコンサート。12月26～28日はスペシャルで2回実施し、より多くの楽器を紹介した。 (音楽ロビー)
〈〃〉 うたってファミリー	H25.1.4～7 13:15～14:00 15:00～15:45	家族でエントリーし、生バンドの演奏にあわせてステージで歌を披露。1回に8組の家族がエントリー。子ども用のカラフルなマイクに加え、ティアラや帽子、リボンなどの仮装グッズも用意した。185人の親子が熱唱。最後は希望者全員によるステージでのフィナーレで盛り上がった。 (音楽ロビー)
〈春休み〉 春のウキウキ 音楽広場	3.23～31 14:30～15:00	春休みらしく、華やかなサンバのプログラム“1・2・サンバ”や“おおきなかぶ”をモチーフに身体で楽しむプログラムなど、日替わりでさまざまな遊びを実施。 (音楽ロビー)
〈〃〉 あそび横丁 みんなでハジけて ベベンのベン	4.2～7 13:30～14:10	手作りの弦楽器“ベベン”を使った音楽表現遊び。「天井に現れた光の“種”が、芽を出し、茎を伸ばし、最後に花が咲く…」というストーリーにあわせて、子どもたちが自分の“ベベン”を鳴らしたり、ポーズを決めながら、光の種が成長する驚きや喜びを表現し楽しむプログラム。 (音楽ロビー)
〈〃〉 うたってハッピー！	3.23～31、4.2～7 11:30～12:00 15:15～15:45	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉 ストリートオルガン やってみよう！	〃 12:45～13:15 16:30～17:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉 Oshiro Band 元気ライブ	3.23～31 13:30～13:50 16:00～16:30 4.2～7 13:15～13:30 16:00～16:30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈〃〉 めずらし楽器にチャレンジ	3.23～31、4.2～7 14:30～15:00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)

## □□□ 講座・クラブなど □□□

## ■■■ 講座 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
みんなで楽しいリトミック I	(組) 3歳児と親 (20)	(組) ① 12 ② 14 ③ 10	水曜日 14:00～15:00 (全32回)	発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおしてコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養う。受講料=1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 II	4歳児と親 (20)	① 17 ② 16 ③ 16	水曜日 15:00～16:00 (全32回)	I(初級)でつちかった、感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、成長に合わせながら、個性豊かな発達をうながす。受講料=1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 III	5歳児と親 (20)	① 16 ② 14 ③ 13	水曜日 16:00～17:00 (全32回)	就学を控えるころになると、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。ここでは音楽を楽しみながら、次へのステップアップをめざす。受講料=1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
おんがく大好き ミュージック・パーク ～ダウン症児のための 楽しいリトミック I	ダウン症の 2歳6か月 ～6歳児と 親 (10)	① 11 ② 7 ③ 6	木曜日 15:00～16:15 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って、無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざす。また音楽での保護者の心身開放も目的の一つとして活動を行っている。受講料=1期20,000円、2期20,000円、3期18,000円。
〃 II	I修了の小 1～6 (10)	① 22 ② 21 ③ 20	木曜日 16:30～17:45 (全29回)	Iのステップを修了した小学生が対象。活動をとおし、親からの自立、表現能力、運動能力の発達を、音楽を楽しく学びながらうながす。受講料=1期20,000円、2期20,000円、3期18,000円。
和太鼓グループ	小3～高3 (12)	① 12 ② 13 ③ 11	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	湯島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。受講料=1期23,100円、2期25,200円、3期18,900円。
レッツ・プレイ・ サンバ I ～演奏とステップ～	小1～4 (10)	① 6 ② 4 ③ 5	土曜日 13:00～14:00 (全15回)	初級講座は、サンバ楽器を使った演奏と踊り(ステップ)を指導。"サンバ"をとおして、仲間と演奏する楽しさ、音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じてもらう。次年度よりレッツ・プレイ・サンバIIと統合のため本年度で終了。受講料=各期9,500円。
レッツ・プレイ・ サンバ II	小4～高3 (10)	① 9 ② 10 ③ 10	土曜日 15:30～17:00 (全15回)	サンバのリズムを楽しくアンサンブルする「レッツ・プレイ・サンバI」の進級コース。ステップの活動も加え、より幅広い活動に変化した。高度で力強い演奏を展開。受講料=各期10,500円。
合唱講座	小1～4 (30)	① 33 ② 32 ③ 32	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	遊ぶことをとおして、体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動。修了後は、「児童合唱団I、II」へ。受講料=1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
こどもの城 児童合唱団 I	小2～3 (合唱講座 修了者40)	① 49 ② 47 ③ 47	土曜日 15:30～17:30 (全32回)	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく、野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験。総合的にプログラムを展開。受講料=1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 II	小4～中3 (合唱講座 修了者80)	① 120 ② 114 ③ 111	土曜日 17:00～19:00 (全32回)	
混声合唱 ～こどもに聞かせる おとなのコーラス～	高校生以上 (40)	① 97 ② 94 ③ 94	土曜日 19:30～21:00 (全32回)	子どもたちに、豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは高校生から社会人と幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。受講料=1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。

## ■ ■ ■ 講習会 ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんがく星みつけた ～就園前の リトミック～	(組) 2歳児と親 (20)	(組) ① 29 ② 30 ③ 22	木曜日 10:30～11:30 (1・2期10回、 3期9回)	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキンシップをしながら、楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料=1・2期 20,000 円、3期 18,000 円。

## ■ ■ ■ 短期講習会 ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
Smile Dance Project	(人) ①小2～中2 ②小4～中2 (各 15)	(人) ① 15 ② 13	① 8.12・13 ② 8.15・16 10:30～16:00 (2日間コース)	前年度まで「Dance [E] Project」というタイトルで実施。本年度は高学年向けのクラスを設け2コースとした。小2からのクラスはダンス未経験者でも楽しく取り組めるゆったりとした進行。高学年向きは身体機能に合わせ、よりダイナミックな展開となつた。オリジナル曲にヒップホップを基調とした振り付けで、子どもたちが考えた振りも取り入れた。最後に生バンドをバックに練習の成果を披露。前年度に引き続き「みんな to みんな あつまれキッズダンサー」という音楽ロビーのプログラムとして発表。来館児の参加コーナーを設け、受講生が踊りのリーダーになった。このワークショップではダンスをとおして、考えだす力、創る力、コミュニケーションの力を伸ばし、その成果がダンスとなって披露されている。さらに、一般来館児に向けた発表をとおして、自己の開放感や観客に伝わる喜び、達成感を実感し、さらなる表現の原動力に結び付ける、という表現活動のベースを大事に伝えていた。本年度から中学生で必修となったダンスだが、単にダンス技術の向上や体験に留まらない、新しいアプローチの方法を示した。受講料=2,500 円。 (B スタジオほか)

## □□□ その他 □□□

名 称	日 時	内 容
こどもの城児童合唱団 夏季合宿（新潟県）	8.22～26	28回目の合宿は一昨年と同じ新潟県立こども自然王国で行われた。老人ホームの慰問や、地元小・中学校を招待しての交流コンサート。「おかえり」と迎えて下さった自然王国のスタッフと再会を喜び、共同プログラムを実施し、新潟の自然や人ととの出会いを楽しんだ。
こどもたちからの サウンドメッセージ	H25.3.23・24	合唱講座、合唱団Ⅰ・Ⅱ、混声合唱が出演する「Now Let's Sing！」と、おかあさんもいつしょりトミックⅠ・Ⅱ・Ⅲ、おんがく大好きミュージックパーク、合唱講座、合唱団Ⅰ・Ⅱ、混声合唱「みんな音楽家」の2公演。全5回を青山円形劇場で実施。3歳で初舞台を踏んだ子どもたちが大人になり、また小さな子どもたちと一緒に舞台を作り上げる——合唱団28年のあゆみを感じる公演となつた。 (青山円形劇場)



こどもの城児童合唱団 夏期合宿



Smile Dance Project

# 映像科学



## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

組織の改編に伴い、これまでの“AV”から、“映像科学”と名称がかわったことは、開館以来取り組んできた映像やアニメーションを中心としたプログラム展開だけではなく、より科学的な遊びの充実というところに力点を置いたからである。

映像科学部門の事業方針として、①科学遊びプログラムの充実をはかるため、科学遊びの新規プログラム開発に力を入れるとともに、ビデオライブラリーの一角で定期的なプログラムを実施する②オリジナル映像作品『おはなしミルミル』を制作など、乳幼児向けのビデオ教材の充実を図る③ブログやツイッターなどを活用して、プログラムの紹介や映像遊びをとおして健全育成をはかる啓発活動に取り組む——ことを重点において活動した。

### □□□ 事業の概要 □□□

ビデオライブラリーでの科学遊びのプログラムについては、原則として、第1土曜日と翌日曜日は『不思議な映像実験室』、第2・4土曜日と翌日曜日は『みなクル工房』、第3・5土曜日と翌日曜日は『小学生ラボ』を実施。時間帯も13時から16時と同じ設定にし、来館児・者からは「土日には、いつも科学遊びプログラムを実施している」と認識してもらえるように計画した。

### ■■■ フシギトリック・アニメ・ワークショップ 2012 ■■■

映像科学部門ではこれまでアニメーションをテーマにして自分で描いた絵が動いて見えるワークショッププログラムを行ってきた。本年度はこのアニメーションに加え図の形や明暗、色彩の組み合わせで動きを生み出す『錯視』をテーマに取り入れた。

グリットの交点に無いはずの点が明滅して見える図版や明暗の組み合わせで帯が移動して見える図版など、10種類のパネルをA1サイズで作成。錯視現象が色の彩度に依存するものは、Bスタジオの照明が暗いことが影響してあまり効果が感じられないなど改善の余地のある展示となつた。

錯視の体験ができる図版を子どもたちが作成するのは難しくワークショップコーナーは「くるくるアニメ」と「円盤アニメ」を実施。円盤アニメでは参加した子どもたちが作った作品を撮影し、

YouTubeにアップロードした。参加者が自宅で完成品の映像を視聴できるだけでなく、プログラム紹介の際のサンプル映像の蓄積としても役立っている。

### ■■■ みなくる工房 ■■■



炭で電池作り。モーターは動くかな？

加わった担当者が手作り楽器のノウハウを持っていたこともあり、“音の出るがん具”についても開発に努めた。

プログラム実施のスタンスとしては、子どもたちが主体的に考え、人の模倣をして制作することを大切にしたため、受付では材料を渡すだけとし、ここでは何かを教えてくれる人はいないので、用意してあるさまざまな制作段階の見本を真似て作るように伝えた。この点については保護者も含めて理解していただくことができ、子どもたちはそれぞれのペースで奮闘していたように感じた。

### ■■■ 小学生ラボ・不思議な映像実験室 ■■■

本年度から平常期間は「不思議な映像実験室」もビデオライブラリーで実施した。

「不思議な映像実験室」はこれまで実施してきた音楽ロビーやBスタジオに比べて会場が狭くなるため、1期は工作の難易度の低い「ソーマトロープ」を行って子どもたちの様子をみた。参加人数や年齢層、混雑具合、難易度を考慮し、2期以降「ぱたぱたアニメ」「円盤アニメ」と徐々にプログラムの広がりをもたせていった。年齢をとおして対象年齢は設定せず、幼児から参加可能なプログラムを行った。

「小学生ラボ」ではプレイ部門と交代でプログラムを企画し、実施は共同という前年度までのスタイルのまま、実施場所をビデオライブラリーに移動した。映像科学部門では以下の3タイトルを新規プログラムとして実施した。

「サカサコトバにチャレンジ」は“うまがまう”“こたつたこ”など、逆から読んでも同じ音になる言葉。考えた言葉にイラストを付けて、オリジナルのサカサコトバカードを作成して楽しんだ。

「ファシオグラフをつくろう」は大学生の実習プログラムとして、プログラムの立案から実習生とともに作り上げた。絵の一部にチェーンを使い、この部分が“自由に動く線”となって動きのあるイラストを完成させる。

「アスキーアートにチャレンジ」のアスキーアートとは、文字コードのASCIIからとった言葉で、文字や記号を使ってイラストを描く手法。今回は

「みなくる工房」では、“科学”と“居場所”というコンセプトは継続させながら、具体的なプログラムは、前年度実施して参加者の反応がよかつた“簡単な手作り科学がん具”が中心となった。平常期間に新規プログラムを実施し、その中で手ごたえのあったプログラムを、特別期間に「みなくる工房SP(スペシャル)」として実施した。

自分で操作して遊ぶことができるような“からくりがん具”は子どもたちの反応も良く、科学的な要素も伝えやすいため、多くの新規プログラムを開発した。新たに



夏休みこども映像研究室「プラクシノスコープ」

そのごく手軽な楽しみ方として、顔文字作りを楽しんだ。小学校 1 年生が多く参加するこのプログラムでパソコンのキーボード操作を行うのは難しいため、文字や記号の印刷されたカードを並べて顔文字作りを行った。大量に山積みされたカードからお目当てのカードを探していくという遊びは、カルタなどにも通じるところがあり楽しめたようである。

### ■■■ オリジナル映像作品『おはなしミルミル』 ■■■

スタッフが創作した童話を映像化した。平成 23 年秋に『おなかのむしは 7 にんかぞく』、平成 24 年春に『あっちゃんせんせい』、同年初夏に『たんこぶちゃん』の計 3 タイトルのシリーズを完成させた。

短い童話に 20 ~ 100 枚程度のイラストを用意し、静止画像を基本に若干のビデオエフェクトを加えて映像化する。音楽課のスタッフに依頼してオリジナルの音楽をつけ、スタッフによる語りを録音し映像作品として完成させた。1 タイトル 6 分前後の短編作品であり、平日に増える乳幼児向けのビデオタイトルとして適当な長さである。

【子どもの城】のビデオライブラリーで購入するレンタル用・図書館用のビデオタイトルは、ビデオライブラリー内のみでの利用といった使用条件を伴うソフトが多い。上映会で紹介することに制限のあるソフトがほとんどで、プロ

グラムの中でアレンジを加えるなどの行為は権利上難しい。【子どもの城】内外で自由に上映でき、音声を消して語りをライブで行うなど、改編を自由に行うことができるオリジナルのソフトを作り、ビデオ作品を使ったプログラムに広がりを持たせることが主な制作の動機である。

実際に秋に行われた「赤ちゃん大集合」では『たんこぶちゃん』の音声を消して映像のみを上映し、音楽と語りをライブで加える催しを行い好評であった。



映像・ピアノの生演奏にあわせて童話の読み語り

### ■■■ 子どもの城映像科学ブログ ■■■

映像科学部門では開館以来、視覚がん具をテーマにワークショップを展開してきた。25 年以上に渡って活動を続け、〈動く子どもの城〉などの派遣事業では、視覚がん具を紹介するプログラムは常に“新鮮な印象”で受け入れられてきた。しかし視覚がん具を扱ったプログラムの普及という意味では、大きな成果を出していないのではないかという疑問も感じていた。そこで【子どもの城】の〈映像遊び〉のプログラムを紹介することを目的としたブログを開設した。

これまでオリジナルの冊子や〈動く子どもの城〉のテキスト、「子どもの城事例集」の出版などでプログラムを紹介してきた。しかし印刷媒体は“動き”を扱う〈映像遊び〉の紹介には必ずしも適さない。これに対してインターネットでは動画や音声を付けてページを構成することが可能である。特に完成品の動画を紹介できるので内容を伝えやすく、〈映像遊び〉のプログラムを紹介するのに最適なメディアの一つといえる。

ブログでは大きく 3 パターンのページ作りをしている。プログラムの型紙紹介や作り方の図説・写真を豊富に掲載したページ。新規プログラムを開発過程から紹介し、スタッフの試行錯誤も含めて紹介するページ。プログラムを実施した結果の報告として参加者の作品紹介を行うページの 3 つである。

【子どもの城】の〈映像遊び〉のプログラムを各地の児童館などで活用できるように、動画などを使って分かりやすく紹介すること、そしてブログをとおして〈映像遊び〉の楽しさを多くの人に伝え来館を促進すること——ブログには 2 つのねらいが込められている。今後も〈映像遊び〉の魅力が伝わるブログ作りを工夫していきたい。

## □□□まとめ□□□

これまで B スタジオ、プレイホール、音楽ロビーなど、さまざまな場所で実施してきたプログラムを、土・日曜日のビデオライブラリーで実施する形にしたことは、そのスペースがあまり広くないこともあり、若干の懸念もあった。しかし、結果的には、プレイホールなどと異なり、目的意識の高い子どもたちが参加するようになったことや、次第に、土・日曜日のビデオライブラリーでは科学遊びプログラムを実施していることが来館児・者に定着するようになり、想像以上の成果が上がったと考えられる。ビデオライブラリーは混雑していく中でも、そのスペースだけが満員状態になることもあった。「みなクリ工房」や「小学生ラボ」の人気プログラムでは、かなりの待ち時間をしてしまったこともあります、場所が狭いだけに参加者のコントロールは難しく課題として残ったままである。

ブログなどを使った情報発信については、それが直接的に来館児・者の増加につながったかについては、判断材料が少なく結論は出せていないが、経費をできるだけかけずに、これまで開発してきたプログラムの成果などを広く情報発信ができたという面では成果があったと考えている。ただし、このブログと「子どもの城」のホームページや Facebook との連携については課題が残っており、大きな成果をあげるために改善をはかる必要がある。また、本年度は 2 人の担当者でブログを担当したが、より多くの人数で分担するためには、ブログの投稿に関する内部規定なども設けていくことが必要だと考えられる。

# 平成24年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□
■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
ビデオライブラリー 自由利用	開館時間中	幅広いジャンルのビデオソフト 22,000 タイトル以上を所蔵するビデオの図書館。 (ビデオライブラリー)
親子の ZOOっと広場	火～金曜日 12:30～17:00 (金曜日～16:30)	ビデオライブラリーの一角に設置した、乳幼児と保護者のための小さな広場。木のおもちゃやぬいぐるみなどを置いている。 (ビデオライブラリー)
不思議な映像実験室	第1土曜と翌日曜日 13:00～16:00	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ（視覚がん具）の展示とワークショップ。本年度より実施場所をビデオライブラリーに移した。4～7月=ソーマトロープ、10月=ぱたぱたアニメ、12月=くるくるアニメ、H25年2・3月=驚き盤ミニ。 (ビデオライブラリー)
みなクル工房	第2・4土曜と翌日曜日 13:00～16:00	科学的な要素がある手作りおもちゃを中心にプログラムを実施。“音の出るがん具”、動きのある“からくりがん具”などの制作をとおして、科学的な原理に関心を持ってもらうためのプログラム。平常期間は新規プログラムの開発に重点を置き、その中で子どもたちの反応がよかつたものについて特別期間に実施した。詳細別表。 (ビデオライブラリー)
小学生ラボ	第3・5土曜と翌日曜日 13:00～16:00	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。詳細別表。 (ビデオライブラリー)
こどもの城映画劇場 カナダのアニメーション	隔月1回 第2日曜日 13:35、15:35	フィルム・コレクション「武藤行雄記念文庫」収藏の、NFBC（カナダ国立映画制作庁）のアニメーション作品2.3タイトルで1プログラムを組み上映。 (Bスタジオ)
逆転時間 ワークショップ	1.11 ①10:00～12:00 ②13:00～15:00	青山学院大学のワークショップデザイナー養成講座との協力企画で。デジタルカメラで撮影した動画を逆再生することで、通常とは異なる不思議な映像作品を作るワークショップを実施した。 (会議室ほか)
小学生ラボスペシャル	6.16・17 2.9～11	こどもの城小学生プログラム特集「集まれ！小学生」の一環として実施。詳細別表。 (ビデオライブラリー)
小学生ラボスペシャル 「TOYOTA 科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー」	12.2 13:00～15:00	トヨタ自動車(株)の社会貢献活動「科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー」シリーズから「衝突安全ボディー」を実施。事前募集、定員30人。参加者22人。参加費無料、要割引(100円)入館券。 (フリーホール・Bスタジオ)

■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈春休み〉 おもしろビデオ館スペシャル「すてきなおはなしの世界」	4.1～4 11:35、13:35 14:35、15:35 ※4.1の11:35,4.4の15:35はお休み	オリジナル作品『おはなしミルミル』シリーズから『おなかのむしは7にんかぞく』『あっちゃんせんせい』ビデオライブラリーの上映可能作品から『うえへまいりあります』『ちびくろ・さんば』『さみしがりやのクニット』『ねずみあなたのネコの物語』を上映。1～2作品で4プログラムを構成した。 (Bスタジオ)
みなクル工房 SP	児童福祉週間、夏休み、春休み	平常期間に実施したプログラムの中から、子どもたちに好評にだったプログラムをセレクトし、「みなクル工房 SP (スペシャル)」として実施した。詳細別表。 (ビデオライブラリー)
〈児童福祉週間〉 アニメフェスタ 2012	5.3～6 11:00～17:00	切り紙やビーズを使ったアニメの撮影体験コーナーや、「円盤アニメ」制作コーナーで、アニメーション制作を体験する企画。絵を描く一般的なアニメーションの制作体験から、「アートアニメ」といわれる作品で使われる技法など幅広く紹介。 (Bスタジオ)
〈夏休み〉 フシギトリック・アニメ・ワークショップ	7.26～8.3 11:00～17:00 ※8.3は16:00まで	“錯視”的世界とアニメーションをテーマにした展示・ワークショップ。模様が作り出す動き、円盤に描いた絵が動いて見える「驚き盤」、幼児から参加できる「くるくるくるアニメ」を実施。 (Bスタジオ)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 おもしろビデオ館スペシャル	8.6～9 11:35、13:35、15:35	『ショーンの冒険』(イギリス)、『マーネとフロリアン』(ノルウェー)など世界各国の優れた短編アニメーションを上映。協力：20th キンダー・フィルム・フェスティバル実行委員会 (B スタジオ)
〈 〃 〉 小学生ラボ 夏休みスペシャル	8.28～31 13:00～16:00	小学生以上を対象とした、映像や科学をテーマにしたプログラム。詳細別表。 (B スタジオ)
〈ファミリーフェア〉 なかよし映像広場	11.7 11:30～12:00	赤ちゃん大集合のスペシャルプログラム。オリジナル絵本『たんこぶちゃん』をピアノなどの生演奏にのせて読み語った。 (B スタジオ)
〈冬休み〉 不思議な映像実験室 絵が動いてみえるおもちゃの展示とワークショップ	H25.1.4～7 11:00～17:00 ※1.7は16:00まで ※ワークショップは13:30～15:30	絵が動いて見える仕組みを体験できる、映像おもちゃの展示とくるくるアニメのワークショップ。「くるくるアニメ」のワークショップでは七福神のイラストが入った用紙を用意した。また、13時30分～15時30分の受付で自分で描いた絵がテレビに映る「ぱたぱたアニメ」のワークショップも実施。 (B スタジオ)
館内テレビ自主放送 お城 TV	各特別期間 開館時間中	特別期間の催し案内を中心に各部を取材して番組を作成。館内のテレビに放送を行った。必要に応じて、平常期間にも番組を作成・放送。2012年春の催し案内から、インターネットの動画投稿サイトYoutubeへのアップロードも「OshiroTV2」というチャンネル名で開始した。 (映像調整室／マスター controール室)

## □□□ 講座・クラブなど □□□

## ■■■ 短期講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み こ ど も 映 像 研 究 室	手作り幻灯プロジェクター (人) 小1～高3 (各回6)	(人) 計 36	7.26～28 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	専用の映写フィルムに、自分で絵を描いて投影する映写機を、ルーペやLEDライトなどの日用品を使って作る。受講料＝2,000円。 (B スタジオ)
	手作りおもちゃ ヘリオシネグラフ (各回10)	計 22	7.30 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	スリットのあいた円盤ごしに動画の描かれた円盤をのぞくと、絵が動いてみえる視覚がん具を作成。動画を描くのが苦手な人向けに、塗り絵用紙も多数用意。受講料＝2,200円。 (B スタジオ)
	手作りおもちゃ プラクシノスコープ (各回10)	計 40	8.1・2 ① 13:00～15:00 ② 15:30～17:30	映画が発明される前にあった視覚がん具のプラクシノスコープを作成。帯状の紙に動画を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵を動かしてみる。受講料＝2,600円。 (B スタジオ)
	子どものオリジナル アニメーション キットを作ろう	計 22	8.3 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	売店で販売している「つくるキット」を組み立てる講座。工作が苦手な子どもも「つくるキット」を楽しめるよう、組み立ての難易度が高い「ソートローブ」を中心に工作指導。受講料＝2,100円。 (B スタジオ)

## □□□ その他 □□□

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	体育部門の「母と子のすくすくランド」(Part1～3)など、講座の内容をソフト化して参加者に販売。
館外活動の記録	冬休み、春休みの各特別期間	【こどもの城】の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。体育部門「チャレンジキャンプ 2012」「スキースクール」(Part1～1期、同一2期およびPart2)。上記作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	本年度の収録は、すべてワイド画面に対応するため、HDVのカメラを劇場内に3台設置して収録した。劇場公演は、平成25年1月5・6日の青山円形劇場『シークシークシンキング』、3月23・24日『こどもたちからのサウンドメッセージ』の公演を収録、編集した。

## □□□ プログラム一覧 □□□

## ■■■ 小学生ラボ ■■■

13:00~16:00 / ビデオライブラリー

名 称	日 時	内 容
物体浮遊術? ふき玉の科学	4.21・22	息の力で玉が空中に浮く不思議ながん具「ふき玉」の工作。 (担当: プレイ)
4コマスライド劇場	5.19	スライド映写でオリジナルの4コマまんが作りを行う。 (担当: 映像科学)
集まれ小学生!スペシャル 「不思議な動きのや じろべえ」	6.16・17	不思議な動きのバランスおもちゃ「やじろべえ」の工作。父の日スペシャルとして父子の体重比のバランスをとるやじろべえの工作も実施。 (担当: プレイ)
ゾートロープを作ろう	6.30	視覚がん具「ゾートロープ」の工作。 (担当: 映像科学)
小学生ラボ夏休みスペシャル ピンホールカメラを つくろう	8.28	紙工作でズーム式ピンホールカメラを工作。 (担当: 映像科学)
小学生ラボ夏休みスペシャル 海の生き物 チリメンモンスター	8.29	「ちりめんじゃこ」に混ざっている、さまざまな生き物を探して観察した。 (担当: プレイ)
小学生ラボ夏休みスペシャル 計算尺をつくろう	8.30	対数の原理を利用して、かけ算、わり算を行う計算器を工作。 (担当: 映像科学)
小学生ラボ夏休みスペシャル 浮沈しをつくろう	8.31	ビンにかける圧力を変化させると中の「浮沈し」が浮き沈みする科学がん具の工作。 (担当: プレイ)
日光写真にチャレンジ	9.15~17	光があたるところと、あたらないところで色がかわる感光紙で、日光写真を制作。 (担当: 映像科学)
サカサコトバにチャレンジ	9.29・30	「うまがまう」「くるまがまるく」普通に読んでも逆から読んでも同じ読みになるコトバをつくった。 (担当: 映像科学)
縄をなう	10.20・21	スズランテープを手でなってカラフルな「縄」作りを体験。 (担当: プレイ)
ファシオグラフをつ くろう	11.17・18	絵の一部分が自由に動く不思議なカード「ファシオグラフ」を工作。 (担当: 映像科学)
ポップアップカード をつくろう	12.15・16	開くと中に折りたたんだオブジェが飛び出すポップアップカードの工作。 (担当: プレイ)
あったかいぞ! カイロをつくろう	H25.1.26・27	自分で材料を配合して「使い捨てカイロ」を制作。温度を計測するなどの実験コーナーも設置。 (担当: プレイ)
集まれ小学生! 小学生ラボスペシャル	2.9~11	「アスキーアートにチャレンジ!」(文字や記号を組み合わせてイラストを描く)と「ミニミニ凧をつくろう」(薄くて軽い油取り紙で7×8cmのよくあがるミニ凧を作る)を1日1回ずつ実施。 (担当: 映像科学)
ぱらぱらマンガをつ くろう!	3.16・17	「フリップブック」とも呼ばれる視覚がん具、ぱらぱらマンガ作りを実施。 (担当: 映像科学)

## ■■■ みなくる工房 ■■■

13:00~16:00 / ビデオライブラリー

名 称	日 時	内 容
イルカのサーカス	4.14・15、H25.3.27・28	わりばしを動かすとイルカが回転する伝承遊具をモチーフにした遊具作り。
エイムズの部屋	5.12・13	窓から部屋の中をのぞくと、遠近感の関係で大きさを錯覚してしまう模型。
ギロギロカエル	5.26・27	フィルムケースキャップの周りのギザギザを、プラスチック片でこすると蛙の鳴き声のような音を出すがん具。
とり+かえっこ屋	6.9・10、H25.2.16・17	使わなくなったがん具の交換を基本とし、子どもたちが役割を持って楽しむ。
鳥笛	6.23・24	厚紙を利用したスライドホイッスル。
がんばれ！ニッポン	7.14・15	カプセルトイのカプセルを利用したからくりがん具。紐を引っ張ると軸が回転し、ハンマー投げの人形が回る。
からくり玉2	9.8・9	カプセルトイのカプセルを利用したからくりがん具。クランクの仕組みを利用して、ハンドルを回すと熊が手を上下に動かす。
がんばれ！ニッポン2	9.22・23	朱雀をモチーフにした音の出るからくりがん具。紐を引くと羽をはたかせるのと同時にパチンと音ができる。
べっこう飴づくり	10.8・13・14	ホットプレートを使ってべっこう飴作り。ジャック・オー・ランタンのラッピングも。
ジャック・オー・ランタン	10.27・28	正20面体を展開図から組み立て、ジャック・オー・ランタンの小物入れ作り。
からくり百面相	11.10・11	回転板を利用してさまざまな表情の組み合わせができるがん具。父親プログラムとして実施。
パタパタ紙相撲	11.24・25	磁石シートの磁性を利用してぱたぱたと動く、土俵と紙相撲の力士作り。父親プログラムとして実施。
シャンシャンサンタ	12.8・9	2種類のストローを利用して、動きの方向が変えられるからくりがん具。
からくりサンタ	12.22～24	サンタの糸操り人形。
くるっレンダー	H25.1.12・13	カライトサイクルの仕組みを利用してカレンダー。
かさ袋口ケット	2.23・24	傘袋に空気を入れて膨らませ、フィンをつけて飛ばす口ケット。
からくり屏風	3.9・10	ぱたん、ぱたんと動かしていくことで絵柄が変わる不思議な屏風。

## ■■■ みなくる工房スペシャル ■■■

ビデオライブラリー

名 称	日 時	内 容
からくりカード	5.3～5	鯉のぼりをモチーフとしたポップアップカード。
プラレールタワー	7.21～24	決められたスペースに、プラレールの線路を立体につないで走らせる。
幽霊笛	7.26・27	鳥笛の変形。から傘お化けをモチーフにしたスライドホイッスル。
光る泥だんご	8.3・4	土を丸めて1日乾燥させた物を、磨いて光らせる。
からくり玉	8.10・11、H25.3.25・26	カプセルトイのカプセルを使いクランクの仕組みを利用したからくりがん具。
炭電池を作ろう	8.17・18	備長炭、クッキングシート、アルミホイル、食塩水で電池を作る。
パタパタバタフライ	8.24・25	磁石シートの磁性を利用してパタパタ動く蝶々のからくりがん具。
お父さんとプラレールタワー	9.2	決められたスペースにプラレールの線路を立体につないで走らせる。父親と子で参加。
子ども駄菓子屋	H25.1.4～7	子どもたちが店員になって働く駄菓子屋さん。
水笛	3.23・24	たれびんとストローを使った水笛。

# 保育



## 平成24年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

保育研究開発部門は認可外保育所として、家庭で育児をする家族と短時間就労家庭の子育て支援プログラムを実施している。保育事業、一般来館児・者事業、研修事業の3つの事業を密接に連動させて、効果的な事業展開ができるようにつとめ、一般来館児・者事業や研修事業は、保育事業で培った内容を企画に生かして実施した。

今、社会では保育の質と量の向上に向けた整備が急速に進んでいる。保育の質を高めるためには、子どもたち一人ひとりの育ちに確実に対応できるきめ細かさが大切となる。また、いろいろな分野の指導者がかかわることで、保育の質を豊かにすることができる。本年度は、保育の質を一層高めるために、〔子どもの城〕活動エリアの各部門と連携したプログラム展開に力を入れた。〔子どもの城〕全体で保育にかかわることで、子どもたち一人ひとりの個性を豊かにし、バランスのよい育ちができるよう保育活動を展開した。すなわち、きめ細かで複眼的な視点を持つ保育に力を入れた。

1歳児家族を対象とした講座「おやこクラブ」では、子育てに本格的に加わりはじめるころの父親を応援するプログラムを強化し、親子で楽しめるプログラムの充実に努めた。研修事業では、保育事業で行ったプログラムを組み込んだ実践的な研修を実施した。

### □□□ 事業の概要 □□□

#### ■■■ 保育事業（おやこクラブ） ■■■

「おやこクラブ」は、1歳児家族にむけた子育て支援プログラム。数年前までは母親が主体であった乳幼児の子育て支援プログラムに、父親が参加する姿が増え、父親も参加できる家族向け子育て支援プログラムが望まれるようになった。開講日が土曜日ということもあり、平日就労している保護者が子どもと過ごす時間として参加するケースが急増している。

1期が3か月間・全10回のプログラム（年3期）ではあるが、父親や就労している母親の参加も増えてきている。本年度は、各回平均18組の内5組の父親が常時参加していた。子育てに参加する父親の意欲は、年々高まってきていくようだ。「おやこクラブ」では、母親はもとより、父親が気軽に参加できて、自分の子どもとコミュニケーションをはかると同時に、参加しているほかの

親子との交流が深められるようなプログラム作りに力を入れている。

「おやこクラブ」は、子どもと父親か母親のどちらか一人がペアで参加する形をしている。父親の参加が増えることで、父親も遊び込めるダイナミックなものになった。砂場遊びでは、父親たちが大きな山を作り、頂上から水を流して川を作った。子どもたちはその砂山に登ったり、崩れていく醍醐味を味わった。母親も、公園では使えない水を使った砂場遊びを親子で楽しんでいた。

季節を楽しむ「七夕飾り」「クリスマス・リース」「おひな様」のプログラムでは、行事の由来を伝えた上で、1歳児の子どもができる飾り作りを行った。親も、子どものころの思い出話や歌、行事にちなんだ「おやこゲーム」を楽しんだ。

参加した父親に感想を聞いてみると、「子どもと2人で過ごせる時間が作れてよかったです」「同年齢のほかの子どもがどのように遊んでいるか見ることができ興味深かったです」「集団のなかで見せる子どもの姿に、家とは違う一面を見ることができました」「教えてもらった歌や手遊びを家でも楽しんでいます」という声が返ってきた。

父親にとっては、親子で集団遊びを経験し、集団の中での子どもの姿や成長を見る貴重な機会になっている。このことは子育ての新しい感動になったようだ。母親も「父親が子どもと遊ぶ機会を増やすことができ、客観的に子どもの成長を感じることができた」と話している。父親も母親も、それぞれに新鮮な子育て観を持ち帰ることができ、夫婦で子育てを考えるきっかけになったようだ。

### ■■■ 保育事業（保育クラブ） ■■■

「保育クラブ」の事業は例年どおりの形態で実施した。会員数は367人。会員制の保育プログラム（週1～2回の定期利用保育、フリー利用保育など）を行っている。

2歳児の定期利用保育は、週1回（1日16人枠・月～金曜日）。利用目的は、幼児教育（3年保育）前に集団遊びの導入として過ごしたいという理由が多かった。保育を行うにあたり、個々の生活リズムを把握するため、朝の受け入れ時に一組ずつあいさつをしながら、今日および一週間の子どもの様子や変化、保護者の悩みなどをていねいに聞き取ることに力を入れた。個々の生活習慣の自立や達成度については、保育終了後に複数の保育者で話し合い、一人ひとりについて振り返りをした。発達面で気になるケースは、部内で検討したのち、個人面談や臨床心理士へ相談するなど、個別対応を実施した。その結果、2歳児から生活リズムを意識した生活を送る家庭が増え、体調管理も集団生活に適するようになってきた。

3～5歳児の定期利用保育は、週1～2回（1日15人枠・火～金曜日）。主に3歳児が利用している。2歳児定期利用保育から引き続いて利用する子どもが約半数で、そこに新規登録の3歳児が加わった。保育者がとらえた個々の育ちのアドバイスをていねいに行い、母親の子育ての悩みに寄

り添って一緒に解決の糸口を見つけることで、子どもと保護者の安定や満足を得ることができた。

フリー利用保育では、本年度は次のような特徴がみられた。2歳児の定期利用保育では、集団の中での育ちを強く求める傾向があるが、フリー利用保育では母親の都合による利用が多かった。子どもと子どもの預け先の人間関係ができていない場所でも、一時的に預けることを心配する傾向が年々みられなくなっている。背景には、低年齢児の習い事や預け先が増え、母親も子どもも初めての場所に抵抗が少なくなつて



朝の受け入れの様子（保育クラブ2歳児）

いるように感じられた。子どもの育ちの面から考えると、幼児期は家庭外であっても固定した場所や時間、人間関係の中で育つほうが、安定した行動・情緒が身について育つのではないだろうか。

3～5歳児のフリー利用保育の大きな特徴として、日常保育はインターナショナルスクールに通う子どもが、夏休みなどの特別期間に利用したり、海外で生活をしている家族が長期休みに帰国して、子どもの日本語教育と日本の保育に触れるために利用するケースが例年になく多かったことがあげられる。個別に細かく保育の様子を伝え、養護面をフォローして対応した。また、日常母親が就労している家庭が、幼稚園に通園している子どもの、長期休み期間中の保育として利用するケースも多かつた。

給食は、個人の体格にあわせて食べる量を意識しながら進めた成果もあり、個人差はあるものの食事の全体量は上がっていった。定期利用保育のアレルギー児の保護者には、医師による診断書などを提出してもらったうえ、利用開始時に管理栄養士と面談を行い、アレルギー該当食品について詳しく把握するようにした。誤ってアレルギー食材を提供しないように注意すると同時に、誤食に配慮して該当食材を使用している日は、弁当を持参してもらった。

定期利用保育とフリー利用保育とで、それぞれの利用形態は違うが、一人ひとりの育ちにあわせて、スタッフ全体で家庭と協力して子どもたちの育ちを支えた。

### ■■■ 保育事業（幼児グループ） ■■■

「幼児グループ」は、4・5歳児の子どもたちで構成し、週4日（火～金曜日）2年間の保育を行っている、17人の小集団である。本年度は、保育と造形部門がそれぞれの専門性を生かして共同プログラムを実施したことが、大きな特徴となった。「幼児グループ」の子どもたちには、「個人でじっくり取り組むこと」「集団として協力して取り組むこと」「知識と実験の相互作用」を念頭に、その年度の子どもたちの特徴や興味・関心に合わせたテーマを設けて保育事業を行っている。

1期は、「木をつくろう」「根っこをつくろう」のテーマで、体験的に遊ぶプログラムを造形部門との協力のもとで実施した。事前の打ち合わせでは、日ごろの保育の様子や個々の子どもの特徴などを造形のスタッフに伝え、プログラムの内容や実施の時期について相談した。プログラム実施中には、造形と保育のスタッフがそれぞれの専門的な立場から子どもの様子を読み取り、事後の振り返りではそれを伝えあい、よりよい活動にするために改善点などを明確にした。プログラムに参加した保育者は、造形活動は“作品作り”だけではなく、“遊んで体感する”という活動でもあることを改めて学んだ。

プログラム実施後には、“遊んで体感する”ことを保育室での造形活動に生かしていく。本物との出会い、自分らしさをのびのびと表現すること、友だちと話し合いながら協力すること、発達段階に応じた道具の使い方やさまざまな素材を使うことなども盛り込んでいった。

毎週水曜日には、体育部門のスタッフの指導のもと、プール活動を実施した。保育と体育の2つの専門性から子どもたちを見ていくことで、多面的に子どもの個性を知ることができ、身体発達や運動面について幅広くみることができた。プール活動のほか、6月は基本的な身のこなしを活用する運動遊びを楽しみ、10月にはボールを使った遊びを実施した。一人ひとりの子どもの陸上での運動でも、専門的視点をまじえながら子どもの成長をみていくことができた。

年2回の集団健康診断は、[こどもの城] の小児保健クリニックで実施している。そこでは、成長・発達にかんする悩みごとを相談することもできる。同じ施設内にクリニックがあるので、保育者や保護者の目からだけではなく、専門的な立場からの見解も得られることは、就学前の2年間を過ぐす子どもたちにとって、大変重要であった。

本年度は、保育事業の核となる「幼児グループ」の子どもたちが、各部門の専門性を生かした活動で、多面的な視点を持つ保育を効果的に行うことができた。



造形活動「木には虫が住んでるよ」（幼児グループ）

## ■■■ 研修事業 ■■■

研修会は、前年度からすぐに実践に役立つプログラムを提供する研修会へと変更した。前年度はキャンセル待ちがでるほど好評だったので、本年度も引き続き同じテーマでメニューを変えて実施した。

### 【保育室で遊べる あそびのメニュー 2】

「幼児グループ」が本年度から造形部門と共同で実施した保育プログラムを、保育所・幼稚園・児童館などで生かせるように整理して伝える研修会とした。午前は、造形的視点から実際のプログラムの意図・方法について造形部門のスタッフが紹介。保育部門のスタッフからは、造形部門との共同プログラム「木をつくろう」「根っこつくろう」の前後に、保育活動の中で行った動機付けや発展・展開の様子を報告した。

午後は、造形スタッフの指導のもと、【子どもの城】で行っている、イタリアのアーティストであるブルーノ・ムナーリの子ども向けワークショップのプログラムから、保育現場で展開できるものを選択して実習した。造形活動の担当や造形活動に興味を持っている参加者が多かったようで、「同じ異年齢保育を行っているので、造形を保育活動につなげるコツを参考にしたい」などの感想が寄せられた。

### 【親子で遊べる あそびのメニュー 2】

好評であったので、組み立ては前年度同様とした。午前は NHK テレビ『おかあさんといっしょ』で振付を担当している宮田雅代さんのワークショップ。参加者が子どもの立場になって経験してみることを中心に、どんな場面で活用できるかを考えた。番組撮影の場面での子どもの様子やこぼれ話などもあった。

午後は、保育事業の一つである「保育クラブ」の親子遠足や懇談会の際に大切にしている、“家族同士をつなぐ” “親子のきずなを深める”ための手法や遊びを紹介した。参加者は保護者役になって、その立場を体験。同時にスタッフが演じるスタッフ役を観察しながら、自分の職場での立場を重ねあわせて学んでもらう方法でワークショップを実施した。

参加者からは、「家族をつなぐための遊びを知ることができてよかったです」「まったく知らない人と仲良くなる流れが体験できて、保護者の気持ちがよくわかった」「スタッフの声かけ、司会など参考になった」と、遊びのプログラムだけでなく、プログラムを進行するときのコツなども伝わったようだ。

## □□□ まとめ □□□

次世代を育てる“保育”は、保育士が、子どもの健康な育ちを俯瞰する力と、大局的観点で子どもを見る力を身につけること。そして、子どもが心身共に健康でバランスよく育つようになるために、多くの専門分野の人材がかかわりながら育っていく——このような保育が日常化することが、保育人数の受け皿拡充にあわせて、どの保育施設でも実現することが大切を感じている。

したがって今現在の保育の質を高めるためには、子どもの育ちを見通す力を持つ保育者を育てることが次の課題といえる。

# 平成24年度活動一覧表

一般利用

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
親子遠足	5.13 10.28	「保育クラブ」2～5歳児の家族プログラム。家族同士の交流をはかることがねらい。春は代々木公園で、家族、会員同士で、ウォーミングアップの「どうぶつ体操1・2・3」、6チームに分かれてのゲーム対抗戦「玉作り競争」「追いかけ玉入れ」「先生を探せ！ビンゴゲーム」を楽しんだ。68組・216人が参加。 秋は、代々木公園で実施予定であったが、雨天のため中止した。
保育活動展	H25.2.1～17	テーマは「子どももようパート10」。「幼児グループ」を中心に「保育クラブ」の2～5歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、個人制作、写真などで紹介した。本年度の「幼児グループ」は「等身大の自分」「木をつくろう」「葉っぱのランプシェード」、3歳児は「どんぐりの木・どんぐりマラカス」、「保育クラブ」2歳児は「みんなのさつま芋」「野菜のぼうし」をテーマにした活動を展示。毎年恒例となっている入口看板の飾りは本年度も家族で制作した三つ編みを飾った。子育て川柳も引き続き展示し、祖父母の作品も展示した。(ギャラリー)
よちよちクラブ	6.23、7.21、10.22、 12.22、H25.1.26、2.23 (土曜日) 11:00～12:00 13:30～14:30	一般来館の1・2歳の親子のための子育て支援プログラム。年間6回。保護者73人、子ども58人が参加。家族、母親の友だち同士、父親と子どもの参加といろいろな組み合わせの参加だった。我が子だけではなく、他児ともかかわる場となっている。予約制だが、当日参加も可。(保育室1)
保育室の一般開放	土・日曜日、祝日 10:00～17:00	1・2歳のためのおもちゃや絵本を用意して、【子どもの城】に来館する低年齢児親子が遊べる場。子どもの城ボランティアが定期的に絵本の読み語りを行っている。(保育室2)

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房「マジカルフェイス」	8.18・19 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	遊びのなかから、親子で生活技術を身につけることを目的に企画。パクパク人形の折り紙技術を使い、雑誌の切抜きをはりあわせて、自由な制作物に仕上げる活動。親子で時間をかけて作っていた。2日間で保護者64人、子ども70人が参加。(保育室1)
〈〃〉 小中高生 保育体験プログラム	7.19～8.31 10:00～14:00 14:00～16:00	「幼児グループ」修了児の小学5年生～高校3年生に声をかけ、夏休み特別期間の保育中に幼児とふれあう機会を提供した。幼児の表情や言葉、行動から相手の気持ちを読み取ることや、自分の子どもころのことを思い出し、子どもたちの見本となるように自覚を促すなどの配慮をしながら保育体験をした。参加者は23人、延べ人数は50人。(保育室1・2ほか)
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	【子どもの城】に来館する1～2歳の親子が、おもちゃなどで自由に遊べる場の提供。(保育室2)

## □□□ 講座・クラブなど □□□

## ■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
<b>幼児グループ</b>	(人) 4歳児 (13) 5歳児 (13)	(人) 6 11	火～金曜日 10:00～14:00	【子どもの城】を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部との連携プログラムも行う。本年度は、造形部門との共同プログラムで、身近な自然へと気持ちを向けての制作活動。保育活動展がその発表の場になった。「保育クラブ」に連動している。保育料41,000円、給食費4,800円(いずれも月額)。延長保育料は別途。
<b>保育クラブ</b>	2～5歳児 (定員460人／登録数約367人)	4～7 9～12 6 4 (1日あたりの保育枠)	月～金曜日(2歳児) 10:00～13:00 10:00～14:00 火～金曜日(3～5歳児) 10:00～14:00 10:00～16:00	登録をして使う会員制の保育。登録数は367人。会員サービスには次の3つがある。保育プログラムは、①異年齢児混合保育(2歳児・3～5歳児)：2歳児保育は定期保育(週1回利用)とフリー利用保育。3～5歳児保育は定期保育(週1または2回利用)とフリー利用保育、その他に延長保育を実施。②チーム保育(各保育者の持ち味を生かす)③保育ボランティア(小5～社会人)の参加——などの特徴がある。家族プログラムは「親子遠足(春・秋)」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信(おやとこ)」年4回発行、小児保健部と連携しての「健康診断(春)」など。ほかに、登録期間中は会員証で【子どもの城】の入館もできる。 入会金15,000円、年会費5,000円。保育料、2歳児1,350円(1時間)、3歳児以上1,000円(1時間)。給食代600円、おやつ代200円(1回)。

## ■■■ 講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
<b>おやこクラブ①</b>	(組) 1歳児親子	(組) 18	土曜日 10:00～12:00	さまざまな親子遊びをとおして、子育ての楽しさを体験するプログラム。小児保健部と連携し、心理・発達、子どもの食事についてのアドバイスも行った。両親どちらかが参加する。受講料27,000円。
〃 ②	(各期18)	17		
〃 ③		9	(全10回)	

## ■■■ 指導者向け講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
<b>保育室で使えるあそびのメニュー2(実技1)～楽しくあそべる造形のアイデア～</b>	(人) 保育所・子育て支援センター・児童館の保育士など (50)	(人) 31	8.27 10:00～17:00	【子どもの城】では、造形活動をとおして子どもの自発性を喚起できるように、環境を整え、積極的に制作に取り組めるように指導している。映像をmajieて実際の活動を説明後、身近な素材を使ったプログラムを中心に紹介。受講料7,000円。
<b>親子で遊べるあそびのメニュー2(実技2)～家族をつなぐあそびのヒント～</b>	〃 (50)	47	9.17 10:00～17:00	NHKテレビの『おかあさんといっしょ』の振付担当者、宮田雅代さんの指導で、子どもに伝える方法などを学んだ。午後は保育研究開発部のスタッフが、初めての人同士をつなぐプログラムを紹介。参加者も、保護者の役になって疑似体験。受講料7,000円。

## □□□ その他 □□□

名 称	日 時	内 容
<b>子育て支援のニュースレターの発行</b>	第43(通巻56)号 ＝7.15	子育てをめぐる情報、現場などの動きをはじめ、各地の実践などを中心に取り上げた。事業本部、小児保健部との合同企画となり、内容が強化された。
	第44(通巻57)号 ＝11.1	主な配布先は、子育て支援にかかる実践者、研究者、大学などで年間購読を希望する個人および団体。その他見学者、関係所管課に無料配布。年間購読料2,000円(郵送費、印刷代一部負担金)。
	第45(通巻58)号 ＝H25.2.15	

# 小児保健



気軽に相談できる 赤ちゃんといっしょの子育て学習会



## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

小児保健部門は、子どもの心身の健康や発達を考えていく部門として、①小児保健クリニックの診療・相談 ②「赤ちゃんサロン」など0～2歳とその保護者を中心とした子育て支援 ③保育所・児童館・子育て支援センターなどで活動を行っている支援者向け研修（講習）会などの事業——を行ってきた。本年度は、特に〔子どもの城〕のセンター的役割を踏まえ、重点目標として全国の支援者の資質向上をめざした“講習会の充実”を第一に掲げ、講習会の種類を増やし計8回実施した。特に現場で子どもや保護者に対応する時に必要とする内容で、もっと深く知りたい・身につけたいと思っているテーマを選び、実践に役立ててもらうようにした。

第二に、子育て支援事業に引き続き力を注ぐことを掲げ、「赤ちゃんサロン」「マタニティ・コンサート」などを実施、あわせて企業協賛の促進を心がけた。

さらに新規事業として、“障がい児・者とその保護者への取り組みを広げる”主旨で、ダウン症児・者の保護者向け講習会を企画した。

### □□□ 事業の概要 □□□

#### ■■■ 診療・相談活動 ■■■

表1に掲げるように診療・相談の総件数は、前年度の2,429件から2,690件に261件（10.7%）増加した。初診件数も平成22年度の346件には及ばないものの、前年度の311件から336件に25件（8.0%）の増加となった。「乳幼児健康診査（公費）」や「ダウン症療育相談」は横ばいでいたが、保険診療の件数が107件（9.4%）、心理相談の件数が172件（17.4%）の増加となった。

表2には新規来所者の居住地内訳を示しているが、2～4位の区には多少の変動はあるものの、東京都が85.4%、近県や海外からの一時帰国者などが残りを占めるという割合は変わっていない。

相談内容の内訳は表3に示されているが、約3分の1を乳幼児健診（公費）が占めている。また「発達の相談（疑いを含む）」が34.1%から30.4%にやや減少、身体的・心身症的な相談が15.1%から19.0%とやや増加したが、全体に大きな変化はなかった。子どもが“発達障害ではないか”との主訴で心配して受診する人は相変わらず多いが、本年度は低身長や思春期早発症など、身体的発育

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表 1）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H25 1月	2月	3月	合計
診 療	126	75	109	102	89	73	124	101	122	95	111	120	1,247
健 康 診 査（公費）	19	10	14	9	10	12	13	12	11	8	12	15	145
健 康 診 査（自費）	2	0	23	1	2	2	2	16	1	2	1	0	52
育 児・健 康 相 談	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4
心 理 相 談	103	86	99	97	113	97	80	88	72	106	100	118	1,159
ダ ウ ネ 症 療 育 相 談	8	4	9	6	4	7	4	11	9	4	8	9	83
合 計	258	176	255	215	219	191	223	229	215	215	232	262	2,690
内 初 診（新規）	35	23	39	32	35	18	31	35	25	19	19	25	336
内 再 診	223	153	216	183	184	173	192	194	190	196	213	237	2,354

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表 2）

居住地域	渋谷区	世田谷区	杉並区	大田区	その他の区部	市郡部	小 計	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他	小 計	合 計
人 (%)	77 (22.8)	24 (7.1)	19 (5.7)	17 (5.1)	132 (39.3)	18 (5.4)	287 (85.4)	18 (5.3)	15 (4.5)	6 (1.8)	10 (3.0)	49 (14.6)	336 (100)

の心配で受診した件数が増加した。

秋に閉館の報道がなされたが、その後は閉館について説明した上で受診していただいている。それでもクリニックについては診療・相談数の増加をみている。肥満・低身長など発育の問題や発達障害・不適応の問題など、長期に経過を見ることが必要な場合もあり、ていねいに話を聞いて対応してくれる医療・相談機関を求めている人が多いと考える。土曜日に予約できること、居住地からは電車で来ても周囲が遊び場で、受診・来談後も遊んで帰れることも利用しやすさにつながっているといえよう。



心からだの健康 0.1.2 歳児～小児保健の基礎と実際（グループ討議）

【新規来所者の診療・相談内容内訳】（表 3）

発達の相談（疑いも含む）	内 容	件数 (%)
	自閉症スペクトラム障害	35 (10.4)
	学習障害・注意欠陥多動性障害	31 (9.2)
	精神遅滞	17 (5.1)
	言語発達遅滞	15 (4.5)
	ダウン症、その他先天異常	4 (1.2)
	小 計	102 (30.4)
情緒・行動面の相談	情緒障害・情緒不安	12 (3.5)
	不登園・不登校	11 (3.3)
	神経症	6 (1.8)
	育児不安	6 (1.8)
	集団不適応	3 (0.9)
	小 計	38 (11.3)
身体的・心身症的な相談	肥満（心理的な問題含む）	25 (7.3)
	低身長	9 (2.7)
	夜尿症	3 (0.9)
	その他心身症（吃音・チックなど）	15 (4.5)
	その他身体的（思春期早発症・体重増加不良など）	12 (3.6)
	小 計	64 (19.0)
	合 計	204 (60.7)
健 診	乳幼児健康診査（公費）	114 (33.9)
	健康診断（自費）	18 (5.4)
	合 計	132 (39.3)
	総 計	336 (100)

### ■ ■ ■ 講習会の充実 ■ ■ ■

本年度は前年度の 4 種類の講習会を継続すると同時に、さらに子育て支援の現場に即したテーマの講習会を 2 種類実施した。一つは、「現場に役立つ感染症やケガの対応と Q&A」である。保育園で経験の長い看護職の講師を迎えて行った。子どもの安全・健康管理はどこでも必須の課題であるところから、定員の 1.75 倍の申し込みがあった。不慮の事故の予防の大切さ、ケガの手当てについて、現場からの質問も活発に出され、実践に基づいた内容は説得力があった。

また子育て支援を担う心理職の養成も大切であると考え、小児保健クリニックでの経験をもとに「乳幼児期の心理相談の実際」を、「①発達の相談」「②情緒面の相談」の 2 回に分けて夜間の講習会として行った。現場で親子の相談にあたっているが心理職ではない職種の参加もあった。現代の親子の援助のあり方について、事例を含めた研修会の必要性は高いと思われた。

ダウン症児・者の保護者向けの講習会も盛況だった。青年期・成人期のダウン症の人たちへの支援のあり方はまだ十分に認識されていないので、心身の健康の管理、生活の自立の不安など、保護者には将来に向けての心配がつきず、このような講習会は大切であるとわかった。

### ■■■ 乳幼児の子育て支援活動 ■■■

#### 【「マタニティ・コンサート」と「マタニティ・スイミング】

開館後まもなくから毎年引き続いてきた「マタニティ・コンサート」は、妊娠期からの子育て支援の事業である。コンサートは、出演が 3 回目となる女性ピアニストの演奏を中心であった。演奏の合間の出産・育児の経験談も実感のこもった内容であった。前年度よりさらに多くの企業からの協賛をいただいたが、本年度をもって終了することにした。

また、外部の産婦人科の協力のもとに行ってきました「マタニティ・スイミング」は、27 年間多くの赤ちゃんの出産を応援し、「こどもの城」を利用しながらの子育てへの入口になってきたが、本年度末でその役割を終えた。

#### 【「赤ちゃんサロン」と「赤ちゃんといっしょの子育て学習会】

3か月から 1 歳 6 か月までの赤ちゃんと保護者のつどいの広場であった「赤ちゃんサロン」は、平成 3 年から開始され全国の子育て広場の先駆けとなっていた。0 歳の赤ちゃんとその保護者を小児科医を初めとする保健的な立場から見守ってきた「赤ちゃんサロン」は、気軽に日常の子育ての疑問や悩みを解消でき、人とのふれあいを楽しめる場であった。

年 3 回行ってきた有料の「赤ちゃんといっしょの子育て学習会」は、向学心の強い保護者に子育ての大切なポイントを他の親子と共に、楽しく実感しながら学んでもらうことが目的であった。

最近では 2 歳 11 か月までを対象とした「ぽかぽか広場」の 1 ~ 2 歳の利用者も増えてきたので、この「ぽかぽか広場」と「赤ちゃんサロン」、「赤ちゃんといっしょの子育て学習会」の子育て支援事業を統合し、次年度から毎日開催する新「ぽかぽか広場」(0~2 歳 11 カ月対象) に引き継ぎ、全館的に運営していくことになった。

### □□□ まとめ □□□

本年度は、「講習会の充実」「子育て支援活動」を重点目標においた。しかし小児保健部門として、〈小児保健クリニック〉の診療・相談、妊娠期から乳幼児期の子育て支援活動、肥満の小学生対象の講座、子育て支援者向けの講習会と、長年にわたり取り組んできた各種活動のすべてを行える最後の年度となった。次年度は事業の規模の縮小をはからざるをえないが、再度これらの事業の意味をまとめておきたい。

〈小児保健クリニック〉は、「こどもの城」という子どもの遊び場のなかにある小児科の診療所で、子どもの健康・発達上の心配事にていねいに相談にのり、小児精神科・小児耳鼻科などの専門外来や栄養相談、心理相談も受けられるという形態は、子どもの健康支援、親の子育て支援という意味で利用しやすい一つのモデルを提供したといえよう。

また、妊婦や乳幼児とその保護者を対象とした各種の講座・催しも、開館以来、試行錯誤を積み重ねながらさまざまな発展をとげた。特に全国の子育て広場の先駆けとしての「赤ちゃんサロン」の意味は大きかったのではないだろうか。児童館でも、0 ~ 3 歳の乳幼児の子育て支援活動が行われるようになった。「こどもの城」でも、現在は全館で乳幼児親子のための〈遊び場〉や講座の取り組みが行われている。

これらの日常活動は、子育て支援者向けの講習会の内容に生かされて、全国の児童館・子育て支援施設などの支援者の啓発活動に役に立ったと考える。今後も、子どもの健康や発達を大切に考える視点が、未来にわたって受け継いでいかれることを祈りたい。

# 平成 24 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
小児保健クリニック (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理・発達相談 ダウン症療育相談	休館日を除く毎日 9:30 ~ 17:00 木曜日・金曜日(各月1回)	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる(週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む)。小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は、相談料1回5,000円。心理・発達相談は、担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ7,000円。専門相談のダウン症療育相談は、相談料8,000円。 専門医師が担当。 (小児保健クリニック)
赤ちゃんサロン	火曜日(年16回) 11:00 ~ 14:00	対象は3~18か月の乳幼児とその保護者、妊婦。親たちが自由に交流し、赤ちゃんたちがぶれあう場。小児科医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士が加わり子育ての相談も行う。本年度は延べ1,525人が参加。入館券対応。 (音楽ロビー)
第27回マタニティ・コンサート 「竹村淨子・愛のピアノ」	9.2 15:00 ~ 17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えるという主旨のコンサート。ピアニスト竹村淨子のソロコンサート、絵本のスライド上映とコンテンポラリーダンスと朗読とのコラボレーションを行った。野末源一元日本赤十字社医療センター副院長産婦人科医師と巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック小児科医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操なども行った。公募、無料招待。201人参加。劇場事業本部との共同事業。 (青山円形劇場)



赤ちゃんサロン



マタニティーコンサート「竹村淨子・愛のピアノ」

## □□□ 講座・クラブなど □□□

## ■■■ 講座 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
<b>健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉第29期</b>	(組) 太りすぎの小学生とその親 (20)	(組) ① 23 ② 25 ③ 23	土曜日 14:00 ~ 17:00	太りすぎの改善のために医学指導(東京女子医科大学東医療センター医師)・栄養指導(和洋女子大学ほか)・体育指導(体育事業部。水泳と体育を交互に実施)を行う。食事と心理の保護者向けレクチャーと親子合同の体育プログラムを実施した。親子での屋外活動を年3回実施(東京スカイツリーまでのオリエンテーリング、東京農業大学食育交流と収穫祭手伝い、港区青松寺で座禅)。夏合宿は中止。体育事業部との共同事業。受講料=1・2期(各12回)各24,000円、3期(9回)18,000円。 (小児保健クリニック/体育室/プールほか)

## ■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
<b>マタニティ・スイミング</b>	(人) 妊娠16週以降の妊婦 (25)	(人) 4月 8 5月 12 6月 17 7月 16 8月 19 9月 17 10月 18 11月 24 12月 19 H25 1月 11 2月 11 3月 6 (計178)	火・木曜日(月7回) 11:00 ~ 12:00 ※夏休み特別期間 (7.21 ~ 9.2)は 10:30 ~ 11:30 ※9月とH25年1月は6回。	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母親になる人たちの友だち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、育良クリニック産科医師・助産師と小児保健スタッフが担当、年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金10,000円、受講料13,000円(月額)。(プール)

## ■■■ 短期講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
<b>季節の離乳食</b>	(人) 5か月~1歳6か月の乳幼児と親 (各回10)	(人) 計 76	金曜日(年9回) 13:30 ~ 14:30 ※4.27=3 / 5.25=4 / 6.22=14 / 9.21=12 / 10.26=8 / 12.7=12 / 12/H25.1.25=13 / 2.15=1 / 3.15=9	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食などを見せながら、ちょっとした工夫ができる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合うなど、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。受講料2,000円(1回)。(小児保健部プレイルーム)
<b>赤ちゃんといっしょの子育て学習会</b>	(組) 3か月~1歳6か月の乳幼児と親 (各回30)	(組) 29 36 25	7.20 10.5 H25.3.22 11:00 ~ 15:00 11:00 ~ 15:00 11:00 ~ 15:00	赤ちゃんの健康、栄養、発達、子育てのあれこれを学ぶ、親向けの学習会。7月は「家庭でできる乳幼児の発育・発達評価」(小児科医師)、「赤ちゃんの病気とけがの対応」(看護師)と子育てQ&A。10月は「いまどきの気になる乳幼児の病気」(小児科医師)、「赤ちゃんの遊びと発達」(臨床心理士)と子育てQ&A。3月は「乳幼児と教育」(小児科医師)、「赤ちゃんの飲むこと・食べること」(管理栄養士)と子育てQ&A。会場で食事をとることもでき、ベビーカーも預かった。受講料2,000円。(会議室)

■ ■ ■ 専門指導者向け講習会 ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第 1 回乳幼児期の心理相談の実際①②	(人) 臨床心理士など (各 30)	(人) ① 28 ② 25	① 6.8 19:00 ~ 21:00 ② 6.22 19:00 ~ 21:00	①は、言葉遅れなど発達の相談について。遊びや保護者とのやり取りを通して発達をどう見立てて支援していくのか話した。②は、子どものかんしゃくや分離不安などの情緒的な悩みに親子の関係性を含めて捉え、この時期の情緒的な問題についての考え方や開拓方について話した。講師は、小児保健部スタッフ（臨床心理士）。受講料 1 回 5,000 円。（会議室）
ダウン症児の保護者・支援者向け学習会「ダウン症のキャリーオーバー／トランジション～青年期・成人期の健康管理」	ダウン症児と親、支援者など (50)	73	6.10 13:00 ~ 16:00	ダウン症にみられやすい疾患には、定期検診が欠かせない。また、退行症状がみられることが多いので、その予防や対応について具体的に説明した。その後、家族からの Q&A に答えた。講師は、日暮眞・ダウン症療育担当医師。受講料 1,000 円。（研修室）
第 4 回乳幼児期からの健康づくり～医学・栄養・運動の 3 点から～	保育士・管理栄養士・栄養士・児童厚生員・保健師など (50)	49	7.13 10:00 ~ 16:45	乳児期においての〈食育〉の考え方、幼児期における〈食育〉の具体的な取り組みを中心とした講習会。「生活習慣にむすびつく運動」（体育事業部）、「幼児期の運動について考える」（小児科医師）、「家庭支援のための食事アドバイスのポイント」（管理栄養士）。受講料 7,000 円。（研修室）
現場に役立つ感染症やケガの対応と Q&A	保育士・看護師など (50)	70	7.28 13:00 ~ 16:00	保育所などの未就学児の集団生活において、子どもが安全かつ健康に過ごすためには感染症とケガの対策は欠かせない。「最近の子どもの感染症とケガの予防」村田光範小児科医師、「現場に役立つ感染症とケガの具体的な予防と対策」「Q&A」並木由美江さん（全国保育園保健師看護師連絡協議会会長・看護師）。受講料 5,000 円。（会議室）
第 2 回「遊び」から理解する子どものこころの発達	保育士・学童指導員・養護教諭など (50)	24	10.28 13:30 ~ 16:30	主に幼児期・児童期の心の発達について、その時期の子どもの遊びの様子から理解していく講習会。「子どもの発達～こころと“遊び”～」の講義、遊びの Q&A 「実例をとおして学ぶ～子どもの遊びの見方、かかわり方」。講師は小児保健部スタッフ。受講料 5,000 円。（研修室）
第 27 回 小児保健セミナー「多様化する親子へのかかわり方～話の聴き方・伝え方～」	保育士・看護師・保健師・児童厚生員など (100)	56	12.1 10:00 ~ 16:45	家族のあり方が多様化しているなかで、支援者は親子にどのように対応したらいいかを学ぶセミナー。今回は、発達障害に焦点を当てて現場での対応や家庭との連携を考えた。「幼児期からの発達障害への対応」（古庄純一さん：青山学院大学教授・小児精神神経科学会認定医師）、「親の立場から望む子育て支援」（普光院亜紀さん：保育園を考える親の会代表）、「親の話の聴き方・考え方」（吉田弘道さん：専修大学教授・臨床心理士）。受講料 7,000 円。（研修室）
第 2 回子どもの虐待への対応～親子支援に向けて～	保育士・児童厚生員・学童指導員・保健師など (50)	45	H25.2.24 13:30 ~ 16:30	大きな社会問題となっている、子どもの虐待の現状や理解について学ぶとともに、事例をとおして虐待の背景となる親子関係、対処の仕方について学ぶ講習会。「虐待の現状と理解」の講義と、「虐待が疑われる親子の理解と対応」のテーマで質疑応答。講師は、増沢高さん（子どもの虹情報研修センター・臨床心理士）。受講料 5,000 円。（会議室）
第 19 回 心とからだの健康 0.1.2 歳児～小児保健の基礎と実際～	保育士・保健師・栄養士・看護師・児童厚生員など (50)	46	3.8 10:00 ~ 16:30 3.9 10:00 ~ 15:45	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「0.1.2 歳児の保健の基礎と子育ての考え方」「健康管理や応急処置」「離乳食や幼児食の考え方と食育」「心理的な理解と対応」などの講義、「子育て広場における支援の考え方と方法」の説明や情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。受講料 13,000 円。（会議室）

# 劇場



DULL-COLORED POP「完全版・人間失格」

## 平成 24 年度の活動

### 事業の方針

児童健全育成施設【こどもの城】の劇場としての意義を認識しつつ、新たに策定した「自主・提携公演の実施方針」にのっとり、子ども文化のすぐれた発信場所としての地位を保つように努力するとともに、【こどもの城】全体の維持のための経済的側面をも意識した事業運営を行った。

### 事業の概要

自主・共催公演としては、青山円形劇場で 7 公演、提携公演として青山劇場で 1 公演、青山円形劇場で 5 公演を実施した。このうち『ダンストリエンナーレトーキョー 2012』は、文化庁の国際芸術交流支援事業に、『TOKYO DANCE TODAY #8』は日本芸術文化振興会のトップレベルの舞台芸術創造事業に選ばれた。劇場貸与については、青山劇場が 19 件、青山円形劇場が 24 件であった。

国費による工事期間を除いた稼働日数は、青山劇場使用可能日数 307 日中 273 日、青山円形劇場使用可能日数 318 日中 287 日とほぼ 90% の稼働状況であった。また、劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成をはかるためのセミナー『APAS』(Aoyama Performing Arts Seminar) を 10 件、【こどもの城】ピロティでの野外パフォーマンスを 5 件実施した。

### 主な自主・提携公演

#### 青山円形劇場

#### 青山円劇カウンシル #5~true~ リリオム

新進気鋭、今が旬の劇作家と組んで新しい魅力あふれる“円劇”（青山円形劇場×演劇）をプロデュースする青山円劇カウンシルの第 5 弾。

『リリオム』は、ミュージカル『回転木馬』の原作として有名なハンガリーの劇作家モルナール・フェレンツによる戯曲。次世代を担う若き演劇の才能として期待され、『アフロ田中』で長編映画監督デビューも果たした松居大悟が脚色・演出を手掛けた。出演は、タイトルロールに子役時代

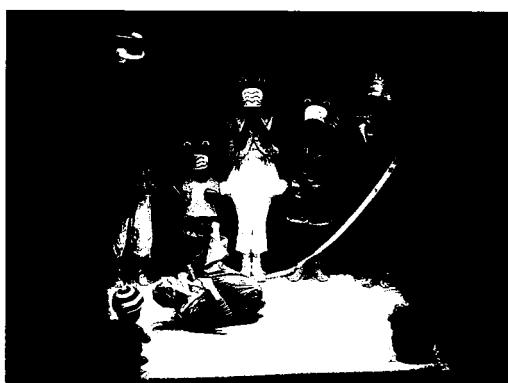
から活躍する池松壮亮が初舞台。美波、銀粉蝶、中山祐一朗ら実力派が揃い、粗野で不器用な男の優しさあふれる物語に涙とともに高い評価を受けた。

青山円劇カウンシルは新進劇作家を取り上げて、次世代の才能を確保する当初の目的以上に、新しい才能を発掘したい制作カンパニーから多くの注目を集め、近くの劇場営業面で多くの業績を上げている。また、青山円形劇場という空間で人気俳優を間近に見ることができる、大劇場にはないプレミアム感とこの企画の先進性が、多くのマネージメント会社から注目を集めており、人気俳優出演による収益面でのアップが実現しつつある。

□日時 □5月 25～6月 3日  
□原作 □モルナール・フェレンツ  
□脚色・演出 □松居大悟

□出演 □池松壮亮、美波、銀粉蝶、中山祐一朗 他  
□主催 □財団法人児童育成協会、ネルケプランニング

### 月猫えほん音楽会 2012 えほん×ジャズ=めちゃ<sup>2</sup> 楽しいシアターライブ



月猫えほん音楽会 2012

『月猫えほん音楽会』は、“絵本”と“読み聞かせ”的持つ魅力を取り上げた企画で、ファミリーを対象に上演。大きな月のスクリーンに絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズのセッションライブ。そこに身体の表現であるパントマイムを加えて、客席参加でお話しを表現するなど、他には類を見ない画期的なステージを展開した。

また、来場者はフェイスペインティングで猫に扮し（希望者のみ），“猫道”と呼ぶトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演じた。

ピアノ演奏とパントマイム、趣向を凝らした演出で、ライブならではの生き生きとした時間を会場全体で共有することに成功した。来場者のほとんどは親子であり、“絵本”と“読み聞かせ”という2つのキーワードへの関心の高さと、低廉な料金設定に押されたこともあり、有料入場者数85%と高い入場率となった。

□日時 □7月 27～29日  
□出演 □佐山雅弘（ピアノ）、保亜美（進行）、本多愛也（パントマイム）、能祖将夫（朗読）  
□スタッフ □演出：吉澤耕一／構成：能祖将夫／美術：

小竹信節／協力：東京動物園ボランティアーズ  
□後援 □渋谷区教育委員会  
□主催 □財団法人児童育成協会

### ダンストリエンナーレトーキョー 2012 —限りなき瞬間—

#### 地球全体に広がるコンテンポラリーダンスの今

今回で5回目の開催を迎えた『ダンストリエンナーレトーキョー 2012』。2002年夏に青山劇場・青山円形劇場で産声をあげ、回を重ねるごとに東京・青山を舞台に広がり、今年10年目を迎えた。

渋谷・宮益坂上から表参道交差点までの約1kmの青山通り両サイドに、フェスティバルのバナーがはためくなか、開幕した今回のフェスティバル。公演やダンスワークショップのほか、前回好評だったダンスショウケース、ダンスフィルム、ブックフェアに加えて、公演会場の一つとして東京ドイツ文化センター、シンポジウム会場として国連大学が参加。さらに、多くの道行く人々が楽しんだ屋外パフォーマンスなどのプログラム構成で、コンテンポラリーダンスの将来性を発信し、今回のテーマでもある「限りなき瞬間」に出会う可能性を大きく広げる多彩なプログラムに、前回の2009年の倍にあたる20,000人を超える観客・参加者が国内外から訪れた。

#### ◆注目を集めたプログラム

アルジェリア出身のナセラ・ベラザと珍しいキノコ舞踊団の2作品がオープニングを飾り、毎日いずれかの会場で公演が行われた充実した18日間であった。新しい試みとして、同日に行われる2つの公演を割引価格で購入できる特別チケット“はしご券”が登場。プログラム発表時から、『ア

ラン・プラテル／les ballets C de la B』と 2006 年から毎回参加している本フェスティバルの顔ともいいくべきヤスミン・ゴデールの作品が両方観られる日は早々とこのセット券が売り切れ、注目を集めた。

ナセラ・ベラザ、ヤスミン・ゴデール、世界初演の向井山朋子＋ニコル・ボイトラー＋ジャン・カルマン作品は、日本公演後にソウルの大型フェスティバルでも上演、このような海外フェスとの連携は日本からアジアへ繋がる大切な機会となつた。また、南米から初めての招聘となるリア・ロドリゲスを KYOTO EXPERIMENT と共同招聘した。そのオリジナリティで同時代を鋭く表現する作品、アート性の高い作品の数々に好評を得ることができた。

今回より、「JAPAN FOCUS」「ASIA FOCUS」という新プログラムを創設。「JAPAN FOCUS」は 4 組の注目の日本人アーティストを、「ASIA FOCUS」は既にキャリアのあるインドネシア、韓国、日本のアーティスト各 1 組を選定。その内、新作を発表した「JAPAN FOCUS」の田畠真希と 21 世紀ゲバゲバ舞踊団は、本発表の約 1 か月前にトライアウトを行い、関係者らと意見を交換する機会を作ったことは、今後のこのフェスティバルの在り方を模索することができたように思える。

また、海外から 21 人のディレクターを招聘。公演のほかにも FORUM や MEETING に参加していくだけ、日本人アーティストと積極的に交流した成果が、近い将来聞けることだろう。

#### ◆ダンスフィルム

シアター・イメージフォーラムでのダンスフィルムのテーマは「ダンスの空間学」。8 つのプログラムを会期中それぞれ 2 回ずつ上映、21:00 からのレイトショーということで、ダンス公演終了後に足を運んだ来場者も多かった。初日には『スペース・イン・バック・オブ・ユー』のリチャード・ルトコウスキ監督が来日し、このドキュメント作品の主演でもある花柳寿々紫のご子息も加わり、オープニングトークを行った。

#### ◆ダンスショウケース —4m 四方の舞台空間—

スパイラルのエントランス、青山通りに面したガラス張りの空間で行うダンスショウケースは、前回から引き続く好評プログラム。1 回のパフォーマンスは平均 15 分程度で、フェスティバルで発表する作品の一部のパートを見せるアーティストもあり、このダンスショウケースのためのプランを披露するアーティストもあり、どの作品も道行く人の足を止める楽しいダンスパフォーマンスとなった。特に川村美紀子はこの枠にとどまらず、約 2 時間歌い続けるパフォーマンスで、台風直撃の悪天候にも関わらず、訪れた多くの人々の心を掴んだ。また、パフォーマンスだけでなく、ヤスミン・ゴデール作品の美術作家、ヨハイ・マトスによるインスタレーション作品を展示。観るだけでなく参加性もあり、アートファンへのアプローチとしても関心を集めた。

#### ◆家族で楽しんだ屋外パフォーマンス

【子どもの城】の入口の広場であるピロティを舞台に、オープンな空間でのパフォーマンスを得意とし、このフェスティバルに参加経験のあるダンサー、カンパニーを中心にプログラムが組まれた。

スペースが広いため、大勢の人が楽しむことができ、カンパニーデラシネラ『ロミオとジュリエット』には 500 人以上が来場した。

10 月 8 日に行われたウィリアム・フォーサイス振付作品『Bongo Bongo, 9 phases』は日本女子体育大学のダンス・プロデュース研究部によって生まれたもので、ダンスを学ぶ 40 人を超える学生たちの溌剌とした迫力のあるパフォーマンスは圧巻であった。ほかにも、ユニセフが発信している森山開次振付の『世界手洗いダンス』は“手を洗う”ことの大切さをダンスをとおして伝える



アラン・プラテル『les ballets C de la B』



カンパニーデラシネラ『ロミオとジュリエット』

もので、多くの家族連れが足を止め一緒にダンスする姿が見受けられた。

#### ◆シンポジウム「人はなぜ踊るのか？」

フェスティバルのアドバイザリー・コミッティを務める榎本了壱と参加アーティスト、近藤良平がモデレーターとなり、パネリストには伝統芸能に造詣の深い岩下尚史、本年度からの中学校でのダンス必修化の全体像を把握する横浜国立大学教授の高橋和子、イスラエルの振付家のオハッド・ナハリンとの共同制作でも注目されている現代美術家の東芋、そして今、多くの若い日本人が熱狂するEXILEのメンバーであるTETSUYAを迎えた。来場者にはEXILEのTETSUYAのファンも多く、コンテンポラリーダンスに触れる機会が少ないのでないかと推察されるが、どのパネリストの話にも熱心に聞き入り、その多様性、可能性を感じ取ってくれたのではないだろうか。

#### ◆楽しみをひろげたアイデア

青山ブックセンター本店では、ダンス、舞踏、そして〈身体〉に関する書籍や、『ダンストリエンナーレトーキョー 2012』参加アーティストの選書を集めたブックフェアを開催。8月中旬からは文庫本と新書の購入者用にフェスティバルのロゴをあしらったブックカバーを配布。青山本店以外の支店でも配られたため、広報的にも効果があがった。

今回のフェスティバルTシャツは東京スカイツリーのユニフォームデザインでも話題になった人気のファッショングラン、ミナペルホネンに提供いただいた。来場者へは2プログラム以上のチケット半券5枚を集めた人と、アンケートに回答した人の中から抽選で20人にプレゼント。ロゴをモチーフにしたデザインは人気を集め、男女問わず、フェスティバルのいくつものプログラムを見るきっかけの一つになったように思う。

コンテンポラリーダンスは、誕生から30年ほどと言われる若いアートだが、これまでとは違うコンテキストで地球全体に広がっている。日本最大規模のダンスフェスティバルとして、アジアからのダンスの発信源として成長を続ける『ダンストリエンナーレトーキョー』は、国内外のコンテンポラリーダンスの裾野を広げること、新たなオリジナリティが生まれる文化的土壤を豊かにしていくことをめざして開催している。次回2015年秋の開催に向けて、国内外の未知の才能や新たな作品に触れながら、また、地域との連携をさらに深めてダンスを身近に楽しめる環境を作る仕掛けを考えていきたい。世界中からコンテンポラリーダンスの最前線を送り届けていただいた各国大使館や文化機関、多大なるご支援ご協力をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げたい。



シンポジウム「人はなぜ踊るのか？」

『ダンストリエンナーレトーキョー 2012』の全公演は以下のとおり（計16作品、26回公演／有料）。

□ナセラ・ベラザ Nacera Belaza (フランス・アルジェリア)『Le Temps scellé (刻印された時間)』

『Le Trait (一筋の描線) – Solos』

9月27・28・29日／青山円形劇場

□伊藤千枝／珍しいキノコ舞踊団(日本)『3mmくらいズレてる部屋』

9月27・28・29日／スパイラルホール

□アルカディ・ザイディス Arkadi Zaides (イスラエル)『Quiet』

9月30日、10月1日／青山円形劇場

□ヨンソン・チョ・ジャケ YoungSoon Cho Jaquet (スイス・韓国)『CHAMPIGNONS』

10月1・2日／スパイラルホール

□アラン・プラテル Alain Platel / les ballets C de la B (ベルギー)『OUT OF CONTEXT-FOR PINA』

10月3・4・5日／青山円形劇場

□ヤスミン・ゴデール Yasmeen Godder (イスラエル)『LOVE FIRE』

10月5・6・7日／スパイラルホール

□JAPAN FOCUS：平敷秀人(スイス・日本)／田畠真希／21世紀ゲバゲバ舞踊団／川村美紀子

10月7・8日／青山円形劇場

- ASIA FOCUS : ジェコ・シオンポ Jecko Siompo (インドネシア) / チエ・チンハン Choi Jin-han (韓国) / 近藤良平 (日本)  
 10月9・10日 / スパイラルホール
- マルティン・ナッハバー Martin Nachbar (ドイツ)『Urheben Aufheben』  
 10月11・12日 / 東京ドイツ文化センター
- リア・ロドリゲス Lia Rodrigues (ブラジル)『POROROCA』  
 10月12・13・14日 / 青山円形劇場
- 向井山朋子・ニコル・ボイトラー・ジャン・カルマン Tomoko Mukaiyama + Nicole Beutler + Jean Kalman (オランダ・ドイツ・フランス・日本)『シロクロ』  
 10月13・14日 / スパイラルホール

9月27日(木)～10月14日(日)の会期中に次のプログラムを同時に開催した。

- 日本のアーティストによる屋外パフォーマンス / 【子どもの城】ピロティ / 計5回 / 無料
- スパイラル1Fにある青山通り沿いのスペース“ショウケース”でフェスティバル参加アーティストが日替わりで登場するダンスショウケース / 計15回 / 無料
- 海外からの参加アーティストによるダンスワークショップ / 計10回 / 経験者向け：有料、子ども向け：無料
- シンポジウム、フォーラム、ポストパフォーマンストーク / 計10回
- 映画館で開催するダンスフィルム上映 / シアター・イメージフォーラム / 計16回 / 有料

総計 (参加団体数 = 21, 参加国数 = 10か国, 実施回数 = 88回)

### ダンストリエンナーレトーキョー 2012 開催概要

□ 日時 □ 9月27日～10月14日

□ 主催 □ 公益財団法人児童育成協会 (青山劇場・青山円形劇場)、スパイラル / (株)ワコールアートセンター、ダンストリエンナーレトーキョー 2012 実行委員会  
 □ 共催 □ (株)ダガレオ出版 (シアター・イメージフォーラム)、東京ドイツ文化センター、国連大学

□ 助成 □ 平成24年度文化庁国際芸術交流支援事業、ベルリン市政府文化局、アンスティチュ・フランセ・パリ本部、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、アーツカウンシル東京準備機構 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、公益財団法人セゾン文化財団、EU・ジャパンフェスト日本委員会

□ 特別協賛 □ Bloomberg L.P.

□ 協賛 □ オランダ王国大使館、公益財団法人フランダースセンター、ミナペルホネン、ネスレネスプレッソ(株)資生堂、東急ステイサービス(株)、トヨタ自動車(株)、ヤマハ(株)

□ 提携 □ プラスマディアコーポレーション(株) (青山ブックセンター)、渋谷青山通り商店会、青山表参道商店会、渋谷ヒカリエ、青山コモンズ、青山学院大学 社学連携研究センター

□ 後援 □ ベルギー王国大使館、ブラジル大使館、インドネシア大使館、イスラエル外務省 イスラエル大使館、韓国大使館 韓国文化院、スイス大使館、ケベック州政府在日事務所、アンスティチュ・フランセ東京、渋谷区、日本ダンスフォーラム JaDaFo、新書館「ダンスマガジン」  
 □ 協力 □ SIDance (ソウル)、Seoul Performing Arts Festival (ソウル)、金沢21世紀美術館 (公益財団法人金沢芸術創造財団)、KYOTO EXPERIMENT、NPO DANCE BOX & Art Theater dB KOBE、横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

□ 広報協力 □ 東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

□ インターン □ 跡見学園女子大学、昭和音楽大学音楽芸術運営学科、武蔵野音楽大学

《ダンストリエンナーレトーキョー 2012 実行委員会》

□ 名誉総裁 □ 高円宮妃久子殿下

□ アドバイザリー・コミッティ (50音順) □ 石井達朗

(舞踊評論家・慶應義塾大学名誉教授・早稲田大学講師・愛知県立芸術大学講師)、榎本了吾 (クリエイティブディレクター・アタマトテインターナショナル代表・京都造形芸術大学教授)、貫成人 (舞踊評論家・専修大学文学部教授)、乗越たかお (作家・舞踊評論家)、久野敦子 (公益財団法人セゾン文化財団プログラムディレクター)

□ フェスティバルディレクター (2002～2009) □ 故・高谷静治

□ スタッフ □ チーフプロデューサー : 小野晋司 (子どもの城劇場事業本部)、小林裕幸 (スパイラル) / プロデューサー : 平岡久美 (Dance in Deed!)、宮久保真紀 (スパイラル)、山下宏洋 (シアターイメージフォーラム) / 広報 : 西山裕子 (ナンジョウアンドアソシエイツ) / 宣伝美術・Webデザイン : 太田博久 (golzopocci) / 制作 : 滝沢麻衣、寺田貴美子 (スパイラル)、高輪育子 (子どもの城劇場事業本部)、三宅文子、瀧本麻璃英、三浦美代子 / アテンド : Ondoroujou (JOU)、呉宮百合香他) / インターナショナルコンタクト・翻訳 : 桑原綾子、浜口彩子 / テクニカルコーディネート : 原口佳子 / 舞台監督 : 小野哲史、筒井昭善、横尾友広 / 舞台監督助手 : 北村泰助、林秀樹、奥村直義、西川也寸志 / 照明コーディネート : 元木浩一 (子どもの城劇場事業本部)、大塚之英 (スパイラルホール) / 音響コーディネート : 武藤一郎 (子どもの城劇場事業本部)、浮岳厚 (スパイラルホール)

JAPAN FOCUS テクニカルコーディネート / 照明 : 丸山武彦 / 照明オペレーター : しもだめぐみ / 音響 : 林あきの、 / 演出部 : 桑原淳、シロサキユウジ

ASIA FOCUS テクニカルコーディネート : 照明 : 坂本明浩 (OneDrop) / 音響 : 原嶋紘平 (SONICWAVE) / 演出部 : 小野豊 / 衣装 : 斎藤絵美、福田千亜紀、石野良子

ダンスショウケース・屋外パフォーマンス舞台監督 : 河内崇

テクニカル通訳 : 中山奈美、榎本由希 / ワークショップ通訳 : キミホ・ハルバート、岩部純子 / アフタートーク通訳 : 川口隆夫 他 / プログラム翻訳 : 板井由紀、ダリル・ジングウェン=ウイー / 記録撮影 (スチール) :

塙田洋一、MILLA / 記録撮影 (映像) : リムーヴイメージ

### Aoyama First Act#10 DULL-COLORED POP「完全版・人間失格」

才気あふれる青山円形劇場未経験の若手有望劇団を選び出し、最初の1回だけの支援を行い、演劇界の新しい担い手として精進してもらう演劇企画《Aoyama First Act》の第10弾。

日英で演劇を学び、シユールな劇作からミュージカル、翻訳劇までこなす次世代トップランナーとして期待される谷賢一率いる演劇ユニット、DULL-COLORED POPが青山円形劇場に登場。2010年に人気劇団を集めて太宰治を競作する企画で、観客投票で圧倒的1位を獲得した作品を円形バージョン、完全版として舞台化した。主役を女優と男優それぞれテイストの違うダブルキャストとし、骨太な脚本をポップでスピード感あふれる演出と、小道具が順に天井から降ってくる舞台美術など、新しい意匠にあふれ、高い評価を受けた。

□日時□11月1日～11月7日	□原作□太宰治	□脚色・演出□谷賢一	□出演□コロ(女バージョン)、原西忠佑(男バージョン)	ン)、孔大維、東谷英人、大原研二、塙越健一、堀川炎他	□主催□DULL-COLORED POP	□提携□公益財団法人児童育成協会
-----------------	---------	------------	-----------------------------	----------------------------	----------------------	------------------

### 青山円形劇場プロデュース ア・ラ・カルト2～役者と音楽家のいるレストラン～

クリスマスの時期を迎えたフレンチレストランでの心温まるショートショートのお芝居と、バンドマンの生演奏でつづる音楽劇の新シリーズ3年目。役者と音楽家が一体となって創りあげる“料理と恋のお話と洒落た音楽でつづるおしゃべりなレストラン”。

豪華で多才な日替わりゲストの参加もあり、幅広い年齢層に楽しめる洒落たエンターテインメントショウになった。

また年末12月29日には、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホールにおいても公演をした。



ア・ラ・カルト2～役者と音楽家のいるレストラン

□日時□12月7～25日	□スタッフ□演出：吉澤耕一／台本：高泉淳子／音楽監督：中西俊博
□出演□高泉淳子、山本光洋 本多愛也 中山祐一朗、中西俊博(Violin)、クリス・シルバースタイン(Bass)、竹中俊二(Guitar)、林正樹(Piano)	□主催□公益財団法人児童育成協会
日替わりゲスト(50音順)：池田鉄洋、春風亭昇太、ROLLY	□協賛□富士通(株)、メルシャン(株)、食のぐるり(株)
	□制作協力□遊機械オフィス、ゴーチ・ブラザーズ

### 第2回子どもの城・ファミリーミュージカル

#### 「シーク・シーク・シーキングストーリーII～SOS! レッドキラーがやってきた!!～」

昭和61年＝86年から26年間続いた、正月恒例のファミリー向け企画。お花が大好きな花屋の娘、ひかりと花の国の王女キララが、巻き起こるさまざまな事件に直面しながら成長していく姿を描くシリーズの第2弾。



シーク・シーク・シーキングストーリーII

仲間はずれにされたと思い込んだレッドキラーは王様を眠らせ、花の国を赤一色に変えてしまう。レッドキラーの誤解を解き、花の国に色を取り戻そうとするひかりとキララ。二人の冒険をとおして、思いやる心、手を取り合うことの大切さを描いた。

参加型の演出と、お正月に相応しい夢のある楽しいお話しで、【子どもの城】の新年の幕開けを飾った。

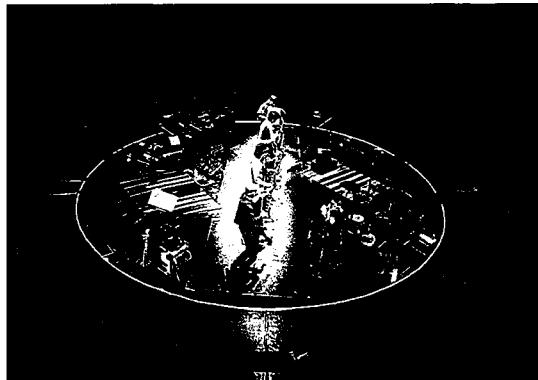
□日時□平成 25 年 1 月 3 ~ 7 日  
 □スタッフ□脚本：太宰久夫、吉村温子／監修：名倉加代子／演出：オペラクリエーション・イン・青山  
 □出演□オペラクリエーション・イン・青山、子ども

の城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、バレエスタジオ HORIUCHI ほか  
 □主催□公益財団法人児童育成協会  
 □特別協賛□株マ・メール

### 中西俊博 Leapingbow2013 Reel's Trip ~踊る大地~

バイオリニスト中西俊博が新しい実験的な音楽にチャレンジしていくコンサート『Leapingbow』。中西が気鋭の若手ミュージシャンと結成した [Reel's Trip] で、深いサウンドを追求した。結成 4 年目となった今回は、バンドの顔になる新曲に取り組み『踊る大地』を発表。バンドの個性を生かした“音・楽”を表現した。

また、【子どもの城】の来館児・者を対象にした無料ミニコンサートは、多くの子どもにとって初体験となる劇場での生の演奏会であり、上質な音楽にふれることで、子どもたちが豊かな感性をはぐくむ一助になればと願い開催した。



中西俊博コンサート Leapingbow2013 Reel's Trip ~踊る大地~

□日時□平成 25 年 2 月 16・17 日（2 回公演）／ミニコンサート「はじめての音楽会」2 月 17 日（1 回公演無料）  
 □出演□中西俊博(Violin)、木村将之(Bass)、ファルコ

ン(Guitar)、伊賀拓郎(Piano)、はたけやま裕(Percussion)  
 □スタッフ□演出：吉澤耕一  
 □主催□公益財団法人児童育成協会  
 □協賛□ヤマハ(株)、富士通(株)、食のぐるり(株)

### 青山演劇 LABO#005 劇団柿喰う客「発情ジュリアス・シーザー」

人気若手劇作家を抱え、青山円形劇場使用を希望しながらさまざまな理由から躊躇してきた劇団と提携し、興行形態を模索しながら公演を実現。青山円形劇場を代表する傑作公演を生み出すべく、【子どもの城】発信の演劇企画として平成 21 年度 = 09 年度に立ち上げた《青山演劇 LABO》。



劇団柿喰う客「発情ジュリアス・シーザー」

第 6 弾は 20 代若手劇作家の中で、圧倒的にトップを走り注目を集めている中屋敷法仁主宰の劇団柿喰う客。今回は女性劇団員と客演全員女優によるシェイクスピア上演プロジェクトで、戯曲ジュリアス・シーザーを男気あふれる作風で描く意欲作。現代劇のみならず歌舞伎や古典劇など多くの演出の引き出しを持つ中屋敷が、巧みに円形舞台を演出。青山円形劇場最高レベルのパフォーマンスを發揮。大きな感動を呼んだ。

□日時□2 月 21 ~ 3 月 3 日  
 □原作□ウィリアム・シェイクスピア  
 □脚色・演出□中屋敷法仁  
 □出演□川上ジュリア、深谷由梨香、七味まゆ味、葉

丸あすか、渡邊安理 他  
 □主催□劇団柿喰う客  
 □提携□公益財団法人児童育成協会

## TOKYO DANCE TODAY #8 「ASLEEP TO THE WORLD」

ダンス、演劇、アート、映画、教育など活動領域を縦横無尽に行き来して、新たな世界を切り拓くアーティストが、レジデンスして作品創りに臨み、青山円形劇場の空間を生かした独創的な作品を発表するダンスシリーズ。1980 年代から発展を続ける日本のコンテンポラリーダンスは、特に都市部での公演数が飛躍的に増加しているが、コンペティションやフェスティバル形式での上演機会が多いこともあり、構成、舞台美術、照明、衣裳などの総合的な視点をもって作品を作るアーティストはまだそれほど多くない。アーティストが構成力とスケール感をもってクリエーションして、次代を担うアーティストや舞台芸術関係者への刺激となりつつ、コンテンポラリーダンスがさらに豊かに発展することをめざしている。

振付家・ダンサーの活動を両輪に世界的に活躍する中村恩恵、舞踏からキャリアをスタートして、引きちぎれるまでに翻弄される切実なダンスを展開する鈴木ユキオ、コンドルズでの活躍もめざましくダンス界を縦横無尽に駆け巡る平原慎太郎、この 3 アーティストの初顔合せも注目された。さらに、即興とコンポジションを融合するギタリスト・作曲家で、劇団維新派の音楽監督や UA、細野晴臣のプロデュースなども務める内橋和久が音楽・演奏で参加した。

日本のパフォーミング・アーツを牽引するアーティストの創造性と舞台美術、衣裳、照明、音響などのトップ・クリエーターの創造性が高い次元で結実し、表現の領域を大きく広げ高い水準で発表することができた。日本のコンテンポラリーダンスの裾野はこれまでにないほど広大になり、そこにたくさんの新しいダンスの萌芽が成長し、あふれ出す独創性とその多様なダンスから、新しい時代のうねりが始まっているが、本作は舞踊、演劇など舞台芸術関係者や次代を担うアーティストにも大きな刺激を与えた。



TOKYO DANCE TODAY#8 「ASLEEP TO THE WORLD」

□日時□3月 7～10 日  
□振付□中村恩恵  
□共同振付・出演□鈴木ユキオ、平原慎太郎  
□音楽・演奏□内橋和久  
□スタッフ□ドラマトゥルク：廣田あつ子／衣裳：堂本教子／美術：長田佳代子／照明：三浦あさ子／音響：牛川紀政／舞台監督：原口佳子／演出部：北村泰助／衣裳助手：土田ひとみ／美術製作：有限会社オサフネ製作所、大津英輔+鶴屋／協力：金魚制作事務所、

OrganWorks、ロックスター有限会社 コンドルズ／宣伝美術：太田博久 (golzopocci)／宣伝写真：清水信吾 (Ruby Arms)／記録写真：塙田洋一／記録映像：リムーブイメージ／制作：平岡久美 (Dance in Deed!)／プロデュース：小野晋司 (子どもの城劇場事業本部)  
□主催□公益財団法人児童育成協会  
□助成□文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）、EU ジャパンフェスト日本委員会

## □□□まとめ□□□

開館以来、【子どもの城】の劇場として「児童の健全育成に資する」という理念のもと、〈文化施設〉と〈文化事業機関〉の両輪で運営をしてきた。〈劇場を貸すこと〉と〈自主(共催)・提携公演を行うこと〉である。

本年度は、【子どもの城】を取り巻く政治、社会、経済状況の変化にともない、【子どもの城】の財政は前年度以上に厳しい状況におかれ、収益部門として収益の増大を目指した。そのためには〈文化事業機関〉の側面を自重せざるを得なかつたが、厳選して行った〈自主(共催)・提携公演〉では、文化の発信地としての劇場の意義を遺憾なく發揮できたと考える。

劇場部門の自助努力だけでは、【子どもの城】の財政難は解決しない。ここに至るまでに、【子どもの城】全体の運営についての根本的で全館的な意思決定をもとに、主管する官庁との密接な連携を模索すべきだったのではないかと思われる。

# 平成 24 年度公演演目一覧表

□□□ 青山劇場 □□□

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉 東京国際和太鼓コンテスト ～歴代グランプリの祭典～ （東京新聞・（財）浅野太鼓研究所）	8.18・19	1	3,000	2,400	1,763	73.5	
（自主・提携公演 小計） 1 件		2		2,400	1,763	73.5	
〈貸し館〉 SAMURAI 7 （ネルケプランニング）	4.1～8	12	PS = 11,000 / SS = 9,000 / S = 7,000 / A = 5,000	13,680	10,960	80.1	
ミュージカル「コーヒープリンス 1号店」 （ネルケプランニング）	4.9～21	14	S=9,500 / A = 7,800	16,184	10,097	62.4	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 （日本テレビ）	4.23～5.14	25	S=8,000 / A = 6,500	28,653	26,455	92.3	
劇団☆新感線 2012 年春興行 いのうえ歌舞伎「シレンとラギ」 （ヴィレッヂ）	5.16～7.2	45	S = 12,500 / A = 6,500 / 立見 = 8,500	52,573	49,299	93.8	
PLAYZONE 2012 SONG & DANCIN' PART II （ヤングコミュニケーション）	7.4～8.11	36	S = 10,500 / 立見 = 8,400	39,568	38,815	98.1	
中山優馬ファンミーティング （ヤングコミュニケーション）	7.24	1	（応募制招待）	500	490	98.0	
東日本大震災復興支援公演 「あらはぎは谷を越えてゆく」 （ゆきこま会）	8.16～17	2	指定席 = 8,000 / 自由席 = 6,000	2,400	2,312	96.3	
ミュージカル「ミス・サイゴン」 （東宝）	8.20～9.9	25	S = 12,500 / A = 7,500	27,400	26,512	96.8	
セシール Presents ミュージカル「ジャック・ザ・リッパー」 （クオラス）	9.11～10.8	30	SS = 16,000 / S = 12,500 / A = 9,500 / X = 15,000 / 補助席 = 15,000 / 立見 = 7,000	35,580	30,889	86.8	
「霧矢大夢ファーストコンサート」 Amore e Musica 夢は果てしなく... （クオラス）	10.10～14	5	S=9,500 / A = 8,500	5,690	5,024	88.3	
40 周年記念「石川さゆり音楽会」 感じるままに—歌芝居「一葉の恋」— （さゆり音楽舎）	10.16～21	6	SS = 10,500 / S = 8,400	7,230	5,319	73.6	
ディートリッヒ （クオラス）	10.26～11.4	10	SS = 12,000 / A = 9,500 / B = 6,000	11,480	8,480	73.9	
名倉ジャズダンススタジオ 第 20 回記念公演 「Can't Stop Dancin' 2012」 （名倉ジャズダンス）	11.5～11	6	S = 8,500 / A = 7,500 / B = 6,500 / 補助席 = 8,500	6,600	6,210	94.1	
アリス・イン・ワンダーランド （ホリプロ）	11.13～12.7	25	S = 12,600 / A = 8,400 / B = 4,200 / 立見 = 4,200	28,002	22,750	81.2	
家康と接針 （ホリプロ）	12.8～16	9	S=9,500 / A = 6,500	10,584	7,482	70.7	
丸美屋食品ミュージカルアニー 「アニークリスマスコンサート」 （キョードー東京）	12.22～23	4	S = 5,800 / A = 4,800	4,672	4,227	90.5	
サクラ大戦巴里花組ライブ 2012 ～レビュウ・モン・パリ～ （レイネット）	12.24～29	5	SS = 9,000 / S = 8,000 / A = 6,000 / ファミリー券 (SS 席のみ)	5,780	4,069	70.4	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈貸し館〉 ドリームジャンボ宝ぶね ～けっしてお咎め下さいますな～ (る・ひまわり/キョードーファクトリー)	(日) H25.1.3～ 13	(回) 10	(円) S=9,000／A=6,000	(人) 11,678	(人) 8,778	(%) 75.2	
大阪芸術大学ピッグブルーミュージカル 「冰山ルリの大航海」(大阪芸術大学グループ)	1.24～27	2	2,000	2,324	1,643	70.7	
「銀河英雄伝説」第三章 内乱 (キティエンターテインメント)	3.26～31	1	11,000	1,150	1,072	93.2	
(貸し館 小計)	19 件	271 日	273		311,728	270,883	86.9
(青山劇場 合計)	20 件	273 日	274		314,128	272,646	86.8

□□□ 青山円形劇場 □□□

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉 Funny Bunny (提携 LDH)	(日) 4.16～30	(回) 17	(円) 6,800	(人) 4,674	(人) 3,206	(%) 68.6	
青山円劇カウンシル #5～true～「リリオム」 (共催: ネルケプランニング)	5.21～6.3	12	5,800 (前売= 5,500)	2,962	2,473	83.5	
玉川大学芸術学部 + 青山円形劇場提携公演 Performing Arts Fair 2012 in 青山 (提携: 玉川大学)	6.18～24	6	一般3,500(前売=3,000)／学生=3,000(前売=2,500)／リビータ料金(一般=1,500、学生=1,000)	1,518	1,433	94.4	
月猫えほん音楽会 えほん×ジャズ=コドモ もオトナもめちゃ2楽しいシアターライブ	7.25～29	5	大人 1,800／子ども 1,500	1,500	1,314	87.6	
コーパス・クリスティ 聖骸 (提携: ネルケプランニング)	9.3～17	15	6,500	5,381	4,522	84.0	
ダンストリエンナーレトーキョー 2012 (自主共催: スパイラル他)	9.25～ 10.14	12	4,300 (前売=3,800)／ 前売学生= 2,500	2,512	1,938	77.2	
東宝ミュージカル「サ・ビ・タ～雨が運んだ愛～」 (名義共催: 東宝)	10.15～28	16	6,500	3,183	2,971	93.3	
Aoyama first act #10「完全版・人間失格」 (提携: ダルカラードボップ)	10.29～ 11.7	10	4,000(前売=3,500)／学 生 3,500 (前売=3,000)	2,000	1,807	90.4	
青山円形劇場プロデュース 「ア・ラ・カルト2 ～役者と音楽家のいるレストラン」	12.3～25	17	6,300	5,524	5,035	91.2	
第2回子どもの城ファミリーミュージカル シーカ・シーカ・シーキングストーリー II ～SOS! レッドキラーがやってきたびっくり!!～	12.26～ 29、H25.1. 3～7	9	2,800	3,177	2,736	86.1	
中西俊博 Leapingbow 2013 「Reel's Trip ～踊る大地～」	2.15～17	2	5,500	572	469	82.0	
はじめてのコンサート音楽って楽しいんだよ♪	2.17	1	招待公演	301	270	89.7	
青山演劇 LABO #006 柿喰う客 女体シェイクスピア 003 「発情ジュリアスシーザー」 (提携: 劇団柿食う客)	2.18～3.3	15	一般 4,800／発情アリーナ= 5,800 ／乱痴気公演= 4,800／ガールズ ナイト: 女性= 4,300、男性= 8,100、学生= 2,500、高校生 以下= 1,500、前売は各 500 引き	4,402	2,970	67.5	
TOKYO DANCE TODAY #8 「ASLEEP TO THE WORLD」	3.4～10	4	4,200 (前売=3,700)／※3.9 のみ 3歳～高校生= 2,000	842	556	66.0	
(自主・提携公演 小計)	13 件	156 日	141		38,548	31,700	82.2
〈内部利用〉 第27回子どもの城マタニティ・コンサート ～竹村淨子 愛のピアノ～	(日) 9.1・2	(回) 1	(円) 無料 (応募制招待)	(人) 282	(人) 201	(%) 71.3	小児 保健
こどもたちからのサウンドメッセージ ～Now Let's Sing～／～みんな音楽家～	H25.3.22 ～24	5	1,500	1,340	1,018	76.0	音楽
(内部利用 小計)	2 件	5 日	6		1,622	1,219	75.2

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈貸し館〉 OFFICE 冒険物語プロデュース No.39 劇団冒険俱楽部公演「名探偵・蘭光太郎 「朝に別れのギムレットを」 (OFFICE 冒険物語)	4.2～8	6	4,500	1,104	767	69.5	
「妃衣子コンサート」～また会いたくなりました～ (矢沢妃衣子)	4.9	1	7,500	204	182	89.2	
「杉真理・村田和人・fulare-pad」 それはおいしい三ツ星ライブ (トウモローハウス)	4.11	1	4,500	152	127	83.6	
平原慎太郎 ダブルヘッダー ソロダンス公演「NOCON ノーコン」 (平原慎太郎)	4.13・14	2	3,500(前売=3,000)／昼夜 通し券=5,000／小学生～高校生=1,500／学生=2,000	664	620	93.4	
東京豪華 Vol.15 「ほたるのいた夏」 (東京豪華)	5.1～6	6	6,000 (前売= 5,500)	1,356	597	44.0	
BS-TBS 五月ステージ (BS-TBS)	5.15～19	7	4,800 (前売= 5,250)	2,510	1,499	59.7	
Hystric・D・Band Vol.02 「神様の観覧車」 (LDH／ネルケプランニング)	6.4～17	16	7,000	4,108	3,298	80.3	
アキコ・カンダ ダンスカンパニー公演 2012 アキコカンダ追悼 「おもかげ」 (アキコカンダ事務所)	6.28～29	3	5,250	516	498	96.5	
劇団ステージドア 第 21 回公演 「今夜はホテルエミリアで」(ステージドア)	6.30～7.1	3	3,000	942	874	92.8	
Post Theater 「Heavenly Bento」 (ジェイクリップ)	7.2～8	8	5,500	2,568	1,841	71.7	
下村由理恵バレエリサイタル (下村由理恵)	7.9～11	2	6,500 (前売= 6,000)	592	572	96.6	
PRODUCE UNIT JOE Company 「ドメスティック・パレード」 (ジョーカンパニー)	7.12～22	14	5,000	4,598	3,273	71.2	
叔母との旅 (シスカンパニー)	7.30～8.15	18	6,000	6,066	5,891	97.1	
「bump.y Happy Party」 ～夏祭りだ！ファン感謝 Day～ (キヨードー東京)	8.17	2	4,000	592	420	71.0	
「Foresutrie 翼 Concert」 ヴァイオリニスト -Rie- によるファミリーコンサート(キッズエンタテインメント)	8.18	2	大人= 6,000／子ども= 1,000	472	377	79.8	
「バイクの日」スマイル・オン 2012 バイク・カフェ トークショー(企画部)	8.19	1	無料	207	178	86.0	経営企画
扉座・RAYNET プロデュース 「オリヴィアを聴きながら」(レイネット)	8.20～31	14	6,500 (前売= 6,000)／ 学生= 4,000	3,955	3,060	77.4	
戸田恵子 LIVE SHOW「ACTRESS」 －ROUTE 55－ (ネルケプランニング)	9.18～23	6	7,500 (プレゼント付)	1,684	1,320	78.4	
BS-TBS 収穫祭 (BS-TBS)	11.12～25	26	5,000 (14日4,500／21日 4,000)	7,974	4,681	58.7	
「松本梨香 LIVE」ぼくたちの地球まんまる革命 (サンミュージック)	12.1・2	3	5,800 (前売= 4,800)	822	787	95.7	
Rhythm Moving yampa vol.3 (yampa)	H25.2.11	1	3,000	278	261	93.9	
ぶつ壊したい世界 (劇団チームオダック)	3.11～20	1	3,000	316	304	96.2	
(貸し館 小計) 22 件	126 日	143		41,680	31,427	75.4	
(青山円形劇場 合計)	37 件	287 日	290	81,850	64,346	78.6	

## □□□ その他 □□□

## ■■■ 青山パフォーミング・アーツ・セミナー 2012 (APAS) など ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダンスワークショップ	(人) 一般 20	(人) 12	9.28 15:00～17:00	1 日ワークショップ／講師＝アルカディ・ザイディス（イスラエル）／受講料 2,500 円／青山劇場リハーサル室
"	小学3年～20	8	9.29 13:30～15:00	子どもワークショップ／講師＝ヨンスン・チョ・ジャケ（スイス）／受講料無料／青山劇場リハーサル室
"	一般 20	8	9.29・30 11:00～13:00	2 日連続ワークショップ／講師＝ナセラ・ベラザ（フランス）／受講料 4,500 円／青山劇場リハーサル室
"	小学3年～20	5	9.30 13:30～15:00	子どもワークショップ／講師＝ダリラ・ベラザ（フランス）／受講料無料／青山劇場リハーサル室
"	一般 20	22	10.2・3 11:00～13:00	2 日連続ワークショップ／講師＝ヤスミン・ゴデール（イスラエル）／受講料 4,500 円／青山劇場リハーサル室
"	小学3年～20	4	10.6 11:00～12:30	子どもワークショップ／講師＝平敷秀人（スイス・日本）／受講料無料／青山劇場リハーサル室
"	小学3年～20	4	10.7 11:00～12:30	子どもワークショップ／講師＝ジェコ・シオンポン（インドネシア）／受講料無料／青山劇場リハーサル室
"	一般 20	6	10.8 11:00～13:00	1 日ワークショップ／講師＝チエ・チンハン（韓国）／受講料 2,500 円／青山劇場リハーサル室
"	" 20	14	10.9 11:00～13:00	1 日ワークショップ／講師＝マルティン・ナッハバーア（ドイツ）／受講料 2,500 円／青山劇場リハーサル室
"	" 20	11	10.10・11 11:00～13:00	2 日連続ワークショップ／講師＝リア・ロドリゲス（ブラジル）／受講料 4,500 円／青山劇場リハーサル室
屋外パフォーマンス	一般	400	9.29 17:00～	「ロミオとジュリエット」／出演＝カンパニーデラシネラ／無料／子どもの城ピロティー
"	"	計 350	10.7 14:00～ 18:00～	出演＝東京 ELECTROCK STAIRS／無料／子どもの城ピロティー
"	"	計 550	10.8 14:00～ 17:00～	「Bongo Bongo, 9 phases」／出演＝日本女子体育大学 ダンス・プロデュース研究部／無料／子どもの城ピロティー
"	"	180	10.13 13:30～	出演＝ユニセフ「世界手洗いダンス」森山開次 ほか／無料／子どもの城ピロティー
"	"	計 450	10.14 14:00～ 17:00～	出演＝子どもの城児童合唱団／無料／子どもの城ピロティー

## ■■■ 青山劇場プロデュースによるツアー公演 ■■■

名 称	日 時	回数	内 容
月猫えほん音楽会	8.1・2 8.3・4 8.11・12	1 1 1	北九州芸術劇場 中劇場（福岡県北九州市） 滋賀県立芸術劇場びわ湖 中ホール（滋賀県大津市） 米子市文化ホールメインホール（鳥取県米子市）
ア・ラ・カルト 2	12.27～29	1	兵庫県立芸術文化センター 中ホール（兵庫県神戸市）
中西俊博ライブ Reel's Trip	9.27 10.31	1 1	晴れたら空に豆まいて（ライブハウス：代官山） STAR PINE'S CAFÉ（ライブハウス：吉祥寺）

# 経営企画



赤ちゃんのためのスキンケア（主催：花王株）



フィンガーペイント（主催：アイタイム・キッズ）



赤ちゃん大集合 育児情報展示コーナー

## 平成 24 年度の活動

### □□□ 事業の方針 □□□

新たな収入源の確保や経営全体の効率化を推進する目的で新設された部署として2年目となり、部署名を経営企画部に変更した。ホテル、研修室といった従来からの業務も、〔子どもの城〕全体経営のサポートとなるように着実に進めながら、本年度はさらに外部企業との関係を築き、提携事業などを広く実施していくことに主眼を置いた。

### □□□ 事業の概要 □□□

ホテル・研修室・駐車場・売店・自動販売機の管理運営、利用者からの意見・要望などの把握、また利用者統計に関する事項を担当した。また、この部署の開設当初から始まった企業との関係の深まりや、〔子どもの城〕内外の関係者の意見を取り入れるなどにより、〔子どもの城〕の持つさまざまな資源と企業活動を結びつけるという方針が、関連の企業に認知されはじめ、協賛・提携事業の具体化が少しずつ進んでいる。

### ■■■ 企業との提携による新たな事業 ■■■

館内イベントでの企業コーナー貸与、商品名を使ったクイズラリーの開催や育児関連用品のサンプルモニター、また、タレントとの親子交流プログラム実施などをはじめとして、さまざまな取り組みを行った。

さらに、本年度より〔子どもの城〕の「フレンドシップ企業」制度を立ち上げた。これは、子育て関連企業を「フレンドシップ企業」として登録し、〔子どもの城〕の事業と連携し、赤ちゃんのいる家庭や地域での子育てを、さまざまな形で支援することを主眼としたもの。本年度は「ファミリーフェア」や「赤ちゃん大集合」の事業で提携した。これらの活動によって企業との提携事業の収益は、前年度と比べ2倍以上となった。

今後も、企業との提携については、条件整備を進めながら、多くの企業と〔子どもの城〕にとつてより良い提携・協力事業を実施できるように進め、さらにこのような協力関係が、子育て支援をはじめ広く社会貢献につながるようにしたい。

## ■フレンドシップ企業一覧■

持田ヘルスケア(株)／ピジョン(株)／大島椿(株)／マテル・インターナショナル(株)／グリコグループ(江崎グリコ(株)・アイクレオ(株))／(株)明治／和光堂(株)／(株)ケイジェイシー／マイブックプラス／花王(株)／ビーンスターク・スノーオー(株)／(株)赤ちゃんとママ社（平成 25 年 3 月 31 日現在：順不同）

## ■■■ レストランのリニューアルオープン ■■■

【こどもの城】1 階のレストランは、7 月中旬にオープンした。

「カフェ・キャッスル」という名前は、【こどもの城】来館児・者を中心に公募して採用したもので、話題づくりにもなり、今までに無いアプローチで進めることができた。レストランをめざして【こどもの城】に来館する人も見られ、良いスタートがきれた。レストランには、こどもの城ホテルの朝食や研修室のお弁当、パーティーの飲食なども担当してもらい、レストラン関連事業の充実を進めている。

## ■■■ 経営改善のための取り組み ■■■

### 【貸し会議室について】

前年度改装した、10 階の貸し会議室は順調に利用者が増加している。しかし、会議室全体でみると、年度末までの予定の工事が年度初めにずれ込み、利用者に迷惑をかけないようにと設けた売り止めの期間が影響し、年間で定期的に使っていた利用者が抜けてしまうなど、収入低下につながった。インターネット経由での申し込みが、上向いて来ていることが好材料である。

### 【8 階職員食堂の改修】

職員食堂を改修し、夜間を中心にパーティー用として有料貸与を開始した。利用者はまだ少なく、特に初期はパーティー用のメニューが充実せず、打合せを重ね改善をめざしている。

### 【売店のリニューアルオープン】

4 月に廃止した売店のスペースに、外部企業の出店誘致を行い、11 月からこだわりのおもちゃを中心としたお店「アイタイム・キッズ」としてリニューアルオープンを果たした。子どもの施設に相応しいイベントを仕掛けるなども視野に入れ、有効活用を図りたい。

## □□□ まとめ □□□

収入源の柱である研修室の実績は、例年に比べ低調だった。年度当初の落ち込みが年間をとおして回復せず、結果として前年度の売上を下回ることとなった。

一方、【こどもの城】の来館児・者は前年度を上回った。このため、駐車場・自動販売機・売店などの利用者サービス部門は好調を維持した。企業との協賛も進み、またホテルも後半は宿泊者が戻始めたことによって、これらの収益が研修室の減収分を多少ではあるが穴埋める結果となった。

営業収益全体でみた場合、前年度実績と比べ若干下回る程度までに戻ってきてている。次年度以降は、ホテル収入の維持を第一に掲げ、研修室の業績回復とともに、企業との提携事業をより促進させて行きたい。

公益財団法人 児童育成協会



〒 150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1  
TEL 03-3797-5666 (代表) FAX 03-3797-5676  
<http://www.kodomono-shiro.jp/>